THE KEIJO NIPPO

京城日報

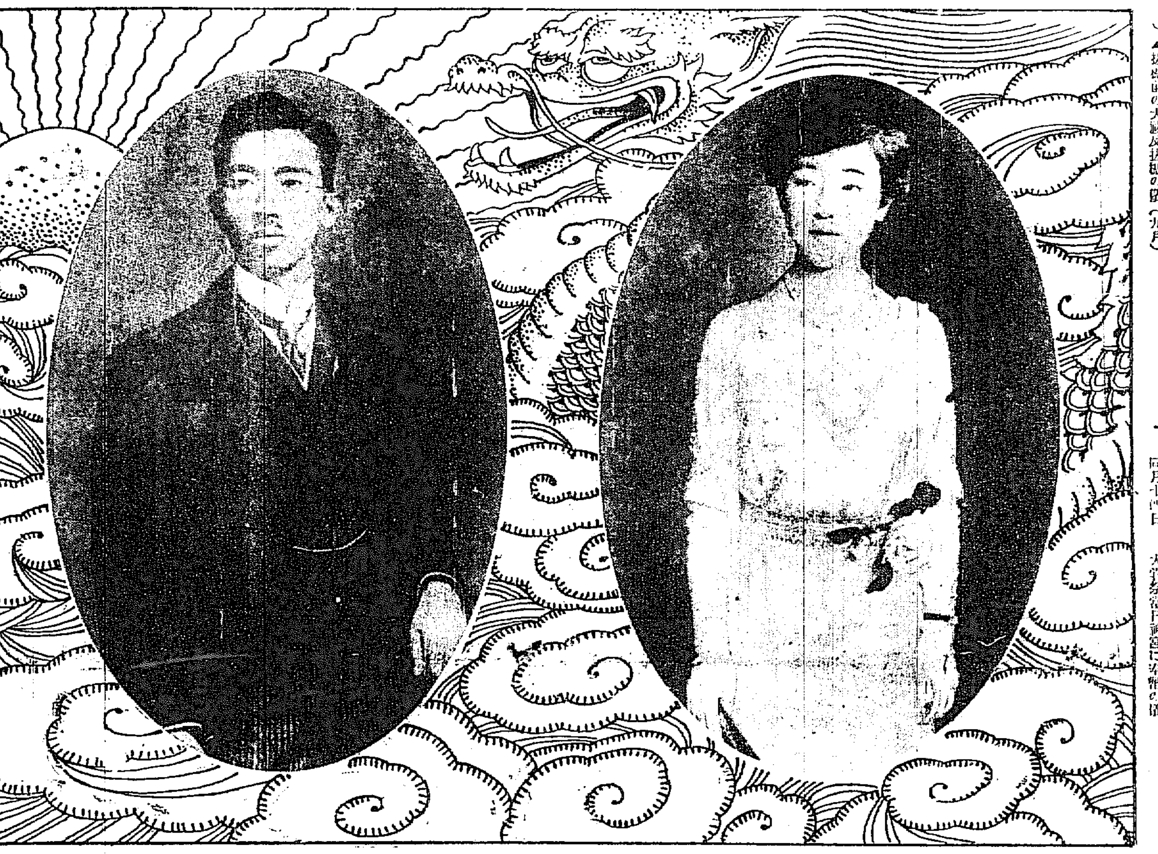
其一

昭和三年を迎ふ

[illegible]一月を迎へ[illegible]昭和二年[illegible]第一年とも申し奉ることが出來るであらう[illegible]御治世は[illegible]晴れやかに發揚せんとする。國民はこぞつて萬歳を三唱し、新日本の前路を祝福して可なりである。

皇統は連綿として天壤と共に窮りない。[illegible]國土に生を享ける者と[illegible]とすることは取りも直さず、國を愛することである。しかして國を愛するとは[illegible]精神的發露でなければならない。忠君愛國の思想は、わが日本國民の傳統的精神であつて[illegible]せんとも、或はこれを眼前の發見なりとしてその國礎を顛覆せんとする傾向なきにあらざれども、國本の動搖を目的とするものには[illegible]ることはない。見よ、明治維新以來六十一年、干支はめぐりて戊辰となつたが、顧れば日本がこの戊辰から戊辰へのあゆみを如何にあゆみ來たつたかを回想するとき、時に惰々然たるものありしといへども、時に挾み[illegible]ものがなかつたと誰がいひうる。政治上の危機、經濟上の危機、なかんづく思想上の危機に[illegible]しはわれ等ひとともに經驗したところではなかつたか、われ等はその當時の[illegible]をつゝしみ[illegible]今なほあからさまに耳朶に聞くを感ずるのである。しかしながら如何なる危機に遭遇しても國民は常に敢然としてこれと戰ひ、しかも常勝の譽を確保し來つたこと、必ずしも外敵と戰つて捷つたばかりではなかつた。しかしてその原因は他なし、國民の間に深く根ざし、固く論議する忠君愛國の思想これであつたのである。われ等が多幸なる未來を翹望して年頭に萬歳を三唱するゆえんのものは、全くわれにこの思想あり、向ふところ敵なからんやとの堅き信念があるからである。

今上陛下、大喪諒闇にわたらせたまふこと申すも畏し、けふ諒闇明け、御即位の大禮をみそなはせらるるに方り、われ等國民は何とはなし氣昇り心の躍るを禁じ能はぬのである。「我國ノ國是ハ日ニ進ムニ在リ日ニ新ニスルニ在リ」とは昭和新政の大詔書、大御心を拜し奉る。あはれ、われ等はここに昭和三年の年頭に際しこの聖詔を二たび三たび口ずさんで、至忠至誠、奉公の誠を[illegible]とせんことみづから心に誓はん哉。



秋に行はせらるる 御即位大典の盛儀

年初よりの宮中御儀式と 御大禮の御日取

諒闇に鎖しこめられた昭和も明けて晴れやかな新春となり、此秋こそいよいよ天皇陛下の御即位式が行はせられるのである。[illegible]御大典の御盛儀を想像する時、われ等國民の心は早くも躍り立ち[illegible]聖壽萬歳を叫ばざるを得ない。[illegible]この昭和三年の新春こそ誠に意義多き限りである。今新春早々より今秋の御大典までに行はせらるる御儀式の數々を謹記すれば左の如くである。▲神宮、神武天皇山陵並に前帝四代の山陵に勅使發遣及奉幣の儀(一月)▲宮中三殿に期日奉告の儀(一月)▲齋田點定の儀(二月)▲拔穗前の大祓及拔穗の儀(九月)

十一月六日 京都に行幸の儀
同月七日 齋田拔穗の儀
同月七日 賢所春興殿に渡御の儀
同月十日 即位禮當日皇靈殿神殿に奉告の儀
同月十日 即位禮當日賢所大前の儀
同月十日 即位禮當日紫宸殿の儀
同月十一日 即位禮後一日賢所に御神樂の儀
同月十三日 神宮皇靈殿神殿並に官國幣社に勅使發遣の儀
同月十四日 大嘗祭前一日鎭魂の儀
同月十四日 大嘗祭當日神宮に奉幣の儀
同月十四日 悠紀殿供饌の儀
同月十六日 主基殿供饌の儀
同月十七日 即位禮及大嘗祭後大饗第一日の儀
同月十七日 即位禮及大嘗祭後大饗第二日の儀
同月廿一日、廿二日 即位禮及大嘗祭後大饗夜宴の儀
同月廿三日 即位禮及大嘗祭後神宮に親謁の儀
同月廿四日 即位禮及大嘗祭後神武天皇山陵に親謁の儀
同月廿五日 同上、明治天皇山陵に親謁の儀
同月廿六日 同上、孝明仁孝兩天皇山陵に親謁の儀
同月廿七日 東京に還幸の儀
同月廿八日 賢所溫明殿に還御の儀
同月廿九日 東京還幸後賢所御神樂の儀
同月廿九日 還幸後皇靈殿神殿に親謁の儀
同月三十日 宮中三殿の御祭殿
多摩陵親謁の儀

雲上の元旦 御儀式

昭和三年諒闇明けの元旦は旭光うらゝかに新らしき御代の喜びに明けた。宮中ではこの輝かしき新年を迎へさせられ、萬事、古式によつてもろもろの御儀式を擧げさせられる。

四方拜 (一月一日午前五時半から)

聖上陛下にはこの朝未明に御起床、御潔身の後、午前五時半賢所御拜殿に御出御、御手水、御劍、御璽を捧持せる侍從に扈從せしめ、黄櫨染の御袍に御服御、午前五時三十分九條掌典長の御先導にて御設けの御座に出御あらせられ、御默禱しばししろしめす伊勢大廟をはじめ明治神宮、多摩の山陵と四方を御拜遊ばさる。霜は眞ッ白に冷いが御拜の御座からは一陣の瑞氣が立ち上るかに拜さる。かくて陛下には四方の御拜を終らせられ、昭和最初の四方拜の御儀をおはらせらる。

歳旦祭 (一月元旦四方拜に引續く)

聖上陛下が四方拜の御儀を終らせられると、午前六時九條掌典長は宮中賢所、皇靈殿、神殿の三殿に祝詞を奏し、天皇陛下には黒田侍從を差遣はされ代拜玉串を捧げさせ給ひて、こゝに目出度く歳旦祭を終らせらる。

朝賀の儀 (一月一日午前九時半)

四方拜、歳旦祭の御儀をおはらせられた聖上陛下には、皇后陛下お揃ひに臨御、[illegible]親王殿下お揃ひにて新らしき年の御朝賀の御儀につかせられ、御少憩の御暇もなく内陣をとゝのへさせられ、ローブ、デ、コルテの御盛裝まばゆきばかりの皇后陛下と御同乘、陸軍大禮服の御盛裝にて午前九時赤坂離宮御出門、珍田侍從長、奈良武官長、河井皇后宮大夫以下の供奉員を從へさせられ、第一公式鹵簿にて宮城に入御あらせられ、九時三十分大廣間に出御あらせられ、秩父宮[illegible]宮妃殿下各皇族殿下を始め、牧野內府、一木宮相以下宮內高官連に列の拜賀を受けさせられた後、各皇族、珍田侍從長以下を從へ、皇后陛下には長々と引かせられたる御裳を濃紫のベルベット服に黒エナメルの靴を穿つた可憐な[illegible]院公達左右二名づゝに捧持せしめ同じ御姿の各皇族妃殿下を從へさせられて玉歩おごそかに正殿に出御あらせらる。

正殿には右に天皇陛下、左に皇后陛下の御座あり、右方には各皇族殿下を初め奉り各宮內高官參列し、左方には各皇族妃殿下を初め各女官參列し、親任官、公爵、從一位以下外國大公使、同夫人、午前十一時より外國大公使、同夫人、[illegible]より拜賀を受けさせられ、こゝに昭和最初の參賀第一日を目出度く終らせられる。

新年と李王家 本年は賀宴なし

王殿下御滯歐中とて

諒闇明けの新春である。例年ならば李王殿下には奏任官以上の職員並に御親戚、朝鮮貴族の祝賀を受けさせられ、昌德宮に於いて大賀宴をお開きになるが、今年は御滯歐中のことゝてそれ等の御儀はなく、たゞ李王職では一日午前九時判任官以上の職員一同仁政殿東行閣に參集、篠田長官は先帝御一年祭參列の爲東上中につき、末松次官代理が賀詞を捧呈すれば、次官代理は直にこの賀詞を歐洲の王殿下および王妃殿下に電送しこゝに式を終るのである。高等官一同はそれより樂善齋の尹大妃殿下に伺候し、次官代理より新年の祝詞を大妃殿下に言上するはずで、王家並に李鍝、李鍵兩公家においても何事も行はせられない。御諒闇中の德惠姬樣は御生母の福寧堂とにあつてつゝましやかに新年を迎へさせられるが、二日御對面御出發の御豫定である。

大禮の諸儀 (一)

掌典 星野輝興氏談話

星野掌典は宮內省切つての式典通で、特に大禮儀に關しては二十年の永きに亘つて研讃を積まれ、宮內省の生字引として居る。以下の原稿は氏が近く大禮に關する諸儀式の解釋を刊行して廣く國民に頒たんとするに當り、畏き大禮を前に、特に大禮の大要に就て談話を請ふた次第である。

これに大禮といふのは皇室典範および登極令に規定されて居る即位禮および大嘗祭とを併せ稱するもので、二つながらに御一代のうちたゞ一たび行はれるところの最大儀典であることは普く知る通りであります。以下今回の大禮の順序を列記し、これを大禮前儀と大禮本儀と大禮後儀とにわけ、それによつて順次解說致しませう。

大禮前儀

奉告の儀

◇宮中三殿に期日奉告の儀(一月中旬)◇

宮中の三殿とは即ち神鏡その物である賢所と、神武天皇以來百二十三代の神靈を祭る皇靈殿と、天神地祇八百萬神を祭る神殿のことでありますが、さてこの儀は一月中旬大禮の期日が御治定になつて、今秋の十一月十日に即位の禮を擧げ十四日に大嘗祭を行はせらるゝことに決定すると、その旨を一般に公表すると同時に右の三殿に期日を奉告遊ばされると共に、恙なくこの期日に即位の禮が終了出來ます樣にとの御祈りを遊ばさるのであります。

この日天皇陛下には黄櫨染御袍の御束帶、皇后陛下には御五衣に御小袿、御長袴の御服裝で三殿に御拜禮になつて、天皇陛下から期日に即位禮および大嘗祭を行はせらるゝ旨の御祭文を賢所に向つて奏し給ふのであります。

奉幣の儀

◇神宮、神武天皇山陵並に前帝四代の山陵に勅使を遣し奉幣の儀(一月中旬)◇

この儀は即ち午前中に宮中三殿に期日奉告の儀をすまされてから宮中の鳳凰の間で行はせられる儀でありますが、その意義は宮中三殿における同意味であつて、天皇御自身で行幸遊ばさるゝのが正しいのでありますが、諒闇の事情上それも出來兼ねるので、伊勢の神宮、神武天皇山陵、前帝四代の山陵に勅使が差遣されることになり、天皇陛下には御引直衣といふ純然たる御祭の時の御服裝で御出ましになり、勅使の幣物を前に御奉拜されましたがこの場合の御趣旨が勅使を通じて神宮並に山陵にといふことになる儀のように拜せられます。

頃意は右申しました通りでありますが、御式の模式は、天皇陛下には各山陵御供物を拜禮の後先づ神宮勅使を御前に御召しになり、一木宮內大臣を經て御祭文を御授になりまして其の時、「能く申して來れ」と云ふ勅語があり奉幣用の幣物が授けられます、それから神武天皇勅使、大正天皇勅使、外三常山陵勅使但し「能く申して來れ」の勅語は神宮勅使だけでありまして、それが終ると勅使は即刻出發するのであります。

特に前帝四代の山陵に奉告奉幣あらせらるゝ所以は、或は百世にして親遠くといふ意に關係があるものかに拜せられるものでありまして、倘其の威靈に倚賴せらるることが尤も多いからであります。

神宮と申すのは勿論伊勢大神宮のことであり、神武天皇山陵は奈良縣畝傍白橿村大字洞にある畝傍山陵であり、前帝四代の山陵中、大正天皇山陵は今度はじめて新陵令によつて陵墓の地に陵墓を御治定になつた最初の御陵である東京府[illegible]、明治天皇山陵は京都府伏見桃山陵、孝明天皇山陵は後月輪東山陵、仁孝天皇山陵は後月輪陵と稱し、共に京都市下京區今熊野泉涌寺內にあります。(つゞく)

本日二十頁

新年所感

內閣總理大臣 男爵 田中義一

昭和三年の新春を迎へ謹んで賀詞の意を表します。

今年は今上天皇陛下御即位の大典を擧げさせらるゝ年でありまして誠に御目出度き意義ある年であります。私は此の御目出度き意義ある新年を迎へ國民と共に皇室の御繁榮と國家の隆昌とを祈るのみならず締盟各國との交誼益々親密を加へん事を希望して已まぬのであります。而して新春を迎ふるに當り國政上私の先づ考ふる處は國家の進運に伴ふ積極的施設、經濟界の恢復及び普通選擧の實施であります。

政府は國家の進運に必要なる經費は財政の許す範圍に於て昭和三年度豫算に計上今期議會の協贊を經て實施する外、吾々が多年主張して來ました地租の地方移讓に關する法案も今期議會に提出、議會の協贊を經て地方自治體に獨立の財源を與へて地方分權の實を擧げる考へであります。諸君に於ても普く當局者の施設に對し協贊の意を表さるる事と期待して居ります。

經濟界は昨春の銀行の大取付けに依り、多くの休業銀行を出しその大部分は大體の整理案を得て整理を爲しつゝ又は既に整理完了したものもありますが、中には未だ整理案すら得る事の出來ないものもあります。故に一日も速かに此の休業銀行の整理を完了して、經濟界の立て直しをしなければならないのであります。例を擧げて言へば現在の經濟界は泥まみれの荷物を積んだまゝで居るか又は未だ拭へ切れない傷口の樣なものであります。此の泥まみれの荷物も傷口も其儘にして置けば表面はよくなつた樣でも傷は益々深くなつて容易に全治する事が出來ません。故に此の銀行界の大取付けを機會に禍を轉じて福となすため經濟界の根本的整理を遂げ、根本的に立て直し卽ち泥は立派に洗ひ落し、傷は根本的手術をなして充分に療治をなして、一面に財界の安定を計り銀行取付けの爲めに失つた我が日本帝國經濟界の國際的信用を恢復しなければならないのであります。

それから今年は普通選擧法が始めて衆議院議員の選擧に實施せらるる年であります。尤も普通選擧法は既に昨年縣會議員の選擧で試驗を經て相當の成績を擧げて居るのでありますが、衆議院議員の選擧に適用されるのは來る總選擧が始めてでありますから、此の選擧に對して政府は普選の主旨を充分に發揮し得る樣、公平にして嚴正なる選擧を行ひ、國民の期待に副ふ意志であります。

終りに臨みまして私は我が日本帝國は常に國際協調主義を採り世界平和の爲め誠心誠意努力しつゝある事を一言し、同時に諸君の健康と幸福とを祈ります。

春を迎へて

朝鮮總督 山梨半造

瑞氣靄々たる昭和三年の春を迎へさせ乍ら乾坤一新の感がある。畏くも皇室におかせられては益御安泰におはしまし、[illegible]八千萬同胞[illegible]殊に本秋御即位の大禮を行はせたまふので已に[illegible]の氣分國の內外に漲り草木亦欣々たるを覺える。

締盟各國との友交關係は益厚きを加へ、接壤の中華民國は年來の騷亂未だ終熄を見るに至らず形勢混沌たるを免れぬけれども、善隣の誼に於て何等憂ふるところがない。

我國の財界は比年不況の餘を承け殆んど沈衰を極めたが、國民堅忍克く此の間の試練に耐へ、貿易其の他諸般の材料は漸く機運好轉の兆を示し必ずしも憂ふるに足らぬと思はれる。

自分は新に朝鮮總督の大命を拜し赴任したばかりのことゝて未だ朝鮮の實情を審にする暇がないが、併合以來十有九年、官民各位の間斷なき努力が漸く報いられ、今や朝鮮統治各般の施設が着々として其の効果を收めつゝある狀況を見洵に同慶に堪へない。しかし朝鮮統治は國家百年の長計であつて、此の大業を全うせんが爲には更に官民各位の一段の努力を望まざるを得ないのである。就ては自分も極力既定計畫の完成に將又時運に關聯する諸般の新企畫に最善を盡して統治の實績を擧げんことを期するが、凡そ諸般の施設は獨り官廳の力のみで其の功を成し得らるるものでなく、官民の協調殊に民間の自奮自營に俟つものが多いのである。宜しく時勢に目醒めて統治の大策を翼贊せられたいのである。

茲に希望多き新年に當りて至誠精勵一段の奮勵を要望し、進みて現代を知し來り、皇國の繁榮えに榮えんことを禱る次第である。

新年所感

宮內大臣 一木喜德郞

昭和三年は諒闇明けて始めての新年であつて、特に年內には御即位の大禮を擧げさせらるゝ御豫定なれば、我國民は其の國內に在ると其の海外に在るとを問はず、此の上もなき目出度き新年を迎へたる次第である。

惟ふに我國民が明治初年始めて海外渡航を企てゝより茲に約五十年、或は東に或は西に各般の事業に從事し、種々の困難に遭遇しよく今日の地位を贏ち得たるは在外諸氏の堅忍不拔の精神の致すところであつて感嘆禁ずる能はざるところである。思ふに人類は互に相依り相扶けて其の共同の生活を遂ぐべき運命の下に置かれたるものなれば、協和親愛の情を人類生活の基調とせなければならぬ。

聖上陛下に於かせられては皇祖考の御遺訓、皇考の御遺志を紹述遊ばせらるゝに、常に大御心を注がせ給ひ御踐祚後朝見式の勅語中に

「汎ク一視同仁ノ化ヲ宣ヘ永ク四海同胞ノ誼ヲ敦クセンコト是レ朕カ軫念最モ切ナル所」

と仰せ出されたのであつて、聖旨深遠國民の夙夜服膺すべき所と拜惟するのである。

我國と締盟各國との交際親善に關しては政府當局に於て適正に處置の手段を盡さるべきも、特に各國民に直接接觸する諸氏に待つ所のもの大なるべきを信ずるのである。諸氏は今後一層の勇猛心を以て其の己を持する正直、其の人に對する親愛、其の務に服する勤勉なる我國民性を發揮し、左提右挈世界の平和を促進する上に大いに貢獻する所ありて以て聖旨に副ひ奉らむこと翹望に堪へざる次第である。

天地無私春又歸

半山人

○……山梨總督試筆

動題「山色新」……(廿八日の大雪を冒し北漢山に登山して撮す、岡野生)

記念すべき昭和三年

明けた昭和三年は明治の六十一年、戊辰の還暦である。丁度明治元年が戊辰の歳で、彼の有名な戊辰の役があつた年である。然して國民の遵奉すべき忘るべからざる戊辰の詔書を下し給ふたのも又戊辰の歳である。然して明けた本年は即ちその戊辰の歳である。これだけでもすでに頗る記念すべき年である。況して昨春は今上陛下が踐祚された初の新年であつたが申すも畏れ多いことながら先帝の大喪に遇ひ、昨年殆ど一年は上は皇室より下萬民に至るまで、その大喪に服し、諒闇の謹慎を續けたのである。目出たく諒闇の年は明けて洽潮たる昭和新政の光輝に浴し得たるも、つひ一週間以前である。然し明けたこの新年は始めて新帝陛下が踐祚の『眞に新年らしき新年』である。これを國民側からいへば、とりも直さず昭和新政の最初の『眞に新年らしき新年』である。最も意義深長なるはいふまでもない。然してまた本年は今上陛下御即位の大典を擧げさせらるゝ千古稀有の光輝ある年である。記念すべき年にあらずして何か。更に況んや昭和三年は明治三年に相當する。明治三年は廢藩置縣の詔書を下されて政令歸一の端を開かれ、數百年來の因襲を破られて、王政復古の宏謨を徹底された年である。これを内地についていへば、本年は普通選擧制度の實施さるゝ年であり、陪審制度の施行さるゝ年である。留り經濟的に進取邁進すべき年であるばかりでなく、これを政治的に見ても最も意義ある記念すべき年たるに相違ない。

頗る意義深き年

民政黨顧問 貴族院議員 武富時敏

昭和三年は明治六十一年に當たる戊辰の還暦で、誠に目出度い年である。丁度明治元年が戊辰で、彼の有名な戊辰の役があつたし、又後くる戊辰の詔書もこの戊辰の年に賜はつたものでこれ等の意味よりしても本年は頗る記念すべき年である。まして今秋には今上陛下

◇…御即位 の大典を擧げさせ給ふにおいては、われ〳〵日本國民として、殊更に擧げて慶祝を當中すべき年である。

支那の孔子は論語に五十にして天命を知り六十にして耳順したがふといつたが、この耳したがふとは理非曲直を何も聞きわけることである。又七十にして心の欲する處に從つて矩をこえずといつたが、これは孔子さんにしてはじめて出來る事だ、われ〳〵凡人の到底およぶ所ではない。われ〳〵は二十になつても若し心の欲する所に從つたら、いつも、のりをこへ通しである。年といへば大養、大石の兩翁や高田早苗は四つ五つ少い人間も四十五十は働き盛りで我輩等もその頃は徹夜で勉強しても何ともなかつたが、近頃ではそんな譯には行かぬ。老人にとり一年といふ歳月は

◇…非常に 大事なものであるか、さてふりかへつて見れば何をしたか解らぬ裡に一年位過ぎてしまふものだ。たゞ忙はしく立働いてをればいくらか長い感じはするが、さりとて徒らにあくせくとしてゐるのも一向感心しないのである。大變の集まりにはあまり出かけぬが、もう議會もはじまつたからこれから時々出かくる事としやう。

政界の不景氣は大分ひどいやうであるが、この春になつたら議會の解散か何とか出鱈が付きさうな氣もいくらか漂つて來るであらう。議會の解散非解散いづれに拘らず、近く總選擧の總選擧は絶ぬが、これは不景氣の問題とは別で、たゞ二三千萬圓の金がまかれるに過ぎない。

第五十四議會も案外早く

◇…解散に なるであらうとの觀測が強いやうであるが、政府の態度を詳るなら少しでも早く解散をやつて、總選擧を行ふことが無上の得策だ。日本も普選になつたとはいへ、まだ國民の政治教育も普及せず、自覺もたりないところが多いから何といつても政府黨の方が有利だ。政府が假へ積極的に干渉や買收を行はないにしても、鐵道や道路や或は郵便局、學校所まででつくつてやるやうにほのめかせば、選擧民は政府黨に投票を傾くるやうにして來るではないか。まるで選擧の雰圍氣がつくやうに寄つてたかつて、政府黨へ持ち上げてくる。こんな風では我政界の更新も前途遼遠である

國民自覺の年

内務大臣 鈴木喜三郎

こゝに昭和三年の新春を迎へまして、聖上陛下の御稜威の下に萬歳の新しき光を仰ぐのでありますが、殊に本年は十一月を以て御即位の大禮並に大嘗祭を擧行せらるゝのであります。

◇…御盛儀 でありまして、國民のひとしく聖慮に奉じて嬉しくお迎へ申す所であります。大禮の御儀は一つに帝國臣民の渇仰とせらるゝや大禮であります。これが儀式については畏くも千歳一遇の大典に際して眞に忠誠の至をいたさんことを期待して止まない次第であります。

今度行はるゝ衆議院議員の總選擧は實に普通選擧制による第一回の總選擧であつて、選擧有權者の如きは前回の總選擧の際には三百余萬人に過ぎなかつたものが、一躍してその四倍の一千三百余萬人に増加し、全國人口の約五分の一に當たる多數の國民が選擧に與はることになるので、誠に國を擧げての一大壯擧といつてもよろしいのであります。回顧しますれば明治二十三年初めて行はれました第一回の

◇…總選擧 の際は、選擧人の如き僅かに四十萬人に過ぎなかつたのでありますが、爾來選擧權は漸次擴張せられ遂に今日の普通選擧を實施するまでに進んで來たので、これは即ち我憲政の推移と國民の政治思想の向上とによる我憲政の進歩發達を證するものであります。今回の普選第一回の總選擧は我國憲政史上特に意義深い選擧で、諒闇明けの昭和の新政に當たつてこの意義深い選擧を行ふといふことは國民の最も銘記すべき重大なることゝ思ひます。昨秋殆ど全國にわたつて行はれました府縣會議員の總選擧は、いはゆる普選によりて行はれた我國最初の選擧であつてその成績如何は内外の注視する所でありましたが、大體において良好の結果を示しまして、普通選擧が我國に適應するものなることを事實によつて證明したのであります。然しながらこの府縣會議員選擧は

◇…言はゞ 來るべき衆議院議員總選擧の一つの試練であつて、その實績に鑑みて後は一層の努力を要すべき余地があると考へるのであります。いふまでもなく選擧は國家の盛衰に重大なる關係がありまして、國民は之を行使するに當たりては國民の義務として公正に行ふべき重大なる責務を負つてゐるのであります。國民は國家將來の爲に國民を擧げてその責務を盡くされんことを期待する次第であります。

又地方自治體の權限を擴充して徐々に自治獨立の風をおこすことおよびその財源を確立して自治體の基礎を鞏固ならしむることは普通選擧制の實行と相まつて眞に地方自治の完成を期するゆゑんであると信ずるのであります。即ちこの必要に應ずる爲には、一面において地方議會の權限を擴張し、又地方自治體に對する國家の監督方法を改善致します等自治機能の整備を計りますと共に、一面財源の確立を期する爲には、地租を

◇…地方に 移讓しなほこれに伴ひまして地方税制の整理をとげ國民負擔の輕減適正を期することが、殊に緊要であると存ずるのであります。國運の興隆を期するのでありますれば、いふまでもなく地方自治の健全なる發達をとげざるべからざるは論を待たぬことであります。こゝに昭和新政の第三年を迎へますに當たり、相共に最善の努力を竭くして報效の萬一を期したいと存じます。

遽しい暮の驛頭で兩巨頭の會見――(京城驛にて)

(右)露國訪問の使より歸つた久原房之助氏 (左)歳末に歸路を急ぐ山本滿鐵社長

マルクス信奉國にこの面白い現象

露國は經濟的に大分回復して來た樣子

◇―久原房之助氏歸朝途中語る

去る十月露國に派せられた久原房之助氏は隨行の隨員伴野騎文吉明、瀧澤ニューヨーク總領事と共に卅日午前九時五十分着列車で着京、折柄京城より歸任の途にある山本滿鐵社長と約十分會談、打合の後、同十時十分發列車で一路歸朝の途についたが、車中に氏を訪ふと訪露の目的に關しては一切口を緘して左の如く語る

ロシアは私は初旅の土地で、而も革命直後でないだけにその施設なり、組織なりに、どれだけの理論が、いかに實行されてゐるかを見るに恰好の時期であり、かなりの興味をもつて出掛けました。

御存じの通りこの十一月で 革命も滿十年を經過してゐますが、私の見る所では經濟狀態もかなり回復してゐる樣に思はれました。革命前、即ち一九一三年から四年頃に比較してみると今日では約百ペーセント内外に復活してゐる。外國貿易はまだ二割見當しか恢復してゐないが、少くとも内國經濟は殆ど恢復してゐる樣に思はれる物價もモスコーなど目抜きの通りのヨーロッパの巴里、ロンドン、ベルリン等に比較すれば二流位にしか評價出來ないが、人の服裝などはなか〳〵立派なのには驚きました。例へば流行のものなども、ヨーロッパとさう格段の差別があるとは思はれない。要するに、今までの十年は破壞から建設の時代であつたので、漸く一つのレベルに追ひついた今が建設の時代だらうと思ふ現在ロシアでは、しきりに貯金の奬勵をやつて、街の到る所に貯金をせよのポスターが掲げられてゐる。この樣な貯金をしたものには、富くじの賞金が當るのであるが、一定時期に抽籤で當るのであるが、貯金の利息も八分といふ高利で、その上賞金が當ると、一躍ブルジョアになるといふ仕掛である。これは

甚だ面白い現象だと思つた マルクスの經濟學說の根本主義は利息を否定してゐるが、それを信奉するこの國に利息を認め、而もかうして一般信用經濟の發達を圖らうとしてゐるのは甚だおかしなわけで地下でマルクスは苦笑してゐるだらうと思ふが、これは國家の財政が疲弊してゐるので、その資金に貯金を奬勵して金を集める手段に外ならないのであります。ロシア自らに云はせると、帝國主義國家の最近だといふてゐるが、私の見た所では、社會主義理論の實際報告だと思ふ。私は、露西亞の外に、ドイツ、フランス、イタリーなども視察しましたが、ドイツは所謂『經濟の合理化』といふ奴で、即ちドイツ式に着々と施設をしてをります。これらも矢張り、ロシアはプロレタリア獨裁で、同じ革命國でも政黨の存在を根本から否定してゐるので反對派といふ奴を彈壓して之に同政權の内部に於て少しその勢力を見せてゐる。ドイツはさうでないので、かうした着々とした復興、再建があるのではないかと思ひます。

伊太利は正にムツソリーニ 獨裁で而もムツソリーニの眼の黑い間は、斷として彼の勢力の搖ぎもありますまい、そして、依然たる調子で、進むのでせう。向ロシアには著るしく放浪して居る子供が多いので目につきました、一九一九年のウオルガ地方の大饑饉、歐洲戰爭、ロシア革命の内亂等で親子離散したゝめでせうが、これらの救濟施設もかなり努力して行はれてゐます

伊藤文吉男 伊藤文吉男は、殆ど久原氏と同樣の意見を述べてドイツの復興力を稱讚したのち

在滿朝鮮人の生活安定が最も急務

◇―山本滿鐵社長談

山本滿鐵社長は大連へ歸任の途、廿九日午前八時五十分京城着、隨員には總務代理佐光秘書官、齋藤總務局長、鐵道局長山田、井手長谷川御用掛がより朝鮮ホテルに入り、正午から山梨朝鮮總督招待の官邸における午餐會に臨んだ、同午餐會には金谷軍司令官、湯淺政務總監、松井大藏局長等も出席し、滿鐵と朝鮮における重大な事項を懇談したもので時局柄世人の注意をひいた山本社長は訪問の記者に語る

國際關係の事や政策上の事は此際成るべく話を避けたい

在滿朝鮮人壓迫 問題は私は東京にあつて單に新聞によつて一部を知つたのみで實際の狀況を知らぬから何とも言へぬが目下政府當局と支那側と正式に交渉中だから近く圓滿な解決を見るであらう。朝鮮人壓迫問題は非常に騷ぎが大きくなり大變な騷ぎになつてゐるが如何なる性質のものかは親しく調査して見ねば何とも言明出來ぬ。私としては滿洲にゐる朝鮮人の生活を如何にして安定せしむるかといふ事は在滿朝鮮人問題中の最も急務で、其の一つの方法として在滿朝鮮人本位の特殊な金融機關を設け專ら移住朝鮮人農民のための金融機關たらしめるなど急務中の急務ではないかと思つてゐる

齋藤總領事

費旅の總國社長の『北一世紀』の帝國の北方政策の活躍ありとせば非常に期待するものがあるとしても、シベリア鐵道の旅はどんなものかと人に問はれますが一寸北京から行つたのですが――もつとも疲れてゐませんよ、シベリア線も全く安全で費用も僅かなものですと語つた

齋藤ニューヨーク總領事は『ロシア人は何を欲するか』と題して語る いふことについてかなり無關心である、從つて協定するについても、かなりの日子を要するわけで、向ふの人達が、長びかせるのではないが、だから交渉の衝に當るものは最初からこの點を充分理解して誤解ない樣にする事が必要だ」と今度の一行の訪露の目的が長びいてゐることにつき洩らし「東京へ歸つてもすぐアメリカへは行きません」と語つてゐた

大禮使總裁 以下任命せらる

［東京電報］大禮使官制公布に依り三十日官報號外を以て左の如く大禮使總裁以下仰付けられた、その顔觸れは豫想の通りである。

大勳位功二級 載仁親王
大禮使總裁被仰付

從一位公爵 近衞文麿
大禮使長官被仰付

從二位勳一等男爵 平沼騏一郎

正二位勳一等伯爵 伊東巳代治
大禮使御用掛被仰付

内閣書記官長 鳩山一郎
宮内次官 關屋貞三郎
大禮使次官被仰付

大禮使御用掛男爵 平沼騏一郎
同 伯爵 伊東巳代治
親任官を以て待遇せらる

なほ大禮使參與官は法制局長官前田米藏氏以下二十七名、大禮使事務官は内閣書記官長谷川赳夫氏以下九十六名、それ〴〵任命があつた。

李王殿下羅馬法王と御對談

［ローマ廿八日發電］イタリー御滯在中の李王、同妃兩殿下は廿八日ローマ法王の招待でバチカン宮殿を御訪問、法王と約十分御對談になつた兩殿下御滯歐御中入の際には儀禮を盡くした丁重な待遇があつた

登極令改正

◇―宮内省發表

［東京電報］三十日宮内省發表＝登極令は明治四十二年の制定に係りその後大正天皇御即位の禮および大嘗祭を行はせらるゝに當たり實際に適用せられたり、本令の如き重要なる規定は容易にこれを改むべからざるや論なしといへども之をすでに適用したる經驗に鑑みかつその後時勢の變遷に稽へ同令附式の規定中には實際に適用することが能はざるもの或は補足を要すると認めらるゝものなきにあらざるを以つて明年(元年のこと)大禮を行はせらるゝに當りては規定を改正して實施に妨げなからしむるを要す、よつて典儀の作法儀式實行上の便宜の爲に補へ附式中各所に改正を施したり、主なる事項左の如し

一、賢所春興殿に渡御の儀に於て供饌儀及び御祭詞を奏することにあらため、從來祝詞は常典之を奏したるも掌典長之を奏するに改む

二、即位禮當日賢所大前の儀に於て皇后御服の白色帛たることを明かにしたる外東帶に帶劍せらるることゝその他供奉員の服裝に關する規定を補足す

三、即位禮當日紫宸殿の儀に於て垂帳の後入御のことに改む

四、大嘗祭の儀に於ける大嘗宮の裝飾につき規定し且つ位儀の本位に着くものの服裝の規定を補足す

五、悠紀殿供饌の儀に於ける供奉諸員中侍從長及び御前侍從は帶劍せざることゝし、同儀中陪膳女官の服裝を改む

六、同儀中膳屋にて稻舂を行ふことを明かにす

七、同儀に於て皇太子、親王殿下は本殿に參進せざることに改む

八、即位禮及び大嘗祭後大饗第一日の儀及び第二日の儀に於ける皇后の御服及び參列員中女子の服裝を中禮服とし、大饗第一日の儀の當日各地に於いて饗饌を賜ふべきものの服裝は時に臨み之を定む

九、大饗第二日の儀及大饗夜宴の儀に於ける朝集所は二條離宮に限らず

十、即位禮大嘗祭後神武天皇山陵並に前帝四代山陵に親謁の儀に於ける天皇皇后の御服供奉員の服裝は時に臨み定む

十一、還幸後皇靈殿、神殿に親謁の儀に於て侍從御劍を捧持せしむることとす

大禮使官制

［東京電報］三十日左の大禮使官制が公布された

第一條 大禮使は内閣總理大臣の管理に屬し即位の禮及び大嘗祭に關する事務を掌る

第二條 大禮使に總裁を置く、總裁は皇族の内より之を勅命す

第三條 大禮使に左の職員を置く
長官 一人
次官 二人
參與官 若干人
事務官 若干人
典儀官 若干人
書記 若干人
前項職員の外必要ある時は御用掛を置くこと

第四條 長官は之を勅命す、次官參與官、事務官及び典儀官は内閣總理大臣の奏請に依り内閣に於て之を命ず、御用掛を命ずるとき亦同じ書記は長官之を命ず

第五條 長官は所部の職員を統督し使務を總理す
長官事故ある時は内閣總理大臣の指名する次官其の職務を代理す

第六條 次官は長官を補け使務を掌理す

第七條 參與官は長官の命を承け使務を補く

第八條 事務官は上司の命を承け事務を掌る

第九條 典儀官は上司の命を承け典式を掌る

第十條 書記は上司の指揮を承け庶務及典式に關する事務に從事す

第十一條 官職を有するにより大禮使職員を命ぜられたる者の待遇はその官職につき受くる待遇に依り、その他長官は親任官、次官、參與官は勅任官、事務官は勅任官又は奏任官、典儀官は奏任官、書記は判任官の待遇とす

第十二條 官職を有せるに依り大禮使職員を命ぜられたるもの其の官職を退きたる時は其職を退く

第十三條 使務の處理に關する規定は長官之を定む

附則

本令は公布の日より之を施行す

佛國銀行利下

［パリー廿八日發］フランス銀行は新年を押つまつた廿八日突如歩合を大きさに一パーセント引下げ從前の五パーセントを改めて新歩合を四パーセントと定めた

令兄遂に逝去

湯淺前總監

［東京特電］湯淺前政務總監令兄湯淺氏はかねて病氣療養中のところ廿八日午前八時遂に逝去した…において佛式により執行の筈

孫科氏辭表提出

［上海廿九日發聯合］南京政府財政部長孫科、同次長丁漢平兩氏は廿九日俄に辭表を提出した、その理由は蔣介石、宋子文派が最近政府の命令に從はず公然財政的に獨立的行動を執つたといふにある、因に右兩氏のこの辭職の裏面には某一派の後援ある事の如くにて某一派の成行は國民政府の結束上注目されてゐる

謹賀新年

昭和三年一月元旦

京城日報社員一同

神宮參拜

(三十日) 總數三五三八人、内譯内地人三二六人、朝鮮人二七人、前年總數二六六人

大豆上場復活

［仁川電話］仁川米豆取引所は市場規約改正として大豆の上場を復活すべく取引所の規定改正方を當局に申請中であつたが卅日認可された

日銀帳尻 (三十日)

發行高 [illegible]
限外發行 [illegible]
貸出高 [illegible]

東京コール (三十日)

翌日物	一錢五厘	六厘
無條件	一錢四厘	五厘
普通	一錢四厘	五厘
月越	一錢四厘	五厘

茶話

紙を洗つて原稿用紙に對す▲用紙元來白紙にしてインキを染むるに忍びざるものがある▲窓外は年内より持越しの白皚々▲成らうことならこれも色を染めずに置きたいものである▲が歸省の白紙主義ばかりは昭和新政にあやかつてそろ〳〵とそまりもしやうぞ▲さてその總督府は元旦の爲の試筆に▲尺六のぬめ地緋浪をあざやかにそめたは一天墨無私春又…と▲待てど來り待たねど來る春を祝いて天地に私なきを謳ずる筆者を▲私ありては白紙に人のとがむる色がつき▲いゝ色なら重寶に請いで撤役に打つとも元の白地にしては汲せぬと同じい▲どうせ付けなくてならぬ色となら公明に刷毛を揮して機嫌の節を覗くことだ▲總督に新芽がもゆるとしたら山結末に新芽がもゆるとしたら山色おのづからにして新とならざるを得まい▲悠然として南山を看て春が居る。

謹賀新年

南滿洲鐵道株式會社京城販賣所

京城府水産市場内
京城水産株式會社
京城府錦町内
電話本局一〇七八番

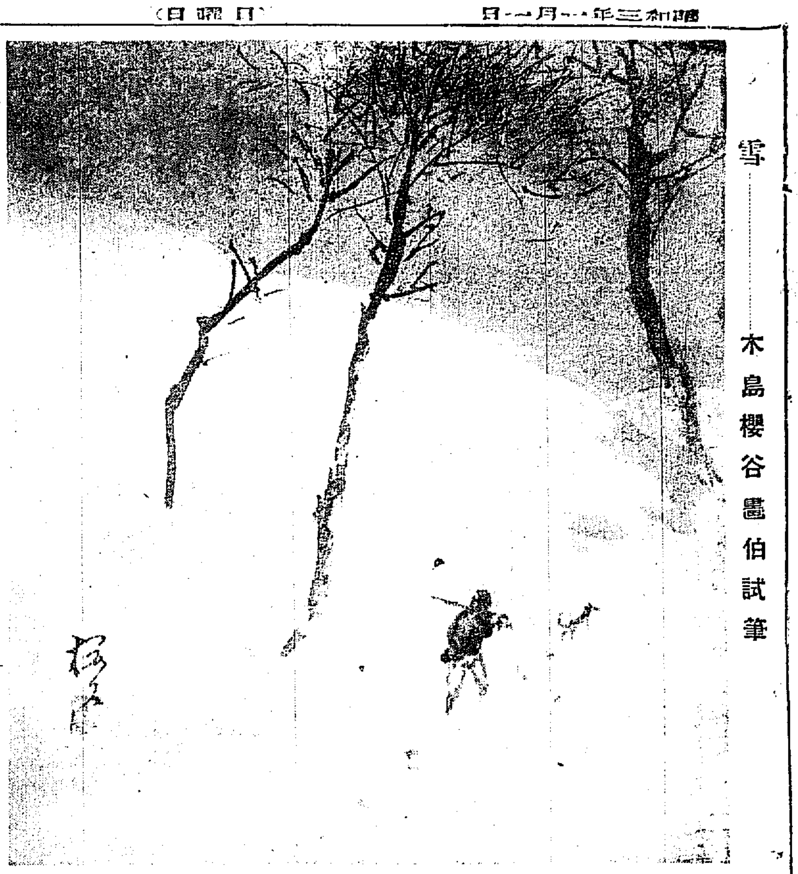
京取市場所屬
仲買人組合員(登錄番號順)
二 大林淺市
三 白井友之助
四 洪殷柱
五 正崎長之助
六 金聽龍
七 古川陸治
八 田中友吉
一〇 京城證券株式會社
一一 成清竹松
一二 松山主計
一六 新田耕市
一七 定岡富二
一八 田中道太郎
二二 金潤秀
二六 白樂三
二九 市川幸次郎

在倉毛布 キズ毛布 特價提供
他に純毛シャツ毛糸類破格提供
滿蒙毛織會社製品販賣所
奉天 合名會社 滿蒙商會
京城出張店
京城本町二丁目
電話本局長二六七三番

京城湯屋組合

謹賀新年
有隣生命保險株式會社
本社 東京市麹町區有樂町一ノ一
朝鮮支部 京城黃金町二ノ一〇〇
電話長本局二〇〇六

雪……木島櫻谷畫伯試筆



冬の朝鮮（一）

知らずや吾等の特權——この壯！この快

とても朝鮮ならでは見られぬ

◦……スキーの巻

ひるは更なり、凍りついた樣な北鮮の山野が、ナツイのやうな鋭いまたゝきを高くみる限りの雪の上に光らせてゐる時、一入の興趣をそゝり、壯快といはんよりは、痛烈な喜びに醉溢するウインタースポーツに心を寄するものに惠まれたわれ等の半島。近くは漢江のドウ・ドウの流れ一夜なる重疊の氷の上に、オーバーの上から、膚の皮から、さすやうにしみる寒さに立つて、或ひは冠山の松林の雪に、或は鴨綠江の氷上に、そうして或は又あい〳〵たる金剛山のらん〳〵たる雪の上に、半島のスケーター、スキーマンが一齊に立つて

躍る壯觀は けだし朝鮮

ならでは斷り見られないものではある。客年の十二月廿八日、五年ぶりの大雪が京城の上を亂舞した時、同じく亂舞する心をおさへてしん〳〵と降る雪を見入る若人のひとみの眼くやうであつたのは、尤もの語。雪が大地に靜止した時リンクの雪をかきわけてスケーテイングの愉悦にひたるもの、登山臨のスロープに一間もある長いスキーを素いて、杖をふりながら滑登の空氣を吸ふて處女雪をすべつて無邊の雪路を拔ける爽快さにふけつてみるもの、雪の舞踊ののちの、人間の亂舞が、こゝろよいばかりに自然の上で行はれてゐたのである。すべりつかれて赤い夕陽の綿白の雪の上に濃くでりだせる頃、スキーを擔に肩を下る心地、きらめく夜を忘れて躍る心地、それらは何れも寒さに惠まれたわれらの特權であらねばならぬ。ペーチカを擁、オンドルにねそべり、煖ガスを吸ふて眠くならんよりは、漢江に走れ、終島臨にゆけ、鴨綠江もあれば、松濤園も待つてゐる、近くは、金剛山に大スキー場あるといふ、そこには、大スキートリンク設置の計畫もあるといふ、そこには

黎明の空氣と太陽の光

が、時に北極星の輝きをみせて待つてゐてくれる。このわれ等の半島に住む幸福を擔へないものは、おのが人生を自らせまくするものだとさへいへる。ペーチカを捨てオンドルを立つて、一歩國境の雪の中に立つてみる、小さな子供や女學生などがりゝしい裝ひでスケートをひつさげてゐるものが視野の大部分を占める、更に北すれば、ごく簡單なスキーや雪杖をかついでゐるものが目に入る、殊に東海岸に面する雪は深さもしめりも恰好である。風も凪ぎ高原靜かな中にふゆ木立をすかして、たゞ紺青の海が純白の世界にうかぶかに見える、深と靜と、相對して地をはさむ、はさまるものはたゞ白く、はさむものはたゞ白い、卒然と、藍と白に伍おほせた宇宙にのて轉いスロープをしてある丘に立つとき心が躍らないで何とする、スキーをつけて一むきに走り降りる。走るだけでは面白くないとてテレマークをはじめ、クリスチヤニヤを習えやうといふ氣になつたら、正に、雪國に住む資格充分、こうしてヂヤムピングもやりたくなつてくる。ヂヤムプのスキーは普通より大きい代りに杖をもたぬ、ジヤムピングは滑走にはじまる、

斜面に直角 になつた姿勢

で兩手を下げたまゝ非常なスピードで滑走する、テークオフの前に至るや兩手を下げたまゝ兩膝をギユツと屈げて踏切りの姿勢をみせるや瞬間、ヂヤムパーは兩脚で強くキックして眞直に膝を伸ばすよとみるまに身體は白の世界から青なる空中に飛び入る、青に飛び込んだ身體が再び白なる大地にふれるや、ジヤムパーは直に余勢をかつて百米ばかり滑走の勢にすべり下つて靜止する。みる者は驚嘆をあげないではおられなく、拍手を送らずにはゐられない。

零下廿三度 廿一年來の記錄

三十一日中の京城の氣溫は最低零下二十三度一分（午前五時前後）で京城測候所創始以來卽ち二十一年來の最低溫度のレコードを示した

元日は寒さゆるむ

大晦日の朝の寒さは實に零下廿三度一、水道も凍りストーブの暖かみさへ効力ない寒さであるが京城測候所に尋ねると目下高氣壓は支那大陸から朝鮮に臨まつてゐるため余程一般に天氣はよいが木浦には雪が降り大安地方の氣溫は昨朝と大差ないが大陸地方は五度內外下つた明元日は一時曇るが天氣よく寒さは少しゆるむ

早稻田山岳部員 廿四名慘死？

【松本發至急電】早稻田大學山岳部員一行二十八名は二十日、北アルプスで遭難し內二十四名は吹雪に埋沒慘死したとの報あり

福は内……（一）

一龍齋貞山

德川家康公生涯に數度の難戰がありましたが、その中でも三方ヶ原の合戰では生死の境に立つた事がしば〳〵で、萬死に一生を得たといふのはこの事でございませう何分相手は戰爭の神といはれたる武田信玄、殊に三萬五千の同勢を從へて押寄せたるに對し、德川勢は僅に四五千人、これは織田と三度目の相撲で、勝はないのが當然忽ち德川勢は武田勢の爲に稻麻竹葦の如くに取まかれて散々の敗北漸く一方を切破つた家康公、[illegible]お旗本も幾人は討死、又は傷づき、今君を守護するものはお馬の口を取たる水野太郎作たゞ一人その內に雪は益々強く相成り、一寸先も見えず、天に玉闇のわだかまり、地に白狐のおふの風情をなしてをります、落武者の時なればこの雪を幸として漸くみ咎す人もあらう、又詩を作り、歌をよみ、雪を友とする人もありませうに、一生懸命の掛合で主從はたゞ眞黑になつて濱松城へ御歸城の道を急いで參ります。スルト後これ十丁ばかり後より雪を蹴立て聲をあげて走せ來る者がある、敵か味方か何者であるかと振返つて御覽になると、後ればせにかけつけて參りましたる御旗本の面々七八十名、何れも聲をあげて來れる樣子、主從物を御覽ぜられると、態々お家の御印に相違ございませんから、ヤレ嬉しやと君も馬上でお喜びになつた、水野太郎作もホツト一息吐いて、先づ味方であつたるかと主從喜びに無事を祝し、右の御家人達が主君のお後を御護いたして無事濱松城へ御歸りに相成り、まづ奧殿へお入り遊ばされて家『今日は古今無雙の難戰であつた、この家康も命一つのあつたのは家臣とも勇伴ともいふべきである。隨へに家來共が家康に代つて討死をいたしくれたるばかりに危うき命を遁れてこれまで歸城いたして、汝等の介抱を受けるといふのは、明日は知らず今日の喜びこの事であるアヽいゝ心地ぢや』とお具足を脫けられたなりに橫になつてグー〳〵高鼾、流石は德川家康公だ、かゝる難戰の中をのがれて來て、具足を脫けたまゝに夫に橫になつて、高鼾でおやすみになるといふは、實に大將は大膽だけの膽力があると人々も感服いたしました、その中に追々敗軍の人々も立歸り、醜體にも無事を祝して殘らず御前へまかり出でると、家康公御目を開き給ひまして家『オヽうちもらされの家來共皆一同歸つて參つたか、家康はつかれたまゝにツイウト〳〵と睡眠を催したが、何時の間にか一同歸城いたしたな』『ハヽツ御供の者後ればせながら御跡より、いたして走せ歸りましてございます、恐れながら我君には御期嫌なく御歸城に相成り、恐悅至極に存じたてまつります』家『オヽ一同兼て覺悟であつた、鎧を脫つて緩々休息いたしてよろしいから、今日供の者一同の功名手柄も追つて取調べ賞罰の沙汰をいたすから一同左樣心得られよ』○『數ならぬわれ〳〵共までそのお言葉にて有難き仕合せに存じ奉ります』と主從が無事を喜んでおります中に不思議や寄せの陣太鼓、又は鐘の音がドン〳〵、ヂヤン〳〵とはげしく聞こへ、敵勢の軍勢今にも寄せ來るかと思はるゝばかり、ワーツといふ鬨の聲は[illegible]に響き渡るの聞こへるは、さては武田方我家康が敗戰いたしたるを知つて跳擊ひ來りしと覺へたり、家康公においては家『オ、寄せ來りしぞ、湯漬はならぬぞ斷々覺悟いたせ』『畏こまりましたる』といふ中にお次ぎの間から進み出でたる酒井左衞門尉忠次が忠『ヤア〳〵おの〳〵お騷ぎなさるな、殿樣には目出度お引上げ遊ばされ、しばしの間の御休息、おの〳〵方立騷いでは相成らん』と元老酒井が騷を抑へて制しましたが、單分敗軍の中で聞き入れません、上を下へと立騷ぐ中に酒井忠次如何にもしてこの騷ぎをしづめんと思ひ、心配をしてをりまする（つゞく）

雪を踏んで年賀に廻る人々

初詣ふて賑ふ 朝鮮神宮の元旦

あわたゞしき大晦日のざわめきが靜まつてしん〳〵と身に迫る寒さの最中はほのかにしんで除夜の鐘の音響は頓に身へ響く昭和三年の元旦は穩かにそしておごそかに明け離れたのである市街が一しきり靜寂として神々しき氣にみなぎられたと思ふ間もなく朝鮮神宮參拜の自動車が威勢よく新氣をゆすつて走る居留紳士の年賀客の雪を踏む音が響いて門松を渡る風もおだやかに各戶の名刺受けは名刺ノ山を築いてゆく辻々にはなごやかな朝日を受けて盛裝した令孃の花やかな羽子の音松の間から洩れる歡聲多の國旗々の元旦は[illegible]かさである

歲旦祭

朝鮮神宮 莊嚴に行はる

朝鮮神宮の歲旦祭は午前九時から拜殿において總督代理、府、府代表者その他數百名の參拜者列席の上嚴かに執り行はれる式は神官の修祓にはじまつて一同拜殿につき御神扉を開き參拜者は御神殿下の階下に進み玉串を捧げて式終るのであるが當日は晴明け初めての元旦の事とて參拜者は數萬にもおよび雜踏を極めるであらう

神宮大祓式

朝鮮神宮では大晦日の午後二時から同拜殿において大祓の式を執行したが總督府からは矢島社會課長が總督代理として列席外知事代理府尹代理、軍司令部、憲兵隊司令部各代表者および一般參拜者約三百名あつた、式終つて午後四時から除夜祭に入つたが夜に入るや同神宮境內二ヶ所に大篝火を焚き除夜の參拜者が陸續いて賑つた

大晦日に三人組の強盜

刺身庖丁を突付け 現金二十餘圓を奪ふ

黃金町加藤質店の二人組刺身庖丁強盜龍山馬力屋の五人組刺身庖丁強盜犯人もその後着として罪から逃れず迷宮入りのまゝ各所に物騷な年末年始の警戒に入つたがいよ〳〵大晦日も明日といふ卅日午後九時頃高陽郡纛島面[illegible]崔永瑞方に三人組の刺身庖丁強盜が侵入し『頭を擧げると殺すぞ金を出せ』と脅迫して金庫の鍵を強奪して同金庫內の金子二十余圓を強奪逃走せんとする所へ折柄新聞を配達に來た東亞日報配達夫金相鎭を捕へて室內に引入れいきなり頭から布團をかぶせて所持金三圓九十錢を強奪した上何れかへ逃走した急報に接した所轄東大門警察署では松下司法主任は警部補以下數名を率ひて現場に急行非常線を張つて徹夜極力犯人逮捕に努めたが未だ逮捕に至らないが犯人はその入口から推察して隣山の刺し身強盜の片割れらしく加藤東大門署長は大晦日の三十一日早朝から署員を指揮捜査中である

鍾路署でも 強盜逮捕

十二月一日京城府黃金町三ノ二八古物商津田彌之吉方より刺身庖丁一挺を四十錢で買求めた怪漢の行動に不審を抱いた鍾路署司法係人江刑事外四名の刑事は時節柄彼等の行動を監視中の處數日前たつて又もや黃金町四ノ九一崔用錫方より衣類を盜み去つた事實および彼等が常に飲酒、挑戰を揮發する點より察して容易ならざる曲者たることが明瞭となつたので爾來行方捜査中の處卅日夜遂に逮捕した、三名は京畿道安城郡一竹面[illegible]前科三犯宋石成（三三）全北[illegible]前科六犯金[illegible]および曹吉[illegible]（三三）京城府安國洞一二四前科五犯金殷彬（三三）といひ取調べの結果彼等は府內の竊盜數件を荒してゐた曲者と判つた

英國稀有の大降雪

交通に大支障

【ロンドン廿九日發聯合】イギリス內各地における甚だしき降雪は交通機關に非常な支障を來してゐる、又英佛海峽連絡船は暴風のため四日間運航不能に陷り大陸からイギリスに渡らんとする千五百人はフランスのブーローニユに空しく停留られてゐる

八十名の強盜團

上海を横行

【上海卅日發聯合】廿九日夕七時頃最も多い閘北において八十名よりなる強盜團現れ、卅余軒の商店を掠奪し排線に向つた保安隊と銃火を交へ警官一名卽死、四名を負傷せしめて逃亡した

一家六名 無慘の燒死

【補島電話】二十八日午後十時頃全羅南道安和郡大[illegible]村中里二五[illegible]鍾次郞方より發火し同家および倉庫一棟を全燒したが鍾次（五一）および長男鍾一（[illegible]）二女コウ（六）三男秀夫（四）四男和朗（三）孫ハナ（二）の六名は逃げ場を失つて無慘の燒死を遂げた、原因は飯つきの火の不始末からであるらしい

東洋丸 眞ツ二つに割る

【下關電話】二十六日釜山港に碇泊したる大連汽船會社東洋丸（三〇一九トン）は二十七日朝港して長崎に向ひ沖を航行中再び暴風に遭遇し二十八日正午頃對馬西海岸上機神の[illegible]に乘りあげ聯絡船高麗丸門司サルベージ支店の大浦丸、佐世保鎭守府驅逐艦等現場に救援のため赴きしも激浪のため救助し得ず船體眞つ二つとなつた、乘組員四十名は救助されたが、一、二名は行方不明となつた

悠々迫らず ひげおとし

恐ろしかつた顔つきが忽ちにして微笑と變る

◎……山本滿鐵社長三十日通過

午前四時卅分、山本滿鐵社長を乘せた第一列車が一山驛に到着した時間である。こゝで山本氏を迎ふべく同列車に打乘れば、昨夜中の確故特別室に就寢中であるといふ記者も一睡して後目覺めれば四邊はほの白くなつてゐた。午前七時頃であらう、まだ起床の樣子はない。幾十分かが過ぎた、一等車に驛室をとる秘書役らしい人々が目覺め初めた、水驛驛も通過した列車は朝の給仕の驛驛を片づける音が列車の響を大にした、食堂給仕が朝食の注文をとりに來る、顔を洗ひ服をきた例の秘書役は鐵道部長ら一人に記者は名刺を渡すと『まだお目覺ではありません』

◇……やがて 列車は永登浦についた、同驛者がドヤ〳〵とはいつて來る『まだ起床されてゐません』と聞かされ。秘書役が特別室に行くたびに氣になつて仕樣がない、[illegible]驛が眼に映じた、と特別室のドアーがギユウーとなば開かれた。ドラ姿、顔があくまで剃ぬしたゞ、眼は鋭く一點に注がれ、一見恐ろしくさへ思はれる人が椅子にキチンと正座してゐるこの人こそ山本社長なのだつた

◇……もう 龍山驛といふに寢る自辭、寢臺所でひげを剃してゐる。——ビユーと汽笛して汽車は構內に滑り込む。京城驛、朝鮮總督、驛長、新聞關係者、その他要路の人々が一度にこの主を訪れた。が山本氏の姿はまだ現はれない。秘書役は相かはらず不得要領に『まあ』、京城につくも後五分いさゝか氣がもめる

◇……汽車が 靜かに動き出した。ドヤ〳〵と特別室の方から聲がきこえる、一寸前に見たと見違へる程微笑をたゝへてわれ等の前に山本氏は姿をあらはしたのである。ニコ〳〵顔は草間財務局長と久濶の挨拶を交す。『よく來たものだね』と意外に見える、『一寸寒い、さうだね、零下廿度だつて……』滿洲氣分を味はうにはもつてこいだ』と巧に問題の

◇……焦點を 避ける。『年末ぢやないか、よしてくれよ、そんなけちな話は』と笑ひにまぎらす。八時四十分列車は京城驛に着いた。數へきれない出迎へ人が山をなしてゐる、その中を山本社長は驛長に案內されて自動車で朝鮮ホテルに向つた

尚午前中金谷軍司令官の訪問をうけ、正午總督の午餐會に招かれ、午後三時よりは[illegible]の歡迎會に臨み午後八時京城發列車で北行大連に向つた

謹賀新年

前年中各地巡回講演出張の際は種々御配慮を蒙り謝候目下新撰日鮮太古史（第一編通俗日鮮太古史第二編詳解日鮮太古史の合冊）著述中の爲め賀狀相認め候事不相叶失禮ながらここに新年の御賀狀候

追て新撰日鮮太古史は二月末頃印刷完了出版仕るべくにつき印刷の都合も有之候につき至急御申込相成度併て謹告候也

昭和三年一月元旦

京城櫻井町二丁目五一番地 大陸調査會長 阿部辰之助

謹賀新年

京城府本町二丁目 越田電氣商會 電話本局一四三〇番

我國唯一の公認學校、飛行士四ヶ月卒業、毎月一日開始 學生公募認

日本飛行學校

東京、蒲田驛前 ハガキにて申込次第規則案內書八十頁無代送呈す

急告

急告

東京市麴町區麴町十丁目八 日本厚生株式會社

謝近火御見舞

京城府漢江通十三番地 田中工作所 樋口易太郎 中村嘉市 杉原豐店 大平桶店 平本古物店 ツバキ商會支店 住友金物支店 朝鮮工業協會 成木ナミ商店

寫眞は「ワタナベ」本町一丁目 電本一九二一

自動車に志す人は來校して東洋第一の理想設備と實習振を參觀せよ

學生公募認 日本自動車學校

東京、蒲田驛前 ハガキにて申込次第學則案內書八十頁無代送呈す

新春を飾る超特別大興行 黎明の空に燦と輝く大陽篇

マキノプロダクション御自慢特作映畫 原作 新興巨匠 二川文太郎監督作品 マキノ省三 總指揮

毒蛇

主演 月形龍之介

助演 杉狂兒 松浦築枝 岡島艶子 天野牧子

ウヰリアム・フオックス社超大巨作 世界的猛烈劇 主演＝快漢トム・ミツクス氏大猛演

大暴風

新春二の替特別大興行

マキノプロダクション超特作・總大映畫 巨匠マキノ省三指導監督作品 期待と問題の大映畫 愈々一月五日より破天荒の連週封切大公開

主演 嵐長三郎 一世の熱演

百萬兩

封切

第一篇一月五日第二篇九日第三篇十四日より封切

マキノキネマ 中央館

喪中に付き年賀缺禮仕候

龍山鐵道病院 渡邊龍

謹賀新正 [illegible]館

新春元頭第一回提供四面鉄壁の大堅陣◦第二回提供の日活軍の大巨彈は即ち此れ

純映畫劇 一劍横行 赤城の夕映

猛闘劍戯 驚天的連續劇 怪人の襲擊 卅巻內第一篇第二篇

五日より封切 純映畫劇 「亂」

宿命？無慘？ 劍と戀

新連續大活劇 怪人の襲擊 卅巻內第三篇第四篇 日活直營

劍劇王阿部五郎と其一黨オールスターキャスト◎吾等の大河內傳次郎 久米讓 櫻木梅子大競演

喜樂館

戊辰新年紙上名刺交換會

井内勇

有賀光豊

島田鐵三

中屋重樹

武者錬三

麥修一

矢鍋永三郎

河内山樂三

住井辰男

田口耕平

澤田九平

久保要一

天日常次郎

杉村逸八

總督府海軍御用掛 作間應雄

三原博

宮崎又治郎

稲田辰

今井修一

富田儀作

平澤吉郎

富田精一

野村宗一

藤井寛太郎

岡野三郎

吉良雄

生田重賢

谷多喜磨

三國商會 井上謙一

廣田土徳

京城府岩倉町 本派本願寺 斯波随性

山縣康

鐵原 北村幸雄

三千浦 兎三一

李軫鎬

三千浦漁業組合理事 山本增藏

江原道農會副會長 鐵原郡 朴普陽

大阪市外羽衣 李山彦一

三千浦 張鷹相

内海淑良

三千浦 吉村實元

京城電氣鐵道株式會社 常務取締役 紫田彦市

江原道鐵原 平井義一

江原道鐵原 長野虎海

東洋拓殖株式會社 藤貝市

川村喜一

同産業團体職員一同
金川郡廳職員一同

江原道鐵原 金剛山電氣鐵道技師 小川内乙七

江原道鐵原 金剛山電氣鐵道株式會社 伊藤重雄

鐵原酒造組合長 西谷國藏

京城日報

財界の前途は 「どう展開するか」 其二

◇……果して樂觀說通り行くか

昭和二年の財界は內外における金融恐慌を中心として意外の波瀾を見せ、その後長くその整理に忙殺された。しかし、休銀整理は昭和銀行の創立によつて多少進捗の跡を見せたが、十五銀行並に近江銀行等の大銀行は未整理のまゝ今年に持ち越された。之が前途は財界の癌腫と見なされてゐる。しかし財界は不況の底に達しいが、貿易の改善は向ひ始め、財界の前途に對する樂天的觀測が頭をもたげて來た。昨年の財界大動搖と整理な不況期に惱み續けさせられた後をうけ、昭和三年の財界が如何に展開してゆくか?これは何人も考へかつ聞かうと欲する問題であらう。こゝにおいて財界有力者の意見をたゝいて見ることも興ある有益であることを思ふ。

財界回復の曙光を認む

『國際貸借の改善と資本の利用方法改善を講ずるが急務』

大藏大臣 三土忠造

回顧すれば昭和二年は我財界にとつて非常な厄年であつた。即ち大正九年の財界變動および同十二年の關東大震災の創痍未だ癒えざるにあたり、三月中旬突如として東京に銀行の取付騷ぎが勃發し、爾來一ヶ月余金融界の波瀾はたう〱として各地に波及し、銀行の休業するもの相次ぎわが財界未曾有の大混亂を惹起したのである。この財界の動搖は幸にして、

『官民一致』の努力によつて比較的短期間に鎭靜に歸し、これが善後措置として最も困難を感じた、休業銀行の整理も漸次その歩を進め、特殊の使命を有する昭和銀行も設立せられ、殊に休業銀行の大部分はすでに預金の支拂を開始し、或は整理案の大綱を決定するに至り、休銀整理の難關も大體突破することが出來たのであるから、昭和新年の財界はこゝに一段と回復の曙光を認むるに至るであらうと信ずる。然しながら、財界の動搖によつて生じた諸問題の善後措置を講ずるといふことは最小限度において必要なる事務たるに止まり經濟界の繁榮を招致する爲には近年におけるわが財界不況の根本原因にさかのぼつてこれが對策を講ずるの必要なることは論をまたない處である。

『抑も我國』の經濟組織の下において、經濟界の趨勢は一に國際貸借の狀況に支配されることは過去の經驗に徵し、極めて明かなる事實である。從つて今の經濟國難のため、國力發展のため大いに國策を樹立し貿易の逆調を匡正するを以て基本方策とせねばならぬ。昭和二年の外國貿易は植民地と通じて二億八千萬圓の入超に止まり、その額の小なること近年稀なる現象と稱せられてゐるが、昭和三年においても國民の努力により益々この趨勢を維持促進するやうにしたいものである。然しながら我國においては貿易の入超を全くなくするといふことは中々困難の場合においては容易に期待し得ぬかも知れぬ。從つて我國においては恰も英國の如く海運業、海外投資その他の方法により、貿易外の

『受取勘定』を增加するといふ方向に力を注ぐことが急務であらうと信ずる。國際貸借の改善とともに必要を痛感するのは、資本の利用方法を改善するといふ問題である。即ち我國では資本の蓄積が乏しい上に、その利用方法が當を得てゐない爲、その能率を發揮し得ない狀況にあると思ふ。されば今後は金融機關の制度並に事業會社の組織經營に改善を加ふると共に、財界の整理を促進して固定した資本を生かす方法を講ぜねばならないと思ふ。金融的に一二の點を述ぶれば、銀行といはず、事業會社といはず、無理な配當をせぬ樣にすること、又合同その他の方法により、その基礎を鞏固にし、經營に要する諸經費を節約するといふ樣なことは最も大切な問題であると思ふ(完)

現狀を打破せよ

輸入超過恐るゝに足らず 國運進展の策こゝに在り

日銀總裁 井上準之助

昭和二年春、わが日本は有史以來未曾有の大動搖を起こした。それは外ならぬ空前の財界パニツクである。國內を通じて三十幾個の銀行がバタ〱と倒れ、その內には從來の歷史と名譽において意外の感を與へた銀行も二三に止まらなかつた。更に兌換券の發行をさへ許されて居た半官的銀行もあつたのである。誠にこれ空前の事變であつて、恐らくは絕後の事と思はれる。私はこの大動搖の一段落といふよりも、動搖の可能性あるものが全部動搖し盡くした後、現職についた者であるが、期多にわたる八ヶ月を以て整理さるべきは整理され、聊かお手際ひ得の出來たことを自身としては光榮に思ひ又國家のためには何よりも慶賀にたへない次第である。

經濟界は既に

落ついた。數ヶ月にわたる整理によつて病源のおよそ眼にみえる程度のものは根絶されたのである。が、こゝに最も不快な事實が殘つてゐるのである。それは即ちパニツクを招來した經濟界の良心が沮のまゝで殘つて居ることであつて、銀行業者の頭が恐怖の源因であつた以上は、事情か如何によつては或は再び彼等が轍を踏まないとは斷言し難いのである。懼むべきはすこしく形勢が良好になればすぐに平氣で同じことを繰返し兼ねぬ彼等の痴呆性である。更に他の一つの不快なる事實といふのは經濟界機關の腐敗である。或は整理直後のことであるから或は無理でないかも知れぬが、落つきの程度を通り越して老境に入つた沈靜とも見るべく、活氣のない點およびたゞしいものがある。換言すれば經濟界は希望を捨たかの感がある。銀行は預金の鍵として永遠に希望を失つてはならぬのに拘らず、かくの如き狀態を示す實に

國家の一大事

である。私の以上の言は或は誤解を招くかも知れぬからなほ一言補足して置きたいことは、活氣なしといひ或は希望を持てといつた所で、何も濫藥濫發に元氣を出せとか成業の有無に拘らず景氣づけにはたゞ〱しい事業を起こせとか、それに對してドン〱貸出をしろといふのではない。不況に際しては勿論極度の緊縮は當然の手である。但し今日の如きに際しては明日の雄飛に備へるの氣概が必要である。猛獸がまさに飛びかゝらんとする時に伏して時機を凝視するあの態度、あれこそわが經濟界が今日持たねばならぬ態度である事を承知して貰ひたいのである。

二

然しながら、一國々運の消長は政治、經濟、教育、社會その他各方面が伴進して、はじめて望みうる事である。ゆゑに經濟界のみについて如何に最善の策を施し、或はこれを盛になしても効果は望みがたいのである。

今日我が國に

おける各方面とも全く行き詰りの狀態に陷つてゐるといふ事はいはゆる識者の間のみの叫びのみでなく殆ど國民の常識となつてひろく認められてゐるのである。政府當局がこの昭和新政に方つてあらゆる方面の振興策を企てゝ居ることは誠に機宜に適した事と寒心措く能はぬ。ついては私は財界の側面に遭遇された關心の問題はこれを各個に述べるに止めて置き、以下少しく經濟界の展望について私の三十年の經驗より理解した希望を率直に申し述べたいのであるが要はたゞ如何にして帝國を今日の行き詰りの狀態から救ひ出して國民生活の不安を一掃するか、即ち帝國百年の計を如何にするかといふ點について、私の平素の抱負の一斑を披瀝して諸君の參考に供し、かつ一考を煩はさんとするのである。

三

一口に國家百年の計と云つてしまへばそれまでであるが、これがなか〱容易の事ではない。政府當局は勿論それ〱考究されては居るが、一朝一夕にしてその國家百年の計が成るものではない。然も今日は是非共これを具體化し決定しなければならぬ事情に迫られてゐるのである。

民間に於ても

大戰中においてわが國民の最も大なる心配の種は如何にして正貨を維持するかといふ事であつた。然るに歐洲大戰亂といふ最も偶然な機會によつて金融地位を一變し、債務國から債權國に一躍したが、そのよろこびも束の間で、戰後數年の後には再び金の問題で戰局國際の苦勞をせねばならぬ事となつたのである。即ち爲替相場は非常なる變動をなし、一時は三十七ドルといふ未曾有の暴落を示し、あたかも日本の經濟上の信用が二割五分方の下落をしたと同樣の事態を惹起するに至つたのである。一般にかくの如き爲替相場の變動の原因には戰時中にいふ所の成金國とはなつたけれども、その大部分は輸入超過のために外國に支拂はれ、次ぎには大正十二年の

大震災に遭遇

した爲である。大震災の損害はごく大體に見積つても百億圓を下らないのであつて、その復舊材料は主として米國から仰いだのであるからこれ程し經驗の土臺原因であらねばならぬ。

四

大正十二年の天災は偶然にも日本の經濟力を仔細に調査せしめるの機會を與へた。その結果によれば如何にわが國の經濟力が貧弱であるかといふことが分明したのである。これを一例すると建築用材の木材の如きものまでが殆ど米國品に仰がざれば如何ともなし得ない狀態であつて、又その方が安價にしてかつ便利であつたといふ如き馬鹿な始末であつたのである。かくて盛んに米國品を輸入した結果は日本の金の價格は漸をおつて下落し、その反面米國の金價は漸次に騰貴して遂にわが百圓に對して三十七ドル半といふ空前の價値を現出したのである。然るに最近一二年においては國際收支は非常に良好となり一時は暴落前の四十九ドルの

對等價にまで

戻り、昨年財界恐慌の影響で再び下落はしたが、ほゞ四十七ドル近に落ちついたのである。これは三十七ドル時代においてわが商品が安く米國に買はれ、從つて購買力が旺盛であつたのも一因である。更に一は水力電氣その他の外債が二億圓以上に達し、從つてそれだけ日本に支拂ひ能力が增加した事に對する上海その他における日本貨幣の信用が高調を呈して來たからでもある。これは實に喜ばしい現象であるがわが國の爲替相場は何等確實な理由によつて變動しない。外人のスペキユレーション即ち思惑買によつて左右されるといふ事を一面に示すものであつて、これに伴ふ一切の日本の損害と影響は常にスペキユレーションによつて脅かされて居るのである。この解決策は金輸出を解禁するの他に道はない。この金輸出の解禁によつてのみ我爲替相場は四十九ドルの標準價を保ち得るのである。」

五

然らば直に解禁を斷行すべきかといふに、さう簡單に行かぬ問題を前にはあらかじめ

用意が必要で

ある。例へば英國の如きは解禁前に三億の借金をしてはじめて斷行した。日本といへどもその體面として若干の準備を要するの結果として若干の外債に訴へておかねばならぬ。その他正貨輸送の方法もあるが、これには我々として政府の整理が必要であつてなか〱の大問題である。かく考へ來れば、私は日本の將來は如何?といふ大問題に直面せざるを得ぬ。即ち現狀打開の必要を痛感するのである。現狀を打破して我が國民にあり余る國の資源を供給し、國民各個の收入を增加せしめ、更に進んでは國民に活力を與へるといふ事が刻下の急務であると信ずる。これについて胸中に數案あつて、細目に打開の策を施さねばならぬ又すでに私々の機關が出來て、折角研究中であるが私は現狀打開の第一良案として國民が海運業の復活に速かに努めんことを期待するものである。大戰當時我國のもうけ得た貿易上の利益は、約十四億圓であつて、その他受入金もほゞ同額である。而してこの受入金の主なるものは

海運業の利潤

であつたのである。然るにすこしく不況になるとこれに於へてこれに執着する事を忘れて捨て顧みないのが我國民性とでもいはうか、海運業もまた目今不況を唯一の口實として捨て顧みられないのである。現在約三百五十萬トンの船舶を有して、英米に次ぐ世界第三位の海運國である我日本は各種の事情からそう合するに至る範圍の船舶を有して迅速も安價に回航しうるのである。この武器を持つて支那、印度、南洋を中心として更に太平洋一帶をわが日本に與へられた舞臺として、よいこの太平洋を活動の舞臺とするならば、何よりも第一に國民に活氣を與へ、人口問題の如きも之に解決されて容易に移民の實施を見るに至るものと私は深く信ずるのである。この點たるや勿論五年乃至七年をまつべきであるが、當面の急に迫つた現狀打開策として、世界的海運に適しかつ優秀なる造船の技能を有するわが國民が、誠意と努力とを注ぐこそ早速に着手すべき事業であると信ずるのである。

六

輸入超過敢て

恐るゝにたらず、これに數倍するの利益を海運に求むればそれでよいではないか。ゆゑに經濟界が沈滯を破つて充分なる準備と覺悟の下に十年の努力を惜まないならば、これに伴つて社會各方面の事業がすべて活動を開始して國運の展開の途を開きうるものと思ふ。然も今や昭和三年の如きはまことにこれ機轉の年であつて更に下、廻り廻〱たるべきではないか。今後の前途に現狀を打破して國運の進展に資したいものである(完)

竹の園生の御榮え

(上)……秩父宮雍仁親王殿下
(下右)……高松宮宣仁親王殿下
(下左)……澄宮崇仁親王殿下

海運界もこの邊で好轉するであらう

朝鮮郵船社長 恩田銅吉

御諒闇明けの新年を迎へてこの上なく御芽出たいことである。海運界もこの邊で好轉しなくてはならぬ。朝鮮を中心とした海運界は幸に越年したが一般海運界は昨年八月を峠として運賃と傭船料は加速度を以て慘落、近年にない大悲境に遭遇した。昨秋十一月、第十五吉備丸ほか一隻、四千噸級が三ヶ月六十錢で傭船されたなどは物の哀れを通り越してゐた。然し昨年の朝鮮はモラトリアム施行の爲に受けたる

『影響』も薄く、持ち越米、相當潑澁な出廻りがあつて、貨物のしのぎも格別苦心を要せず、秋の出廻り期に入つてからは、各港の廻着米は例年の量を遙に突破し船腹の手當てに忙殺されたことは朝鮮の大豐作と相俟つて左右されたもので、一時にかゝる積荷の出廻りは新年早々には一段落入るゝ事となるべきも、本年の夏になれば滯貨米も大分あるべく相當に忙しい事と思ふ。近海の運賃と傭船料は二月までが不振の底と推想されて居り、大連航路はすでに著しく回復の兆を示し、この方面に出動する船もぼつ〱配船られをり四月頃より北洋材の積取等に入り異常の反動を示すとすれば、こゝに就航船の船腹調節が行はれ朝鮮の夏は定期船だけによつてやつてゆけるかと今から心配してゐる。當會社は創業以來第十七年の新春である。その間幾多の變遷を經て順調なる過程の內に朝鮮海運界の

『發展』を促してきた。今後についても現行航路の改善、擴張をはかると共に新航路の開拓につき大いに研究しており、朝鮮に對していさゝかの貢獻となれば幸甚である。咸北の鐵道全通は九月と聞く。陸上交通の漸次完備してゆくことはやがて沿岸航路の整理により、近海への進出を一層促進せしむるものであつて、元山、清津間に永興灣を寄港した連絡船がその內御覽を賜ふことになる。二月末には當會社の新造第一號船元山丸(總噸數二二〇〇噸)が竣功して五月には姉妹船が更に一隻竣工する。御諒闇明けにおける二隻の新造船に多幸あらんことを祈る。

朝鮮は景氣來か 內地より先きに

漢城銀行頭取 韓相龍

昭和の新春を迎ふるに當り御挨拶を申し述べたいと思ひます。

『年初』財界は打續く沈滯の裡にも蘇生の兆候がかすかに見えたるも、大正九年の大變動の疲憊、同十二年の關東震災の餘燼を深く內部に藏して居たので何の刺戟も遲々たることを免れなかつた。折柄三月中旬突發した震災手形法案の議會における紛糾と激烈な論爭を生じ、日を經るに從ひ人心は漸く不安となりこれに端を發して銀行界の恐慌は實に前古未曾有の大混亂を惹起し、その餘波は遂に朝鮮にも波及して鮮內各銀行は四月二十二日、二十三日の兩日一齊に臨時休業をなし、引續き支拂猶豫令の施行を見るに至りました。しかしながら朝鮮においては官民の金融恐慌に對する施措の機宜に適せられたると、一般民衆においても內地恐慌の基因に深く思ふ所あり人心一時の動搖なることを確信して沈着自重の結果、假令一時不安の狀態を見るに至らずして至極平穩を以て推移し得たりとはいへ一時は之が爲金融の圓滑を阻害し、商況を一層不振に陷らしめたるは蔽ふべからざる事實であります。其後の

『內地』においては資金融通の圓滑を策するため、日本銀行およびその他の銀行は救濟の手段を講じ利下を斷行し、てこれが緩和に努めたる結果、漸次落つきを見るに至り殊に昭和銀行の成立とその他休業銀行の整理進捗し漸次常態に復するの氣運に向ひ、朝鮮においてもこれに伴ひ金融疎通の端緒を開き漸く愁眉を開くに至りたることは同慶に堪へぬ次第であります。貿易の狀況を見るに昨年一月以降十月までの貿易は輸出入合計三億五千萬餘圓にして、前年同期に比し一億一千八百七十萬圓の減少である。これもその內容を檢するに、節約緊縮の影響により奢侈品の輸入いちじるしく減少したるは喜ぶべきことであり、又一方においては米價低落による原因の爲に輸出額の減少を見たのであり、前年に比し約一千萬圓の減少にして、前年に比し約一千萬圓の増進である。しかして貿易の內容においては一千六百萬圓の輸入超過なるもその原因を尋ぬるに移入品には著しく增加したるものは鐵道材料、肥料、石炭、木材等の事業材料の移入に基づくものなるがゆゑに

『朝鮮』の産業的進步を示すものとして大いに人心を強くするのであります。朝鮮について見るに米穀増殖計畫の實行第一年に當たり、天惠洽くこれを緩和して五百余萬石と豫想せられこの計畫の實行に多大の好影響をもたらすべく、米價の下落著しきものありと雖ども農民糶米の多量は最も喜びとする所であつて、況んや米價の下落は一時の人氣的相場とも見らるゝにおいてをやである。その他產業組織、産業の增加著しきものあり、朝鮮の產業界は多幸なりといふ憾りません。事業の發展を一學するに、鐵道はその下に鐵道計畫の實施に歸する鐵道網の完成に一步を進め着々として工事の進捗を見るあり、私設鐵道會社においても鐵道の買收により新設資金を充實し、その他道路、河川、港灣又は水利組合の工事等公私の施設大いに進捗しております。内地の狀態は景氣の下に遷延するの施設を持するも、今日の水利工事は既に着々として其の實績を期する現下の狀態であつて、すでに實現すべき恢復はまだすることはいふまでもなく、朝鮮は恐慌の原因をなしたる病源の程度においても、內地に比すべくもなく、又特殊の事情は最も遲滯の通弊なるもの勘きを認むるがゆゑに、朝鮮の財界は內地に先だちて好轉するものと思はしむるのであります。

景氣は徐々に回復する見込

京取社長 天日常次郎

諒闇明けの新年を迎へ得たこと
は誠に同慶の至りである。

顧みれば昭和二年は近年稀に見る多事多端の年であつた。政界には內閣の更迭があつた。若槻內閣が倒れて田中內閣の成立を見た。しかしてわが朝鮮では齋藤總督が病氣のため辭職せられ山梨總督の來任を見、又湯淺政務總監も朝鮮を去るに至り、池上總監の任命を見るに一方財界においては殆ど空前の大恐慌が突發して大混亂大動搖を惹起した。內閣更迭も實は財界のとからでゐる。而して第十五銀行の休業問題に絡らんで、三井と鈴木と張ると稱せられた天下の鈴木商店の閉鎖となり、更に川崎造船所の破綻があり、強いて十五銀行その他大小數十銀行の休業を見るに至つた。實に容易ならぬ金融恐慌であつた。これはモラトリアムといふ異常時に處する非常手段まで實施されたことで分る。一方我が朝鮮を顧みるに、かゝる內地の影響を受け不景氣であつた事は勿論であるが、それにも拘らず金融界にも一般商工業界にも內地におけるやうな不祥事を惹起することがなく、更に角平穩に終り得たことは、當局の措置宜を得たためと當業者が何れも堅實なる思想の下に徐々に發達の基礎をきづいて居た結果であらうと信ずる。然して本年の政界がいかに動くかはわれ〱素人の豫想を許さぬ所であるけれども、その何れにせよわが財界は貿易も大分逆調を緩和して來て居るし、株界は昨秋頃からすでに回復の先驅をなして居るやうに見えるし、金利も安定を基調として徐々に好景氣に轉換するものと思はれる。

謹賀新年

海外興業會社社長 井上雅二 東京市外目白町上 電話牛込二八六五番

日本石油株式會社社長 橋本圭三郎 東京市外西大久保三五二 電話四谷一二一〇番

大橋新太郎 東京市麴町區上六番町四十三 電話九段〇四二二番

合資會社賀田組理事長 賀田直治 東京府澁谷町神山十八 電話青山〇七六八番

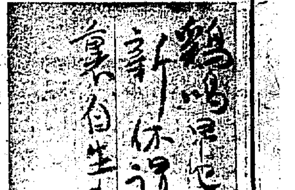
久保要藏 東京市牛込區中里町二十四 電話牛込三七九五番

藤山雷太

光永星郎

美濃部俊吉 東京市芝區芝公園五ノ九 電話芝三〇〇八番

內務省社會局部長 守屋榮夫 東京府下瀧野川町西ヶ原 電話小石川一〇五一番



普通教育に對する誤謬を解きたい

京城帝國大學總長 松浦鎭次郎

近頃内地でも朝鮮でも實業教育といふことが盛んに唱へられてゐます。例へば中等學校にしても實業教育といふものを大いに奬勵しなければならない。實際、社會の各種の生産的の仕事に從事する人を養成することが第一であるといふ聲が頻に唱へられて、從つてこの中等學校も朝鮮でいふ所の

高等普通學校

といふやうな高等普通教育を授ける所が、それを卒へてなほ上級の學校に進むべきもの丶楷梯としては必要であるけれども、そのまゝ實社會に出て各種の業務につくといふものにはどうも適當でない。然るに青年が兎角實業學校の方へ向はず、高等普通教育に向つて來て……然しなほ上級の學校へ進みうるものはそれでよいとしても、多數のものは中學および高等普通學校を出て直に實地の業務につかうとしてもそれは余り役に立たないものとされてゐるのである。それで中學および高等普通學校を出たものは業務につかれない爲に……勿論全部とはいはないが職に不適當なりとされてゐるが爲に……ふらふらものになつて、何處へ行つても職につかれないから自然多くの遊民になつてしまふ。そこで又自然にこれが青年の思想にも影響をなして來るといふ憂ふべき傾向が起つて來るといふやうなことの聲が

隨分盛んに

行はれてゐるのである。これは一應最もなやうに聞こえるのであるが、これについて世間としても考へなければならないことは、果して高等普通學校および中學といふものが上級の學校に進む階梯としてのみ必要であつて、實地の業務につくといふことはそれに不適當であるかどうか、實業學校を卒つたものにくらべてどういふ方面に利害があるか、これが一ツの問題だと思ふ。この高等普通教育といふものはなる程商業とか、農業とか工業とか或る特殊の業務についての特殊なる職業教育ではないが、いはゆる高等普通教育で一般の常識教育である。この常識教育といふものは、要するにどういふ位地についても、どういふ仕事に從事するにしても、等しく間に合ふといふ一種の常識教育であるからして

之を實業教育

とくらべて、一方を普通教育といひ一方を實業教育といつて全くこれを別ものゝやうに考へる。かういふ風に農業、商業、工業學校とあるのは、これは特にかういふ方面の全部特殊的職業教育であつて、高等普通教育は一般的の職業教育であるから、これを終つたものはどういふ職業につくとも一通り間に合ふといふ普通的職業教育である。決して上級の學校に進むのみの教育でなくてそのまゝ實地に出て職業について十分に間に合ふべきもので、世間が考へてゐるやうな性質のものではないのである。なる程實業教育といふことも勿論大事なものであつて、かういふ學校を出た人にもそれぞれ長所があるのであるから必要ではあるが、しかしながら高等普通教育――即ち中學および高等普通學校を出たものを、一概に實際の仕事をさせて全く役に立たないものであるといふことを世間が獨ぎめ込んで、いはゆる

食はず嫌ひ

になつて高等普通教育を受けたものを使はないといふ傾向になつてゐはしないかと思ふ。これは大なる間違ひである。世界において實業教育について本家本元とされてゐる彼のドイツなどについて見ても、實地の仕事、殊に商業などの仕事に從事してゐるものは實業學校の卒業生よりも丁度わが國の高等普通教育――レアルスレーかういふ學校を卒業したもの丶方が余計に働いてゐるのである――といふやうな有樣である。それで私は世間でもう少し高等普通教育の學校の卒業生を實地の仕事に使ふ道をつけなければならない。なる程差あたり間に合はないといふ點があるかも知れないが、高等普通教育を受けたものは一般の常識といふものについてはかへつて實業學校の卒業生よりもまさつてゐる。勿論實業學校には實業學校としての長所はあるが、しかしながら高等普通教育を受けたものにも

亦長所がある

ので、それは何れを卑げて何れを落とすといふことは出來ない。しかしながら高等普通學校卒業生は概ね間に合はない點があるかも知れないが、だんだん從つて職いてゐるうちに一般常識が發生されてゐるのであるから、その根底に深い點があるが爲にだんだん間にあふやうになつて來る。それで近頃内地でも實業社會においてもひとり實業學校の卒業生に限らず中學校の卒業生なども使はれるやうになつて來たやうであるので決して中學校卒業生がまにあはないといふやうなことはないのである。これを卑近な例で申あげれば、中學校および高等普通學校の卒業生はスルメの如きもので、かみしめるとだんだんと味が出て來るやうなものであるから、世間でも食はず嫌ひでなく少しは使つて見て貰ひたい。それを頭から高等普通教育を受けたものは實業界には何等役に立たないものだとしてしまふといふことは

大なる間違ひ

である。世間がかく間違つた考へからして善良なる青年を遊民にしてしまふといふことは誠に國家として最も憂ふべきことである。それで世間ではもうすこし高等普通教育といふもの丶性質を考へて、たゞ上級の學校にのみ進むに必要なるもので、實地の仕事には役に立たないものであるといふやうな傳統的の誤謬を改めて、これを少し使ふといふことが必要だと思ふ。さうすれば從つて遊民になるといふものもなくなるのである。しかしかくいふからとて實業學校を決してわるくいふものではない。前にも述べたやうに實業學校には實業學校として立派な特徴を備へてゐるのであるから、今日の如く一般青年が無やみに高等普通教育のみに向つて來ずにもうすこし實業學校の方へも行くといふ風に心がけることも必要であるが、更に考

私は今日世間が傳統的に考へてゐる『高等普通教育を受たものが實社會に出て役に立たないものである』といふ見方を改めなければならないと思ふのである(完)(寫眞は總長)

朝鮮の教育
―實業教育を振興さしたい―

學務局長 李軫鎬

昭和第三年の春、それは我國民に取つて最も意義深く、又最も光輝ある國家的行動の出發點といはなければならぬ。諒闇に打ち過ごつた一年は最早過去となつた。國民は全心全歩にして、しかも春秋に富ませ給ふ今上陛下の御統率の下に那颯欣舞して世界の大舞臺に

=活動= すべき時機が到來したのである。『それ教養を崇び實質を尙び模擬を戒め創造を勗め日進以て會通の運に乘し日新以て更張の期を啓き』とは、陛下踐祚の際に朝見の儀に方りて下し賜ふた詔勅である。この聖旨を拜察すると、國民に對して堅實剛健の氣風と、自主獨創の精神と進取活動の意氣とを御示しになつたものといふ事が出來よう。

然り國民はこの聖勅を奉體して三大禮節の下に新なる意氣と、努力とを以て、世界的競爭裡に突入するのである。これ實に私が劈に昭和三年の春こそ最も意義深く又最も光輝ある國家的行動の出發點だといつた理由である

所でわが朝鮮においては、更に一大更新更張の時機が到來した。それはいふまでもなく山梨新總督の來任と共に、各方面の事業に、施設に新にすべき時機となつた事である。

=朝鮮= の教育も、初等學校、中等學校、實業學校、專門學校および大學の各方面にわたつて一通りは揃つたといふ形が出來る。しかしこれは形式において揃つたといふのみで、その內容においては、まだまだこれから充實もし改善もしなければならぬ。それを充分に充實するには前途可なり多くの年月を要するものと覺悟しなければならぬ。私は初等教育の擴張を第一としたい。朝鮮にはまだ義務教育の制度は布かれて居ない。この制度がないからとて多數の子弟を無學におはらしめてよいといふのではけつしてない、殊に內鮮融和の實を擧ぐるには、はた又、朝鮮の人々をして國民たるの資格と自覺を得しむるには、何をさしおいても初等教育の普及および發達を急務としなければならぬ。次ぎに私は朝鮮の教育を、いまよりも更に多く實生活に即した教育としたい。これは內地においても盛んに

=唱導= せらるゝ所であるが、教育が單に學問の教授をされて、實際生活と沒交渉に取扱はるゝ事は、大なる誤謬でなければならぬ。私は過去兩三年において實業補習學校をおこし、初等學校の實科教育を奬勵し、更に中等學校に實科を必修課目としておいたのは、この精神からである。今や世界の思潮は盛んに教育の實際生活化を叫んでゐる、私はこの點に一層の考慮を拂つて萬遺憾なき樣にしたいとおもつてゐる。

師範教育に關しても、最も愼重の考慮を要するものと思ふ。教育は日進月歩する。これが任にあたる教師その人の素質もまた日に新なるを要する。その點から見て、現任の各種師範學校の組織、修業年限、その他各般が果して適當であるといひうるだらうか。若し適當であるとせば如何樣に改善すべきか、私はこれ等の件に關して目下充分の

=調査= をなさしめて居るその他一般の教育にわたつて、種々雜多の問題があるそれ等は何れも當面の問題で、出來るだけ急速に解決しなければならぬことではあるが、何といつてもこれ等の充實改善に伴ふ財政問題がある。教育のみひとり他の諸施設に先んじて進むことは出來ぬ、まづ財政の許す限りにおいて出來る限りの努力をなして、大成を他日に待たなければならぬ。從つて私がこゝにあげた諸問題の如きも、卽ち私自身の希望の一端として見て戴きたい。これを私が振だした約束手形と認められては大いに迷惑である。

雪景……河野野郷畫伯試筆

迎新の辭

京城帝國大學教授 文學博士 兒島獻吉郞

一日の計は朝にあり、一年の計は春にありと、古人のいふたことが果して眞理であるとするなれば新年元旦は最も意義のあるものでなくてはならぬ。吾人の運命は自ら開拓すべきである。一にも天命二にも天命と日常でもないのに、たなから牡丹餅を待つは、愚の至りである。安心立命は老後のさとりであつて、青年の理想でない。足るをしれよ、止まるをしれよの教訓もよくよく考慮せねば、井中のかはづ、徒らに小成に安んずる恐れがある。吾人はどこまでも

『積極的』に邁進せねばならぬ。ゆゑに良心の命ずる所に從ひ、新らしい規範の下に一路猛進するのが、吾人の取るべき態度であらうと確信する。

昔の西人に年五十で四十九年の非を知つたものがあつた。これは年々改進して、自分で新らしい運命を開拓し、今年は去年よりも是であるが、明年は今年よりも更に一層是であるべき頃に邁進する進歩新話を取つたものである。決してそれを、改めても、改めても猶見徹して、改めても、業態の悪い人間とその非が存在してゐるものと想像してはならぬ。我は積極的に進歩する君子である。消極的に退嬰する小人ではない。

年々改進して、新らしい興味を見せるは人生を有意義に送るものである。然るに何のなす所もなく姑息的に一時を偸安して百年の長計を立つる能はざるものは、國家として醉生夢死の徒である。昔の殷の湯王は

『聖王に』『日に日に新に、日々に新に、又日に新に』の九字を盤に銘じて、毎朝自ら反省した人があつた。盤とは今の洗面器である。毎朝起きて洗面器で自ら盥漱し、自己の面目を一新すると同時に自己の精神によごれがないか、あかがつかぬかを反省する。これぞ眞に一日の計が朝にあることを、一生涯自ら證したものであると信ずる。山中の賊を破るに易く、心中の賊を破るは難いと、哲人王陽明が告白してゐる。すなはち此九字銘は眞に心中の賊を破らうとする一種の手段に過ぎない。吾人も常住不變、日に新に、日々に新なる工夫を必要とする。惰氣は努めて排除せねばならぬ。元氣は努めて養成せねばならぬ。われ等は必ずしも道學先生を以て自ら任ずるものではない。また敢て他の人にそれを期待してもゐない。われ等はすべからく元氣旺盛で、活潑々地に、日一日を送るべきであらうと思ふ。識者は常に光明を

『前途に』認むる。あはれ凡夫は、何時も過去を追懷してゐる。凡夫の愚痴は自ら老の苦と死の苦とを告白するものである。國には歴史がある、歴史はもとより珍重せねばならぬ、それには建國以來の良風美俗即ち國體として特に國粹として永久に確立保存すべき一大價値が存在してゐるからである。しかし過去の憧憬を妬するは、現代の批政を馴るものである。昔日の文化の系統を謳歌するは、今日の文化の發展を閉塞するものである。われ等はもとより現代の文明に滿足するものではない。しかし又それを呪咀するものでもない、たゞ新年と與に新らしい氣分で、至善至美の理想國に一歩づゝ近づき進みたいと思ふ。われ等の黄金時代は決して過去帳に登錄せられてゐない。吾等の建設すべき

『理想國』は近く目睫にあるものである。折角、寶の山に入りながら、手を袖にして傍觀してゐるものは、意氣地なしか、不精者か、積極主義を標榜するわれ等の取らざる所である。四十年前の東京の新聞は、四十歲と題して、名士の當年の感想を掲載してゐる。何の意義がそれにあるか。老人の懷舊談は、青年に取りて何の興味もあるまい。四十歲後のものにおいて固より何等の裨益もあるまい。畢竟老人をして徒に過去の跡をたどりて、有もせぬ自慢話の繩をねつ造せしめるに過ぎない。夫よりも寧ろ當春の男女に高遠の理想を抱かしめて、現在に努力を續け、將來に光明を認めさすやうにするのが、我等今の急務であり、また操觚者流の天職ではなからうか。

『われ等』の朝鮮は先きに新らしき總督を迎へ間もなく又新らしき總監を迎へた。新らしい氣分はすでに京城の天地に滿ちて、山川草木皆新ならざるはない。徒らに舊株を守り、故態を踏むを自己の能と心得てゐるものは、確に時代錯誤である。かくの如き錯誤は、因循姑息家が自己の怠慢を陰蔽しやうとするの意志より生ずるものである。明治維新の大業を今から六十年前の戊辰に成つた。今上御即位の大典を擧行し給ふ昭和の第三年は實に明治維新から六十年後の戊辰である。吾人は幸にこの國運に遭遇したれば、諸般の改進に一層の新味を加へて、皆共に一層の元氣を養成し、上は聖恩の無極を頌し、下は個人としての常務の素志を貫徹したいと思ふ。これを迎新の辭とする。

江原道寧越郡邑內 京城日報 大阪朝日新聞 取次所 野瀬商店 店主 野瀬喜曾平

仁川敷島町 穩塚種苗園 電話一七三番

朝鮮海事會 船舶給水部
部長 小林幹
監査 太田忍
同 田中作二
理事 吉木佐助

謹賀新年

仁川酒造組合

仁川府花房町 仁川製革所 電話三三七番

仁川港町秋岡樓內 客主組合

仁川宮町 和洋雜貨 伊藤洋品店 電話二五三番

仁川本町 高雄仁川支店 電話二七七番

仁川龍里一〇一 張錫佑

仁川萬石町 天野秀一

仁川宮町 履物 村上商店 電話六二三番

仁川宮町 御料理 榮亭 電話四二九番

仁川新町六八 內鮮商事株式會社 電話一〇〇番

仁川本町 綿糸布商 平野商店 電話九七二番

仁川本町四丁目 穀物肥料商 福島邦一 電話一〇一四番

仁川宮町一〇ノ六 岩崎政介 電話四五五番

仁川宮町 味噌醬油商 越智商店 電話七八番

仁川宮町 傘提灯商 小紫商店 電話四二八番

仁川仲町 電話六二番 丸山組 仁川新町 電話八二九番 仁川葬儀社

仁川宮町 青島茶店 電話七〇九番

仁川宮町二〇 荒川眼科耳鼻科醫院

仁川本町 菓子商 大清商店 電話一四八番

仁川花房町三丁目 王成鴻

仁川海岸町 穀物及貿易 今井嘉三 電話八〇九番

仁川花房町二ノ八 電話六三二 菊の家 後藤勝喜

仁川新町三二 教育玩具 ほていや 電話九六九番

仁川支那町 中華商務總會

仁川造船鐵工所

仁川仲町二丁目 米穀肥料貿易商 安井鐵次郎 電話一二三番

仁川仲町 文房具 化粧品 雜貨 花井勤務堂 電話九七八番

仁川 朝鮮鹽業株式會社 電話七七八番

仁川本町 朝鮮信託株式會社 電話長一三二番

仁川鮮航會

仁川金物商組合
德本商店
內田英一商店
美濃谷商店
横田商店
村谷勘商店

仁川本町一丁目 朝鮮銀行仁川支店 電話一一番 二一二番

仁川海岸町四丁目 朝鮮殖産銀行仁川支店 電話二四〇番 六二九番

仁川本町二丁目 株式會社安田銀行仁川支店 電話五八番 一〇一番

仁川本町二丁目 十八銀行仁川支店 電話一八番 九一八番

仁川港町五丁目 朝鮮商業銀行仁川支店 電話長三七番 長六〇番 三六八番

仁川宮町 京城電氣株式會社 仁川支店 電話四三番 二二四番

營業科目 船舶代理店並ニ回漕業 免許稅關貨物取扱人 總督府指定艀船物運送店 沿岸荷役並艀船取扱 火藥類取扱 朝鮮運輸計算株式會社加盟店
朝日組本店 組長 川手今吉
支店所在地 京城、鎭南浦、釜山
仁川府本町四丁目二番地

仁川敷島遊廓組合一同

仁川敷島町 紀の國屋妓供一同

A HAPPY 1928 NEW YEAR

仁川府支那町四五 同順泰司擔保部 原賣人商 崔炳熙 電話八七六番

仁川木材商組合

仁川濱町 海陸運送 增井運送店 本店 電話長二三〇番 五三九番

米雜穀商 仁川府海岸町四丁目 廣池爲作商店 電話長一〇六四番 電略ヒヌ八(〇ヒ)

仁川 平山松太郎

仁川新町 外科婦人科 牧瀬病院 院長 牧瀬武虎 入院設備 電話四八五番

仁川濱町 絆谷鐵工所 電話六五八番

仁川港町五丁目 米雜穀 貿易商 波佐間浩造 電話二〇八番

愛敬 石鹸製造元 マルイク石鹸 仁川松坂町三丁目 愛敬社 電話三一四番

京畿道産米輸出入業 仁川本町 許斐仁川出張所 松永源次郎 電話一〇二七番

仁川内里 船舶雜貨 化粧品 卸販賣 赤松商店 電話七七六番

仁川 伴康衛 電話二四九番

仁川吳服商組合

仁川穀物檢査所長 伊佐山伊三郎

仁川本町三丁目 東京歯科 醫學士 天辰歯科醫院 天辰親夫 電話九八六番

仁川仲町三丁目 内外雜貨 卸商 南方商店 電話一六六番 振替京城一三六番

仁川本町 株式 仁川無盡會社

仁川萬石町 米穀 貿易商 青木商會 電話一三七番

仁川大和組 本店
上仁川大和組 支店

仁川内里 (八) 朝日洋行 電話長六六番 振替京城六八番

仁川山手町 能治歯科醫院 電話三五〇番

仁川海岸町 朝鮮繩叺株式會社 仁川出張所 電話長七二五番 電略(テナ)

仁川 杉野榮八

阿波共同汽船會社仁川代理店 満鐵撫順炭特約販賣店 總督府朱安官塩特約販賣店 仁川府海岸町四丁目 野口商會 石炭部 電話二一七三 回漕部 電話二一四 荷捌部 電話七五〇番

仁川 太田忍

仁川本町 米穀商 原平次郎 電話二七二 三六六番

仁川宮町三二 穀物 仲買業 深堀清吉 電話七四〇番

仁川 中華民國領事 吳台

仁川宮町二六 (八)ゴム白衣所 電話長九八二番 振替京城一六四八一番

仁川宮町 株式會社 增田屋商店 電話一〇九番

仁川仲町 壬生醫院改 仁泉堂醫院 院長 壬生一夫 副院長 菅國孔 電話六一六番

仁川 月尾島遊園株式會社

仁川山手町 今井省三

仁川海岸町 仁川自動車商會 電話六六〇番

仁川花房町 中條榮藏
仁川花房町 依知川治

仁川新町 食料雜貨 中村嘉平商店 電話四六一番 五三七番

仁川海岸町 貿易商 庄野支店 電話五四番

仁川質商組合

仁川本町 嶋谷汽船株式會社 仁川出張所 所長 畠中隆輔

仁川新町 仁川石油組合 電話七一五番

仁川府會議員 遠山秀道 龜田市平 兵働義雄

仁川本町 酒類 醤油問屋 千鳥正宗 仁川支店 電話三五九番

仁川承認運送店組合 (イロハ順)

(一)一心組 仁川府本町三丁目 電話七一四番
(は)原田運送店 仁川府濱町 電話一二五番
(全)中條運送店 仁川府花房町二丁目 電話一三〇番
(通)内國通運株式會社仁川支店 仁川府港町六丁目 電話[illegible]
(中)中村運送店仁川支店 仁川府本町四丁目 電話八一五番
(大)大和組 仁川府仲町一丁目 電話八五三・二八一番
(山)山口運送店 仁川府海岸町三丁目 電話九〇九番
(マ)增井運送店 仁川府濱町十四番地 電話二三〇番
(さ)慶田組荷捌部 仁川濱町 電話七一・四二番
(福)福島組 仁川府本町一丁目 電話五四二・五三五番
(朝)朝日組本店運送部 仁川府本町四丁目 電話九六四・五一六番
合資會社協同組仁川支店 仁川府港町二丁目 電話五二八・一〇番
(日)順發公司運送店 仁川府支那町 電話六二八番

仁川税關 食堂員一同

仁川穀物協會

回漕業 慶田組本店 仁川本町 電話九八四・二一番
慶田組荷捌部 仁川濱町 電話七一・四三番

貿易商 仁川ベンネット商會 仁川濱町 電話長二〇一番

仁川山根町 秋山滿夫

仁川山手町 府立 仁川病院 院長 岩井勝三郎 電話一〇二六・四番

仁川本町 輸入 貿易商 河野竹之助本店 電話長二二八・八番

仁川郵便局長 岡田恭藏 仁川山根町

仁川山根町 島崎彦次郎

仁川仲町 草刈農具製作所 電話八八三番

阿波國共同汽船株式會社 第二十六共同丸

仁川穀物協會 理事 (七)仲立組 電話六四番・五七七番 田岡留吉 橋口勘左衛門 木下德三 木村爲一郎

仁川穀物檢査所長 橫山要次郎

仁川仲町一丁目 西川平治郎

仁川本町 海陸運送業 一心組 電話長七・四番

仁川宮町 用達 便利舍 電話二二四番

仁川新町 合資會社 メリヤス 大昭商店 電話三八五番

仁川本町四丁目 硝子商 八木與一商店 電話二二一番

仁川教育會

仁川本町四丁目 河野自轉車店 電話六五番

仁川濱町 石炭商 林田支店 電話四〇七番

仁川 磯野勝見

仁川本町 (キ)野田紙商店 電話六四 (振替京城三八二)

朝鮮燐寸株式會社 仁川金谷里 電話長一五一番

仁川本町四丁目 萬盛庵 電話八四二番

仁川本町四ノ七 小間物 清水商店 電話七七番

仁川山根町 醤油釀造業 倉重商店 電話三一四番

仁川支那町 (三)硝子製造所 電話五四番

仁川仲町 原金旅館 電話三二番

仁川本町 印章 ゴム印 名刺 藤山明治堂 電話三五番

仁川本町一丁目 菓子商 龍榮堂

仁川本町 花屋旅館

仁川仲町 陶器商 日下部支店

仁川本町一丁目 和洋雜貨 古田洋品店 電話六四一番

仁川新町 菓子製造 松浦元三

京畿道仁川府外朱安驛上 米穀商 渡會儀市 電話一〇四八番

朱安鹽田協會

仁川仲町 御料理 天狗 電話六番

仁川内里 (仁)共同托賣販賣所 深堀市次郎 電話八六番

仁川港町 米雜穀 肥料 松本要五郎 電話六七九 一五番

仁川宮町 御料理 三吉野 松田 電話四〇八番

仁川宮町 西洋料理 東洋軒 電話五一九番

仁川本町 陶器 硝子 星光商店 電話二一二番

仁川本町 文房具商 中川勝美堂 電話三四一番

仁川本町 株式 小川現物店 電話七二六番

喪中に付年末年始缺禮仕候 梶谷靜風 仁川山手町

合名會社 貴金屬時計商 糸岐商店 仁川本町四丁目 振替口座京城七〇一番

仁川本町四丁目 海運業 由木商會 電話長九二八番 七七二番

仁川海岸町三丁目 米穀商 松浪商店 電話一七〇番

仁川海岸町 門畑精所 電話九二三番

仁川宮町 松本醫院 電話三四五番

仁川寺町 久木田醫院 電話七〇四番

仁川寺町 產婆 芝モト 電話四一八番

仁川本町 共益社 中村虎三

仁川山根町 上田文次郎

仁川仲町 米雜穀商 俵商店 電話一〇六九番

仁川本町 北京料理 中華樓 電話九五七番

仁川支那町 田邊石炭店 電話八一九番

仁川本町 洋酒 雜貨 鐵砲 家具 藤木商店 電話四〇番

仁川仲町 田邊病院 電話四〇九番

仁川本町 度量衡 委託販賣 太田與吉

京畿道富川郡多朱面長壽里 活牛 移出業 谷本茂三郎 電話七五三番

仁川龍里 仁川信用組合 電話長七一六番

仁川本町 仁川汽船株式會社 電話長六一番

仁川 村田孚

仁川龍岡町 海陸物産 貿易 仁川物産株式會社 電話長六八五番

仁川山手町 中元源五郎

仁川花房町 和洋酒類問屋 豊田商店 電話六四六番 四五三番

仁川支那町 仁川水產株式會社

仁川山根町 仁川稅關出張所長 黑田馨

汽船汽帆船陸運送 通關手續穀物斗量 稅關貨物取扱 仁川本町一丁目 福島組 電話五三五番 稅關構内出張所 主任 大平友市 電話五四二番

仁川仲町 雜穀 藥品 福岡商店 電話五三番

仁川宮町 食道樂本店 電話二五五番

仁川本町三丁目 米雜穀 肥料 貿易商 土居喜七商店 電話長六七三番 電略(ト)ヌ八(トイ)

仁川海岸町 回漕業 木村組 電話三一番

仁川精米業組合員 (イロハ順)

仁川府濱町 馬場精米所
仁川府濱町 朝鮮精米株式會社仁川支店
仁川府濱町 力武精米所
仁川府花町 株式會社奥田精米所
仁川府宮町 合資會社加藤精米所
仁川府宮町 合資會社吉田精米所
仁川府花房町 合資會社園田精米所
仁川府花房町 辻川精米所
仁川府濱町 直野精米所
仁川府萬石町 有馬精米部
仁川府萬石町 齋藤精米所

天下一品

キツコーリユ

キツコーマン

ほまれみそ

野田醬油株式會社 仁川 朝鮮支店

株式會社 仁川米豆取引所取引員組合

取引員
(イ)今村覺次郎
(福)小林藤右衛門
(〇)桑野健治
(太)新田義民
(大)堆浩
(主)金仁梧
(富)金永始
(マ)菰淵紋七
(ウ)内海清藏
書記長 三井一三

仁川米豆取引所

電話 一四 一八三 七五四

謹賀新年

京城府本町三丁目
増田本店
電話本局一〇九番

東洋塗料株式會社
京城岡崎町六九
電話龍山八三二番

大和組
京城府漢江通十三
電話龍山四一〇五番

京城天然氷會社
京城府漢江通一五
電話龍山一〇〇番

セメント瓦製造販賣
三ツ輪組本店
京城府京町一七
電話龍山五三七番

時計貴金屬類
天眞堂時計店
京城府漢江通十三
電話龍山五六二番

龍山驛前
蒲原組
電話龍山一〇八 一〇九番

土木建築請負
藤田組
藤田安之進
京城府元町二丁目五六
電話龍山五五一番

光延丈成
京城府漢江通三
電話龍山八二二番

土木建築請負
山本幸次郎
京城府漢江通十一
電話龍山四七番

京城本町貳丁目
大綱呉服店
電話本局一二四五番

京城府長谷川町二一番地
大森薫次

事務所 太平通二丁目二〇五
京城飲食店組合
電話本局四一四番

京城府旭町壹丁目參番地
齊藤齒科醫院
電話本局一四一四番

京城府大門通二丁目
堀井謄寫堂出張所
電話本局四〇二番

京城府長谷川町
朝鮮製藥合資會社
社長 須藤久左衛門
電話本局一三〇九番

三井合名會社
朝鮮農林事務所

京畿道金融組合
聯合會

合資會社
朝鮮館

京城明治町二丁目
東京 大阪
美粧倶樂部京城支部
田中直
電本局三七二七番

京城消防組
組頭 田中半四郎
小頭 大石貞七
小頭 村山源平
小頭 荒谷庄太郎
小頭 佐竹小太郎
外一同

京城印刷組合

京城府南大門通三丁目
共同火災保險株式會社
京城出張所
電話長一七七八番

盛文堂新聞舗
電話本局四二六番
同 南大門通支店
電話本局三六〇五番
同 漢江通支店
電話龍山四一四番
同 西大門町支店
電話光化門一八〇四番

京城府太平通二丁目
印刷 株式會社 大海堂
電話本局一七〇六番

京城府漢江通リ十一
合資會社
間組朝鮮支店
電話龍山一〇三四番 四四〇番

東小門外
平山牧場
場主 平山政十
電話光化門一三三番

京城府本町三丁目
石川辰次郎
電話本局一八七番

鷹取堯一

東洋蓄産興業
株式會社
京城府義州通二丁目

東洋蓄産興業株式會社直賣店
東洋屋
京城本町二丁目
福岡虎雄

京城長谷川町
合名會社
近澤商店
電話本局二二七五番 長九四三番
振替京城二二五三番

京城本町
しらぎや
電話長本局二〇六八番

京城明治町二丁目
宇治屋茶店
電話本四一二番

京城府明治町
月本商店
電話本局二二二八番

登録商標
漢陽鶴
島山酒造場
電話龍山一五四番

共濟生命保險株式會社
京城出張所
所長 平野眞

京城府南大門通り五丁目
朝鮮醤油製品卸商
輝松商會
電話本局二四〇二番
工場龍山一〇四五番

京城府本町二丁目
富屋洋品店

京城驛前
鐵道指定旅館
二見館
經營 塚たき
電話本局六八八 七二四番

京城府本町一丁目
三好野本店
電話本局一六五三番

京城府黄金町二丁目
花園工務所
電話本局一九三六番

京城酒類卸商組合

町田新聞郁文堂本店
電話本局一七五番
同 東部支店
電話本局五五二番
同 龍山支店
電話龍山五二一番
同 水標町支店
電話光一四一六番
同 仁川支店
電話四五番
同 清凉里支店

京城旅館組合

小寺組
小寺忠行
京城府竹添町
電話光化門一五九 一二七四番

本券番

京城府永樂町二丁目二九
共濟無盡株式會社
共濟信託株式會社

京城龍山驛前
宮崎式ペーチカ
宮崎組本店
電話龍山八四二番

京城質屋組合

京城新町遊廓組合

京城府黄金町一丁目
合資會社
泰明商會京城出張所
電話本局三三〇一番

大日本人造肥料株式會社
京城出張所
京城府黄金町二丁目

京城日報

統治の朝鮮　其三

官民協力　一致を希望する

内定一般について

内務局長　生田清三郎

自治問題　昭和三年の新春を迎へ所懐を述べます。大正九年地方制度の上に大改革を加へられ、道評議會、府協議會、面協議會の如き諮問機關たる評議會を設けて地方自治の訓練を經せしめられたのであります。爾來各地方共大體順調かつ着實なる發達を遂げつゝあるが、最近地方自治制の完成に更に一歩を進むべしとの聲をしばく耳にします。しかし地方の實際に即しまして何れも同一に取扱ふのは困難であり、今日の民度を以つてしては普通に直に議決機關とするのは一般に適當しないところだと思ひます。惟ふに、地方自治に一歩を進めるには二つの要件が必要であると思ひます。第一は地方民衆の近代的公民訓練を要すること、第二は財的負擔力が充分なることであります。言葉をかへて申せば地方自治が完全に行はるゝが爲には各團體の組成員が平均に相當なる民智と民力を兼ね備へることが先決問題であらねばなりません。

思想問題　歐洲大戰の結果世界的思潮の動搖によつて朝鮮にも著しく思想の動搖を見たのであります。其後歐洲各國共再び反動として勤儉努力の美風を生じドイツの如きフランスの如きイギリスの如き何れも思想の安定に歩を進めて居るのでありますが、朝鮮においては今尚輕佻浮薄の風を生ずるに至らないうらみがあるのであります。從來地方團體においてもこの方面に相當努力せられた所もありますが、未だ大勢は容易に淺薄な思想傾向を有する如くでありまして朝鮮の健實なる進歩發達を期する上に遺憾に感ぜられます。朝鮮官民を擧げて勤儉力行の美風を涵養することに努力する必要を痛感するのであります。

土木事業　は國運發展の先驅をなすものでありますから、われくも常に道路、港灣、河川その他の事業に營々として力を盡くして居るのであります。

道路　先づ道路について見まするに、道路總延長一、二等道路三千二百五十里、三等道路二千八百九十二里の内、一、二等道路に於て二千三百五十七里、三等道路に於て千九百九十九里の改修を了して居ります。即ち總延長に對して約七割の竣成で相當迅速なる進歩であると思ひます併し尚未改修道路約三割について一、二等道路のみについても今後の改修額は一億二百餘萬圓に上ります。

港灣　次に港灣でありますが併合以來十一ヶ所の開港に對して各相應に國費を投じて設備の完成に努めてゐる、その總豫算の額は二千八百餘萬圓であつて各年度の預目を設め相當の利用を見つゝあるのであります。尚以上の外豫算の確定せるもの一千餘萬圓であつて群山、木浦、淸津、雄基及び多獅島の諸港に對し修築を加ふることになつて居りますが、今後時勢の推運に伴ひ改良增設の爲には更に約八千七百餘萬圓の經費を要する見込であります。

河川　又河川工事に關しては多額の工費と工法上嚴密精査を要する關係上從來河川調査に付て數年間を費しましたが大河川に付ては漸く大體の調査を終り大正十四年度以來錦江、洛東、大同江、城川、大寧、萬頃、載寧の諸河川の改修工事に着手することになり目下工事中なのであります。其の工費豫算の總額は五千五十四萬圓で之が竣成の曉に於ては治水上大いに面目を改める事と思ひますが、經費の關係上何れも局部的工事で、河川整理を略完成するには尚一億三十餘萬圓を要する計算であります。就中河川に付ては從來根本法規の定まりたるものなく整理を推進する上に不便が少くなかつた爲に、過般新に河川令を制定しまして據る處を明定し、其の結果として多少地方の負擔を增すことになります

要するに　朝鮮における地方行政土木行政につきましてはなほ將來幾多の難關を切り拔けて完成の域に進まなければなりませんので、これに就しましては官民一致協力以て所期の目的を達したいと考へて居るのであります

財務行政の回顧と希望

財務局長　草間秀雄

諒闇の一年も明けこゝに希望新たな昭和三年の春を迎へることになりました。年と共に財界も刷新その陣容を立て直さんとする氣運のあるのは、まことに喜ぶべきことと思ひます。

金融制度　朝鮮の金融制度改善に關しては昨年度來調査會を開き、官民相寄りこれが調査審議を行つてをりますが、時勢の推移その他種々の事情の爲意の如く進捗を見なかつたが、今年は漸く金融制度の改善、金融機關の整備等につき更に調査を促進し、朝鮮の現狀に照し實施可能なるものについては直にこれを施行し、内地の金融制度改善と相呼應し時代の進運に後れざらんことを期する次第であります。

銀行檢査の爲人員も充實しましたから金融制度の改善と相並んで今年は銀行等の檢査監督にも一般の努力を致し朝鮮金融界の基礎を堅固ならしむるに遺憾なからんことを期待して居ります。金融組合の增設組合思想の普及は昨年と同一方針を以て進みたいと考へて居ります

豫算綱要　本年の豫算は依然緊要多端でありますが、林野行政の進展は産米增殖計畫の遂行上不可缺なる要件であり治水計畫にも至大の影響をおよぼすものでありますから、今年は砂防事業の促進、森林鐵道の敷設等森林事業方面に力を注ぎました。尚懸案であつた下級官吏の優遇は昨年に引續き本年も相當考慮され、社會政策的施設として簡易生命保險もやゝこれを朝鮮に實施する豫算に計上されたのであります。その他大學醫院の開設、本秋執り行はせらるゝ御大禮記念の施設、來秋施政二十周年を記念する爲の博覽會費などの計上も、豫算面から見た今年の重な施設と考へます。

總督府始政以來早くも既に二十年に垂んとし、朝鮮の財政に關する各種の資料等厖大でありますので、朝鮮財政の事項を調査編纂することは緊要の事業と考へ、昨年幾分その資料蒐集に努むる所有つたのでありますが、本年は之れが編纂に一段の努力を拂ひ、施政二十周年記念を期し、朝鮮財政史の編纂を完了致したいと考へて居る次第であります

稅制改正　租稅制度の實施については、昨年御諒闇に官民各位の御協力を願つて置きましたが、その結果を見まするに幸ひ大した問題もなく圓滿に豫期の成績を擧げ得ましたことは洵に御同慶に堪へない所でありまして、この改正により都邑面の負擔も是正すると共に、新に伸張力ある稅種の加はつたことは將來朝鮮の歳入上一の强味を添へたものと思ひます。しかしながらこれを以て朝鮮の稅制は完備した譯ではありません。今年は更に第二次の整理案につき調査の歩を進め、租稅制度の整理を遂つてこれを實行し租稅制度の確立に向つて邁進したいと考へて居ります。稅制の改正は二千萬民衆に直接關係する所頗る大きく官民一致の協力にまたねばなりませぬ。從來通り官民各位の理解と援助とを賜つてやまない次第であります。」

輕擧妄動するな

警務局長　淺利三郎

半島の治安は良好の域に向ひ、二千萬の民衆ひろく良化に浴するをうるは洵に同慶に堪へない次第である。殊に昨年中は一、二の特殊事件の發生を見たる外平穩であつたことは、官民擧げて警察の趣旨に克くその業にはげみ、臣子の本分を盡くした結果であつて、全く民衆が統治に協贊せる意識の發露であるといふも可なしと思ふのである。

財界と國境　昨春財界に一大變動あり、其の餘波は朝鮮にも及び、殊に『モラトリアム』の實施を見るに至つたが、此の間民心は少しも動搖することなく、又特異なる事象の起らなかつたことは誠に幸福の至りである。又國境地方の匪賊は近年益其の本據を失ひ、昨年の如きは殆んど其の影を潛め、僅に平安北道に二、三の侵入を見たが、彼等は鮮内の秩序全きを感知すると共に自ら其の非を覺り擧げずして國境を顧み出づるに至つたのである。誠に慶賀の至りである。

思想取締　現在一般民衆の思想は穩健な經路をたどりつゝあり、殆ど憂慮すべきものはないが、たゞ一部不良分子はやゝもすれば純朴なる良民を蠱惑せんとするものあるも、彼等は單に賣名或は一時の感情不平にかられて妄動するもので、大局を洞察するの明識を缺ぎ遂に國家に堪へないのである。然るに前途有爲の青年學生にして彼等の煽動に乘じ、將來を誤るものがないでもない。由來學生の時代であつて思慮未だ定まらず、各種の思想を批判して取捨選擇することは容易でないので、いやしくも學生はその本分に則り純理の研究に努め、將來有爲の材たることを期すべきである。若し徒らに他の煽動に乘じ、研究の度を越え輕擧妄動するが如きことあらば、たとひ學生なりといへども將來斯る措置を執らねばならぬ。吾々も思想善導の關係ある當業者は勿論、社會の指導者たる先輩と一般とが相俟ち、社會の明察と努力とを涵養することを忘れぬ様希望するのである。」

衛生改善　近時衛生に關する施設は著しく改善せられたとの感があるのであるが、民衆の衛生思想はなほ未だ幼稚の域を脱せず、チブス、痘瘡、猩紅熱等は毎年流行を繰返し多數の人命を失ひつゝあるは洵に遺憾に堪えぬのである。これが豫防については當局の諸種の施設を以ては徹底を期し難い限り衛生施設を進めてゐるのであるが、要は民衆の自覺にまつべきものが多く、衛生に對する自覺にまつてこれが撲滅を期したいのである。

鐵道―遞信―專賣　三外局長の抱負

全鮮の國私兩鐵道　延長二千哩に及ぶ

鐵道局長　大村卓一

昭和三年は、諒闇明けの第一年であると同時に、朝鮮においては鐵道を迎へて諸施設の歩を進め、鐵道また京仁間の一部に始めて營業を開始してより方に三十年、前途の光明いよく輝々たるものあり、誠に意義深くかつ希望に滿つる年である。しかして鐵道は經濟、交通各般に亘り内地大陸に介在する半島の

◇…**鐵道**　は内地、大陸及びシベリアを經由して歐洲各國に通ずる國際交通上極めて重大なる使命を有するものであつて、昭和三年一月現在その延長は國私兩線を合して一千九百五十八哩余に達してをる。然しながらこれを朝鮮の有する面積並に人口密度に就て、本州、九州、北海道等と比較すると、何れもおよばざる幼稚の狀態におかれてある。ゆゑに、さきに昭和二年度以降十二ヶ年にわたる新規計畫をたて、既定計畫に加へ新規五線の建設および私設鐵道五線の買收を企畫し、第五十二議會に提案せられたのであるが、民間における有志各位の御援助と相まつて幸にして協贊を經、爾後着々施設の實施中に屬することは半島の爲に慶賀に堪えない

◇…**欣幸**　とする所である。而して昭和三年度に於ては北鮮の雄基を起點として既に起工された圖們線の工事も本年は新規に之を延ばし其一部三十哩は明年中營業開始を見るべき豫定である。釜山と元山とを結ぶべき東海線も亦、元山方面は安邊を起點として既に工事中に屬し本年は通川迄竣工すべく、其一部二十哩は明四年度中に營業開始の豫定である。その他惠山線滿浦鎭線に於て東西の要港釜山、群山及び木浦を結ぶべき慶全線、鴨綠江岸の大森林並に、平南の炭田地方を開發する滿浦線、南江上流地帶の森林を直ちに日本海岸に達せしむべき惠山線等は夫々豫定計畫に從つて建設の歩を進められ、私鐵の買收は既に全北外一線を完了し、既定計畫線中の平元線は昨年既に平壤側一部の營業開始を見、本年更に之を延長して順川に達せしめ、尚元山側に於いても其工を起す豫定である。多年の懸案であつた咸鏡線は本年度其の全通を告げ、朝鮮中部に於ける要港仁川より半島を橫斷して一路直ちに五百哩、北鮮及び北滿との交通に一新生面を開くに至るであらう

◇…**一方**　私設鐵道方面では現に工事中のものに金剛山電鐵線、朝鮮鐵道北線、咸北線あり、その他咸北線、京南線、忠南線等それくその延長を企圖せられ、おのくその經濟地盤を目標として計畫を進めらるゝに至るべく、南朝鮮鐵道會社は鐵道計畫中ですでに認可を見たれば、これまた近く起工の運びに至るであらうかくの如くにして半島における鐵道の建設は國私相應じて着々進展を見、その營業線は本年中漸く二千マイルを超え、鐵道網の普及また欣々の趣ふてその統治の根本方針に順應し、時勢の推移に適應して幾多の新なる施設を必要とするに至るべく、國際交通、船舶および自動車との連絡關係、小運送、包裝改良、特に朝鮮産業振興の方策に關する問題等は、各方面の調査研究と相まつて、國私鐵道經營の上にその反映を現すに至るであらう事を信じ、既に普及の程度未だ完からずといへども、その延長は下關より東京、函館を經由して滿鐵に達しなほ余りある距離に相當し

◇…**既に**　投下されたる資金は大約三億七千萬圓の巨額に達する國家の大事業であつて見れば須臾もこれを忽にせず、最大の能力を發揮して使命の完行を期さねばならぬ。しかして鐵道業務の遂行に關しては、業務の性質上より、一般公衆の理解と同情、殊に我内鮮從事員の協調一致、愛公的精神の發露を必要とするゆゑんである。將來益々邁進されんことを希望する。」

積極！を目標に

遞信局長　蒲原久四郎

諒闇の一年を送つて、こゝに明朗たる昭和三年の新春を迎へたるはまことに芽出たい極みであると思ふ。雙手を擧げて國運の隆昌を禱る次第である

◇…**昭和**　二年は諒闇であつた爲に、總てが消極的になり易い傾向があつたが、本年は更新の意氣を以て國民一般が大いに積極的に邁進すべきであると思ふ。遞信事業の如き社會と密接な關係を有する事業にありては、時勢の進展に遲れざるやう、否むしろ時勢よりも一歩を進むる方針を以て事業の改善、事務の充實を圖つて來たが、來年度に於ては、更に積極的な施設を爲すつもりで、通信事業方面では郵便局所の增設、國境方面居住者の利便を圖る爲に國境小包郵便の施設と自動車遞送の擴張、通信網完成の一方途としての無線電信局の新設等を計畫してゐる。附帶事業としての簡易生命保險事業の開始がある又航路事業方面では從來の航路の擴張充實、朝鮮東京線の新規命令航路の開始等も目論んでゐる、電氣事業方面では從來の發電水力調査は無論之を續行するが尚水力電氣會社の設立にも力を致したい。」

新しい仕事としては、昨年から施行された航空法の實施による航空事業の取締および監督の充實をはかると共に、航空路の設置、航空標識の新設に力を盡くす考へである。いま一つ大きな仕事としては、現在主として局員に依る遞信從業員の共濟組合における年金制度の開始がある。現在官吏以上に對しては恩給制度があるが、雇傭人にはその保障がない。この共濟組合の年金制度を開始すれば、今までのこの缺陷が補はれることになるのである。かくの如く、昭和三年度においては遞信事業上においてなすべき仕事が多々ある『積極的に』これを本年のモットウとして、目的に邁進しやうと思つてゐる

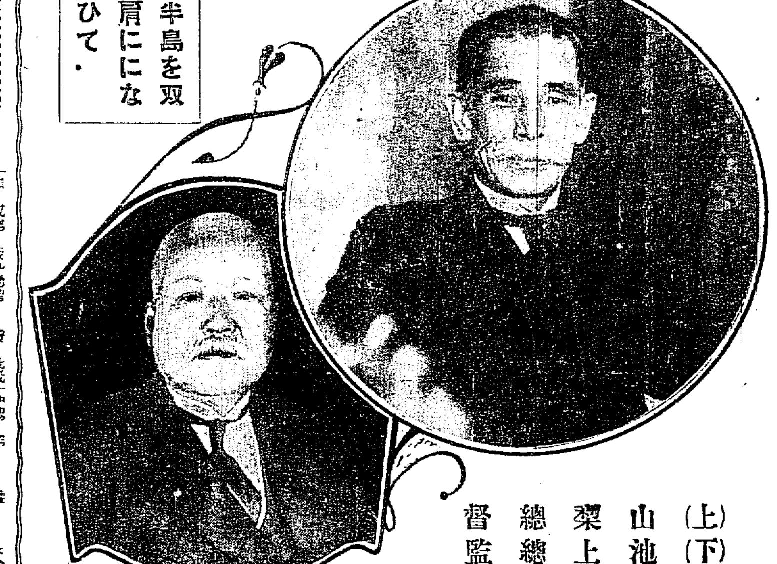
本年より實行期に入る專賣二大事業

專賣局長　水口隆三

乾坤こゝに改まり昭和三年の新春を迎へ謹みて諸君の御清福を祝し奉る、顧みれば私は專賣局長を拜命して以來こゝに二年有半、就任のはじめはタバコ專賣は漸く創業の域を脱し得たばかりであつて、專賣の基礎は未だかたまつて居なかつたのであります。そこで從來これを鞏固にして專賣事業の使命を全ふしたいと心掛て何かと經營整理を行つたのであります。當時朝鮮に於ける煙草の消費狀況を見れば、其の一人當平均は一圓二十錢五厘であつたのが今日に於ては一圓五十六錢九厘と云ふ程度迄進んで來て、現在政府の收入も著しく增加を示すに至つたのであります。之れは主として不正密造の取締を嚴にして不正煙草の密賣買を撲滅した結果であつて、自然に密造の販路が拓けた譯ではありません。

さきに政府は鹽祭を以て自家用タバコの耕作を二段に分つて整理しその二期を昭和四年より、その入鹽を昭和五年より廢止することとなりました。これが爲には販賣機關を整理し製品の配給を普遍的ならしむることの重大なる關係があるので、これまたさきに販賣機關の組織改善に着手し漸くその事業も緒についた次第であります。この二つの大改革によつて豫期の效果を收むるにおいては益々製品の販賣行き增進を來たし、政府の專賣事業の基礎はいよく鞏固となることを信ずるのであります。即ち本年よりはこの二つの專賣事業の改革を實行し又は實行の準備をなすべき域に進入つたのであります。尚現在政府の製造煙草は往々朝鮮人の嗜好に適せざるものありとの批難もありますので、之に對しても常に考慮を廻らして居ります。換言すれば鮮内煙葉を主要原料として、朝鮮人の嗜好に適合せしむる様改良に付き大に研究を重ねて居るのであります。新年劈頭にあたり煙草の普及を以て上述の任務の遂行に全力を注ぎたいと思ふ次第であります。」

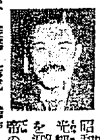
半島を双肩にになひて．



（上）山梨總督　（下）池上總監

産業施設の一般

殖産局長　池田秀雄



昭和第二年の新春を迎へ民は新たな希望を抱いて朝鮮の統治も年一年と健實な歩みを續けてゐる。朝鮮の御聖德を仰ぎ奉り謹み御同慶に堪へない、この機會において本府計畫の一般を概述したい

田作改良　朝鮮における耕地面積は大約四百四十萬町歩その内田の面積二百八十四萬町歩にして耕地面積の三分の二を占めて居るが田作物の反當收量は極めて少く、これが生産增殖の餘地は頗る多い、けれども從來本府は米の增殖に主力を傾注したる結果田作物の改良增殖に就しては積極的に力を致すことが出來なかつた、然し鮮内の食糧作物の輸入增加の趨勢にあるので、これを防止すべく畑作物改良增殖計畫を樹て全鮮に亘り耕地を調査した結果に基づき田作改良增殖を企圖したが財政の都合上多額の經費は支出が出來ないので先以て昭和三年度には鮮内畑作の主要なる生産地帶六十五郡を選び、各郡は十ヶ所の採種圃を設置し、其の郡に一名宛の專任指導員を配置し、漸次普及增殖を圖る計畫である。

增畜獎勵　朝鮮における畜牛については、戰時の需要に見るに年々生産消費は相殺され增殖の餘地なく、その增殖をはかるは刻下の急務で將來少くとも二百二十萬頭の畜牛を飼養せしむる必要がある。たゞ財政の都合もあつて一時に大計畫の實現も困難であるから差當り最も急を要する地方畜産同業組合をして、優良なる畜牛を購入せしめ、無畜農家へ預託して生産增加と素質の改良とを圖ることゝし、之が助成の爲本府は經費の一部を補助する爲、昭和三年度の豫算に補助金を計上した

漁業獎勵　朝鮮は三面海に臨して居り、その沿海の關係が魚の洄游に適して居るので頗る好漁場に富み、魚族も又豐富である。昭和元年の統計によれば漁獲高五千三百七十萬圓、製造高三千四百十萬圓、養殖高二百四十萬圓で計約一億圓となり、下關の水揚高の四分の一位である。かくの如くも一億圓中七、八割は朝鮮近海より遁逸すとの推定である。かくの如く有望なる漁場に富める朝鮮水産業に對し積極的獎勵施設をなすは最も緊切なることである。

故に第一着手として沖合漁業獎勵の爲め優良漁船の建造補助を行ひ、昭和二年度より干潟淺海利用の爲め海苔、牡蠣の增殖に對する獎勵補助並に漁獲物處理獎勵の爲め製氷工場貯氷庫に對し補助を行ひ、一方淡水養魚の振興を圖る爲め養殖場を設置し又不正漁業の取締及魚族の繁殖保護の徹底を期する爲め取締船を新造した

鐵鑛增産　朝鮮鑛業界の四大鑛物たる金、銀、鐵、石炭、黒鉛、石炭については地質調査、石炭試錐等の施設或は無煙炭田の合同整理等これが開發に努めたる結果、漸次その成績を擧げつゝあるが、その他の鑛物については未だ施設成績の見るべきものなく、これ等の將來については一段の努力を必要とする。朝鮮における鑛物の資源はこれを内地に比しその賦存狀態は多に恵まれてゐるものであるから、これが開發助長を期するはひとり鮮内のみに止まらず帝國産業の振興上誠に緊要の事に屬す。なかんづく鐵鑛において特に然りである。ゆゑに本府においては來年度より鐵鑛調査を開始し、大に鐵鑛製錬事業の根本策を確立する積りである。

謹賀新年

蔚山圖書館員一同

田中秀次　京城日報支局

慶北慶州公立普通學校長　山田立藏

慶北慶州公立尋常高等小學校長　中司顯

慶北義城本町　食料品雜貨　弘野商店

慶北安東邑　大邱銀行安東支店

慶北安東郡東面西部洞　坂本治

慶北道　榮州警察署員一同

慶北道安東邑内　大井藥房　電話一四番　振替七九番

慶北道奉化警察署長　洒井仁

慶北英陽警察署長　大石直一

大邱府東城町二　長谷川表具店　電話九四八番

慶北道原産種苗製造所　矢澤茂登一

大邱府錦町二丁目　平櫛支店

慶北青松警察署長　澤盛治

大邱郵便局職員一同

大邱東雲町　棟居酒店　電話八二四番

大邱東本町一丁目　酒類醬油　片木屋酒店　電話五五一番　振替京城六八三八番

大邱府東城町二丁目　大八無盡株式會社　電話一〇〇七番

大邱錦町二　古賀煉炭製造所　電話一〇三九番

鳥致院　硝子陶器　㊃坂口商店　電話一七番　振替京城二七三六番

鳥致院本町　增井商店　電話四五番

鳥致院　尾川商會本店　電話一二三番　支店公州本町

鳥致院吉野町　表具店　山内廉吉

京釜線鳥致院　古市廣之助

京釜線鳥致院　洋品雜貨　㊝アマヤ商店　電話一一九

京釜線鳥致院　水曜會員一同

朝鮮京釜線鳥致院　教科書文具商　小野三郎　電話一三〇番

京釜線鳥致院　呉服物商　明地松藏（大阪朝日新聞販賣所）　電話五七番　振替京城七八九番

京釜線　吉田庄太郎

京釜線鳥致院　橋本惠吉

京釜線鳥致院　藥房　㊦藤内爲吉　電話一二番　振替口座京城三一三番

京釜線鳥致院　鳥致院運輸倉庫株式會社　電話二三番

京釜線鳥致院　㊋運送部　電話五八番

京釜線鳥致院　泉齒科醫院　主泉恭一　電話三六番

京釜線鳥致院　白井素介　電話一四番

朝鮮京釜線鳥致院本町　㊍矢谷商店　電話二八番　振替京城一六四〇六番

京釜線鳥致院　㊣益田材木店　電話一〇〇番

朝鮮京釜線鳥致院　淺川武夫

朝鮮京釜線鳥致院　朝鮮物産陶器委託販賣並　㊅淵廣助商店　電話一五番　振替口座京城三七一二番　電略（オ）又ハ（オセ）

京釜線鳥致院　永後事務所　電話二五番

慶南三千浦　織田照一

三千浦　醫　朴東烈

慶南泗川郡　三千浦公立尋常高等小學校職員一同

三千浦　太田六之助　電話拾番

慶北慶山郵便所長　灘井榮一郎

慶北慶山水利組合長　小林德次郎

慶北慶山驛前　醫　久米榮吉

慶山　慶山公立普通學校職員一同

慶北　慶山面事務所職員一同

あけましておめでとう　あいかはらず御ひいきに

御料理　北一樓　電話百〇一番

小奴　秀丸　〆鶴　花奴　友奴　政奴

若奴　君香　チヨボ丸　福奴　小福　芳子

北一樓溫陽支店　力彌　秀勇　若奴　丸子　チヨボ

慶北　慶山郡廳　慶山農會　慶山森林組合　慶山蓄産組合　慶山水利組合

朝鮮京釜線鳥致院　ヨ中井醬油合資會社　全木材部

朝鮮スタンダード石油會社代理店鳥致院　鳥致院松茵石油組合　岡清太郎　辻川喜太助　中井留四郎　山地才治

京釜線鳥致院　南北棉業株式會社　繰棉工場

極東の一等國や初日出……巖谷小波氏筆

農村の疲弊とその救濟策

農科大學教授 農學博士　佐藤寛次

一

國を擧げて農村の疲弊といふことが論ぜられてゐる。然しながら果して農村は疲弊してゐるであらうか？疲弊といふことは比較的の問題で、一概に今日の農村は疲弊してゐるとは斷言出來ないやうに思はれる。

徳川の末期から明治初年

へかけての農村と今日のそれとを比較して見ると、農村の文明的施設その他の點において農村は決して疲弊して居るとはいはれない。今日、世界を通じて、農村における電燈の消費量は日本が第一であるとまでいはれてゐる。世界の都會中の都會であるロンドンの町中においてさへ、未だに電燈をつけてゐない家がある位である。これに引かへて、日本においては住宅の八割までは電灯をつけてゐる。然も、日本の戸數の大部分は農村が占めて居ると考へると、かうした文明的施設の點からいつて、決して今日の農村が疲弊してゐるといふとは出來ない。

また、教育方面についても同樣のことがいへると思ふ。昔は我國の人口の大部分はろくに文字も讀めないいはゆる無學文盲の徒であつた。教育といつても其範圍は實に貧弱なもので昔の學校である寺小屋と今日の學校とは、どの點から考へても比較にならない程隔絶の差がある。今日の農村には、なるほど都會の如く大學とか高等專門學校とか、或は中學といふやうなものはないが、少くも小學校のない村落は皆無といつてもよい。即ち小學教育は國民たるもの義務教育として課せられ、如何なる農村といへどもこの程の教育を受けてゐないものはない。

またわれ〳〵の日常生活、即ち衣食住の點においても昔と比べ物にならないほど豐富な内容を持つてゐる。このやうに昔の農村と今日の農村とを比較して見ると文明的施設の點からいつても教育の方面からいつても或は衣食住について考へても、進歩こそしてをれ、決して疲弊してゐるとはいはれないといふ結論に到達する。それは社會全體の文化が進歩した結果であつて、農村といへどもこの進歩の足なみからはづれてゐるとはいへない。

然らば

今日の農村が疲弊してゐる

といふのは如何なる點からいはれるのであらうか？それはいふまでもなく生計の方面からにおいてである。實際、今日の農村の生計狀態を調べて見ると、中には例外もあるであらうが、一般の農業階級の收入は支出を補うてあまりあるといふ事情ではなく、かへつて支出の方が收入より多いといふ現狀であるこの點において農村が疲弊してゐるといふことは蔽ふべからざる事實である。それでは、何ゆゑに收入が支出に伴はないやうになつて來たか？

二

元來日本は自給自足をもつて經濟の根本的原則として來た。即ち自然經濟と稱するものがこれである。德川時代においては、小作料は定まつてゐて、小作人は[illegible]に收穫の大部分を年貢米としておさめ、その殘りをもつて彼等の生活を營むといふ風であつた。當時の生活はすべて農産物をもつて生活をしてゐたから、彼等の生活はある意味において極めてのんき氣であつた。[illegible]と稱して生活狀態は貧弱であつたが、氣持ちの上においては餘裕であつた。」

古い記錄によると、農業勞働者の賃銀は大體において米一升といふ相場であつた。それから少し多忙な時節、例へば田植とか稻刈りといふやうな場合には米一升二三合であつた。換言すれば、自給自足の生活を營んでゐた當時においては、一人一日當たりの生活費は大體米一升で足りるといふ狀態であつた。米一升の中、五合は主食とし、他の五合を副食物にかへたものである。

昔と今日と比べても一人の人間が米を食ふ量は變らない。然しながら自給自足的な自然經濟から代つて、貨幣經濟が社會を支配するやうになつてからは、殘りの五合の代價をもつて他の生活費に當てるといふことは不可能となつて來た。この

貨幣經濟が社會に入り込

こんでこれを支配するやうになつたのが農村の收入が支出に伴はなくなつた最も大きな原因である。今日、昔のやうな簡樸な生活をするためにも少くも米三升位なければ足りない。即ち、五合をたべ、殘りの二升五合を金にかへて生活費に當てるのである。勿論、今日の農業は昔と比べて、栽培技術の上から見て、進歩してゐるといふことは事實である。然し進歩した栽培法を以てしても昔の三倍もの收穫を得るとは不可能である假に三倍の收穫を上げうるとしても、それには多額の金を投じなければならない。このやうな狀態であるがゆゑに、今日農家の生計が困難なのは無理もない話しである。農民が農村の疲弊を防ぐために未墾の地を開墾して耕地を擴張するといふことも一つの方法かも知れないが、それが全國どこの土地でも可能であるとは限らない。例へ可能であるとしても、それには相當の金がかゝり、今日のやうに行き詰つた農民の手では一寸出來さうにない。また、一定の面積からより多くの收穫を擧げて生計の困難を切り抜けやうとしても、それにはまた多くの費用がかゝる。何れにしても收穫を增加さすといふことは中々容易ではない。中には收入が支出に伴はないがゆゑに消極策として支出を少くして自分の困難な狀態を切り抜けやうとするものもあるが、今日のやうに社會の一般の生活程度が高くなつた時代において、農民がたゞでさへ支出を切りつめてゐるのに、これ以上支出を減ずるといふことは一寸出來さうにない。こゝにおいてわれ〳〵は非常に困難な問題に遭遇する。

三

農村の人々は種々なる方法でこの困難な問題を解決しやうと急いでゐるやうであるが、

容易にその道を發見する

ことが出來ない。識者の間においても、農村の救濟策がやかましく論ぜられてゐるが、未だこれといつて明確な方法を示してゐない。今日都會の工場勞働者の間に勞働組合が組織されて、それによつて勞働運動をつゞけてゐると同時に、農民の間にも農民組合が出來て、各地に小作爭議が絶え間なく起こつてゐる。この小作爭議は小作料の支拂を低減することによつて、生活の困難から切りぬけやうとするものである。これは地方の指導者の好餌によつて農民に種々なる影響を與へる。今日の農村にある不安を持ち來たす一つの原因はこの小作爭議であるといはねばならぬ。」

ある學者は移民によつてこの困難からのがれうると考へてゐるやうであるが、それはなに人が移民すべきかといふことから解決されなければならない。然もこの問題の解決は非常に困難である。地方農村においてある程の移民があつた後なれば、面積增加による收穫の增加も望しられるが、これはあまり期待することはできぬ。」

何れにしても、自給自足の經濟が貨幣經濟に變化して生活程度が高まつたといふ事が、農村の生活をして困難ならしめた大なる原因である。」

この疲弊を救濟するには

なかなか簡單な方法では行かぬ。今日、世間でとなへられてゐる農村救濟策は必ずしも有効なるものだとは考へられぬ。」

「農村の疲弊を救ふには、まづ個人の立場に立つて、農村の生活をよく研究して見なければならぬ。さうして、社會生活の上進に伴つてそれに適應する生活樣式を樹立するやうにはからねばならぬそれには、日本の如く人口の稠密なる國では、急速に行ふべきではなくして、徐々に一歩々々と改善して行くより仕方がない。その方法として、私の理想なるものと思はれ、今日地方農村の疲弊を救ふ方策としては、農業に直接從事するものが、自らの手によつて農業組合を組織するにある。農村の救濟策も種々あるが、根底において農村の組合制度の健全なる發達を基礎として進むより外に道はないと思はれる。（完）

朝鮮の産業開發と電力

京城電氣株式會社專務取締役　武者錬三

今日の朝鮮に おける電氣事業は概ね各都邑に電燈を供給する目的を以て起こつたものである。されば事業者は各都邑にそれぞれの發電所を設け區内の電燈なり小範圍な動力なりに電氣を送つてゐるといふ狀態であつて、その供給區域の範圍も個々獨立はしてゐるが、その爲に今日では鮮内の主要都市には電燈は比較的よく普及せられてゐるのである。しかしながら斯樣な狀態にあつては朝鮮の電氣事業は産業に對する動力供給事業としての發達をなし得ないことは明かである。よつて吾人はどうしてもこれから電力方面に意を用ひ力を注がなければならぬ。斯くして低廉にしてかつ豐富なる電力をうることになれば即ち朝鮮の産業を助長もし誘致もすることになる。

由來、朝鮮には發電水力も豐富であつて、又石炭の埋藏も乏しくない。しかもこれ等の水力發電所なり火力發電所にせよ『何れも經濟的建設の可能なるものであり。殊に水力發電所の如き一『キロワツト』あたり三百圓内外にて建設されうるものもまた多いのである。然るに、この經濟的建設の可能な豐富な水力電氣事業が今日まで朝鮮に起こらなかつたのは何ゆゑであるか。それは外でない、大體に於て力を發生してもそれを消化する方法がないからである。世人はよく朝鮮では安い勞力がないから工業が起こらぬといふが、發電所なり電氣事業なりがたゞ發電と何のあてなしに起こり、そして需用のおこるを待つものではない、需要供給相待つてはじめて存在の意義を生じ勃興の價値あるに至るのである。

朝鮮に今まで

大きな水力發電がおきなかつたのも無理はないのである。然しながら朝鮮におけるこの豐富な天然の資源を放棄して置くことは、一面からいつて國家的な大損害であり、他面朝鮮産業の發展は益々前途遼遠とならざるを得ないのである。

然らば朝鮮においては如何にすればこの天然の資源を開發することが出來るか。これは官民一致して考究しなければならぬ大問題である。この意味において吾人が今、全鮮を見渡すに、現在において經營たり大電力を消化しうる可能性の最も大なるものは鐵道と鑛業の外ないと考へるのである。即ち鑛業においては鑛石採掘或は精錬作業を始めとして其他鑛山附屬發電等の副業にまで電氣を應用するのであり、又鐵道に於ては現在の官私設鐵路並に將來敷設せらるゝ線路に出來る限り使用するのである。かくの如くにして全鮮の鐵道と鑛業にわたり電氣を使用するに至らば今日まで經濟的建設不可能なりし發電水力も各道にわたり開發を見るに至り、その余力は比較的低廉なる料金を以て一般工業にこれを供給しうべく、從つて鑛産工業の勃興を促すに至るべきは必然の勢であり、結果は更に原因となつて地方の發電水力は益々開發せらるゝに至るであらう。かくの如きは實に朝鮮の産業開發上誠に重大なる問題ではないか。

しかしながら斯様な大問題を如實に行はんとするはなか〳〵容易ではないのみならず、大なる努力と覺悟とを要するゆゑに、これにはどうしても政府が自ら進んで主唱者となり、鐵道、電氣、鑛業その他の有力關係者より成る權威ある委員會を設置して、其聯絡的調査と實現に努力邁進せば最も效果多からんと考へる。」

斯くして此の

委員會において理想的超電力組織の根本方針を確立し大系統の合理的なる統制をなすならば、今日内地において見るが如き不統一なる電力の發達並にこれに伴ふ國家經濟の大損害を未然に防止することも出來るのであつて、實に朝鮮の産業開發上忽せにし難い百年の大計である。記念の年も明けて目出度い新年を迎ふるにあたり、吾人は聖代の恩に報ひ奉らん覺悟を以て進まなければならぬ、年頭に際し聊か所感を述ぶ

我國の根本的植民政策

外務省參與官　植原悦二郎

我國は領土狹隘、かつ天然の資源貧弱である。然るに人口多くその增加率も顯著である。されば、我國民の經濟の發展を考慮すれば、我國内において海外より原料を求め、製造工業の發達をはかると共に、人口食糧問題解決の爲にも、出來る限り移植民の發展を企てなければならぬ。蓋し、植民省設置の世論やかましきも、畢竟これがためこ外ならぬ。しかして如何にして我國の移植民の發達をはかるかゞ問題である。」

元來植民なるものは、自國の領土に限らるべきものである。しかして我國の領土中、多少植民事業の許容されうる土地は、朝鮮、臺灣、サガレンのみである。これ等の地方以外の土地に向つて、我國民が發展せんとすれば移住民を以て當らねばならぬ。勿論、領土の擴得も問題とはなるが、武力によつて領土の擴張をはかる時代はすでに經過した。世界の大勢がこれを許さぬ。されば、といつて、買收によつて我國の領土擴張をはかるといふが如きことは、現狀において期待せられざることである。ゆゑに、我國の移民を海外に發展せしめやうとすれば、目下、米國、カナダ、濠州、南阿等においても排日移民法を設け、我國の移民を拒否してゐる。

しかして、現今、我國の移民を歡迎しつゝある國は、ブラジル、アルゼンチン、メキシコなどである。ブラジルにはすでに五萬五千の大邦在住者がある。なほ政府においても海外移住組合を設けて、特にブラジル移民發展に努力してゐる。しかしながら、ブラジル移民は家族移民である、恒久的移民である、それゆゑに、輕にこれが現狀より一層惡化すれば、米國西海岸におけるが如く、排日問題のおこらぬことを何人も保證し得ぬ。外國の領土に移民を送れば、その發達につれ、排日のおこることは免れざることである。されば、メキシコ、アルゼンチンなどに移民を試みても、その數において制限されるのみならず、國際的移民を以てせねばならぬのであるから、非常にこれを發展せしめやうとすれば、排斥を覺悟せねばならぬ。」

若し、不幸にして南米等において移民排斥が起こる場合には、遠隔の地なるがゆゑに、その權利々々を擁護するにしても甚だしき不便がある。」これに反し、南洋諸島爪哇にせよ、スマトラにせよ、シヤムにせよ、その他幾多の群島にせよ、天然の物資は極めて豐富であるのみならず、その土人および原住民は比較的文化の程度が低きものであるがゆゑに、我移民の發展するには極めて有利な土地である。しかしてこれ等の土地は、國際移民によらずして個人移民によつて發展し得られる狀態である。どこの國民にせよ、自國の領土に屬せざる海外において發展せんとすれば、個人移民によらねばならぬ、又個人移民なれば可なり發展して排斥の恐れがないものである。

殊に南洋諸島は、比較的日本に接近して居る土地である、のみならず南洋人および支那人等とは日本國民がたやすく融和しうるのみならず、すべての點に於て優越の地歩を占めうるゆゑに、我國の移民發展には極めて有利と思ふ。たゞ風土の點において多少日本人の移住に適せざることもあるが、これは南米の移民に對しても同樣のことである。されば、我國の移民將來の發展を策するには、南洋方面は最も有利であると考へられる。數年前よりブラジル政府は、我國の移民を歡迎し、開拓、直接に援助をなしつゝあることが刺戟となつて、近來ブラジル移民熱が盛んである。けれども遠大の抱負と國家的見地からいへば、我國民の將野が南洋に對する一層の調査研究を重ねて移民の發展を期することは最も策の得たる所である。」

朝鮮慶尚北道迎日郡東海面
苺 葡萄 葡萄酒 ブランデー 培養 醸造
◎ミツワ浦項農場
振替京城五三七四番
電話都邱五番

謹賀新年

迎日郡浦項面浦項洞二一四一番地
浦項無盡株式會社
電話一一八番
振替京城一二・六三一番

慶北浦項本町 尾崎新助 電話二〇七番

慶北浦項仲町 金物 陶器 雜貨 油 ㊥薄商店 電話三三番

慶北浦項大正町 醬油釀造 大内治郎 電話一〇五番

慶北浦項大正町 酒類 醬油釀造 古川酒場 電話六 振替京城八四八八番

浦項米油組合 電話一五五番

慶北浦項港 齒科 志方市衛 電話二〇〇番

慶北浦項仲町 食料品並ニ雜物商 山崎永七商店 電話六十六番 電略（ヤ）又ハ（ヤマ）

慶北浦項本町 日華産業株式會社 浦項農場 電話七番

慶北浦項港本町 雜貨 金物 工物 猪田商店 電話二〇一番

朝鮮慶尚北道浦項 大興電氣株式會社 浦項支店 電話百十四番

慶北浦項港川口 水產業 梅本修 電話五七番

慶北浦項東濱 丸三組漁業會社 電話五七番

慶尚北道水產會

慶北浦項港 會席仕出し 荒尾德一郎 電話一四五番

慶北浦項港 橋本旅館 中島旅館 藤原旅館 小山旅館

慶北浦項港 韓文洋行自動車株式會社 電話九番

慶北迎日郡 浦項公立尋常高等小學校職員一同

朝鮮殖産慶東線浦項驛 驛長 福原德吉 助役 若井武夫

慶北浦項面長 福島壽三次 電話一〇八番

浦項本町 尾山材木店 電話二〇番

慶北浦項驛前 米穀雜貨商 川口琴惠商店 電話一五七番

慶尚北道浦項 土木派出所職員一同

浦項警察署 署長 沖德五郎 警部 蘇鎭殷 警部補 大久保剛 同 梶原延夫

慶北浦項港 拓產社 電話一二一番

慶北浦項港 浦項穀友組合 電話一三番

慶尚北道水產試驗場職員一同

慶北浦項本町 齒科 森內文平

迎日郡廳職員一同

慶北浦項川口 木材 工所 田中久義

浦項本町 海陸運送 日用雜貨 山中伊三郎商店 電話二〇二番

慶北浦項 大邱地方法院浦項出張所 高村繁雄

浦項本町 印刷 書籍 文房具 村田太陽堂 電話二一二番

浦項公立普通學校職員一同

慶北迎日郡 浦項面職員一同

大阪朝日新聞販賣店 京城日報 太平生命保險株式會社代理店 松本事務所 主任 松本末雄 朝鮮慶尚北道浦項仲町 電話一五 振替京城一九九三番

料理 松竹 割烹 松本義範 慶尚北道浦項南濱 電話一〇七番

浦項金融會 殖產銀行浦項支店 大邱銀行浦項支店 浦項金融組合 迎日金融組合

朝鮮慶北浦項港 浦項料理屋組合 組合員一同

朝鮮慶北浦項港 米穀雜貨 船具漁具 原田商店 電話五六番 電略（ハラ）又ハ（ハ）

慶尚北道浦項港 叺販賣 委託倉庫 委託販賣 迎日興業株式會社 電話五拾九番 振替口座京城七〇八二番

慶北浦項港 迎日漁業組合 電話一〇二番

片倉製糸大邱出張所
朝鮮生糸株式會社
山十組製糸大邱製糸所

慶北浦項港川口 水產業 岡本利八 電話四番

浦項港仲町 內科 小兒科 外科 皮膚科 レントゲン 太陽燈 人工 入院隨意 爲仁堂醫院 公醫 水上秀夫 電話四十八番

浦項本町一丁目 朝鮮雜貨 卸商 大上商店 電話二六〇番

慶北浦項東濱 福島釀造場 電話一五番 振替京城三八六番

慶尚北道々評議員 慶尚北道水產會副會長 迎日水利組合長 浦項金融組合長 中谷竹三郎

迎日郡東海面浦川洞 鐵角輪組迎日漁場 電話大甫四番

龍の香爐……（朝鮮の古器から）

各專門家の觀たる「龍のいろ／＼」

吉川靈華—幸田露伴—塚本靖 石橋臥波氏等のはなし

◇—青木青美

龍の傳說や、龍に關した話は、これまであまり書かれたことがないやうである。今年は辰年であるが、辰年に生れたものは出世すると昔からいひ傳へられてゐる」そして又、

出世した人物 が非常に多い

しかし、これは單に辰は喜ばしいもの、お芽出度いものとされてゐるところから、そういふ風に思はれて來たもので、必ずしも辰年に生れたものは出世すると限つたことではないが、やはり辰年はいゝ年だから自ら自覺して奮勵するから、したがつてよい出世するのではあるまいかと思はれる。さて、龍にはいろ／＼の說があつて龍と辰とは同一であるといふ者もあり、又幸田露伴博士の如く、龍は辰のことをいふのではないといふ說もあつて、到底私如き淺學の遠くおよぶところではないが、各一流專門家の說を拜借しながら、種々の方面に涉つて龍を硏究してみやうと思ふ。まづ龍の畫家として有名な、吉川靈華氏の談には、

日本の繪畫に 描かれた龍は

印度のものと、支那のものと兩樣ある。この二つは、形も違ひ、發展の根抵も違ふのであつて、支那の龍は神話から生れ、印度のは宗教の所產であるといふことが出來る。支那の龍は、それがはつきりした形でのこされたものは、漢の畫像石で、その中に印刻された龍は蜥蜴に近い形で、蜥蜴の如しといつた形容にふさはしい龍がある。降つて六朝や唐のものになると遙かに變つた形となり、印度のものが加はるに從ひ更に變つて來た。印度の龍は全く宗教的所產で、梵名ナーガーといはれてゐるが、その形は支那と異つて全く蛇である。これが毒蛇の害を畏怖するの餘り、祀り鎭めたものかと思はれる

龍といふ語は 佛典に可なり多く見えてゐるが、八大龍王の

如きは誰も知るところのものである。これは、難陀、跋難陀、沙伽羅、和修吉、德叉迦、阿那婆達多、摩那斯、優鉢羅の八王であつて一に天の宮殿を守護す、二に、雲雨を起し人間を益す、三に、地龍にして江河をきる、四に、轉輪王大福人の藏を守る——かういつた働きをするのであるがおの／＼頭上には龍を頂いてゐて、それが皆何れも毒蛇の形をしてゐる、佛教が入るにおよんで、支那の龍は餘程變化した。蛇の形だけではおもしろくない處から、在來の形式もとりいれて、そこに印度と支那の合の子といふべき龍が出來上つてしまつた。六朝時代になるといちじるしく形が變つて體は四角になり

角の生え方が 後方にそつて

ゐる。唐代の龍は猫のやうに鼻がそり上つてゐる。その證據として見らるゝものが朝鮮で發掘されたが、それは遠い時代の古墳で發見されたもので、その壁畫に畫かれた龍は一頭の大きさ一間以上もあつて腹がほそく足が長くはつらつとした勢ひをもつてゐて、形式は正しく六朝時代のものである」と繪畫の方面から氏の所說を述べられてゐる。これによつて、龍の形狀の次第に變化して來た經路を知ることが出來る。しかし、龍ははたして何の形であるか。又實在のものか想像のものかといふことについては、古來種々の說があつて、未だに確定せず、その意見もまちまちであるが、先づその方面の諸說を聞き、工學博士塚本靖氏の說によると

辰は即ち龍 のことである

元來十二支に使つてある種々の文字は、普通動物に使ふ文字とは全然違ひ、例へば子、丑、寅、卯の如き皆異樣な文字を使つてゐる。この十二支といふのは余程古くから行はれてゐて、後世にいたつて十二の動物を無理にそれに當てはめたにすぎない。辰即ち龍については、古來世界の諸國において非常に深山の傳說が殘つてゐるが、然しその起源は印度におこつたものらしい。從つて佛教の傳はつた支那は勿論の事、朝鮮、日本等においても、これを王者上に濫用してゐる。支那では、龍を帝王の象として非常に崇拜としてゐるが、西洋では全然さうではない。兇惡なる人間の敵として敵視してゐる。又、印度では八大龍王とか龍神とか稱して一つの神としてゐる

元來毒蛇など が非常に人間に

害をなす處より、その害を除かんが爲に神として祀つたのであらう。支那では古く動物によく、龍の肉を食ふとか、龍を馴らすとかいつて、恰も實在のもののやうに書いたのがあるが、どうも最初は實在のものであつたらしい。例へば孔子が老子を評して『恰も龍の如きか端睨すべからず』といつてゐる。即ち實在のものとして考へたのであらう。さて實在のものとしたらどんなものであつたか。ある學者は魚の甲の樣なものを立てゝ、蜥蜴の如くはひ廻ると書いてあるが、又ある人の說に、鰐、蜥蜴の樣な形をしたもので、水中に棲息し、かつ蜥蜴類などにある背の背色が、日光にあつて變化極りなき色を呈したものだとある。又

東漢の武梁祠 の畫像石に殘

つてゐるのを見ると、比較的首と尾とは長いが、胴は短い、四足は恰も獸のやうで、やはり蜥蜴の類に近い。それから時代の移るに從つて變化し、六朝から唐の時代になつて、漸く麗らしい形をなしてゐる。從つて段々胴が長くなり、樣々なものに擬みつかすやうになつた。かくて遂に龍といふものは全く想像的なものになつてしまつたが、即ち龍は蜥蜴に似、角は鹿に似、各部が九種の動物に似てゐるといはれてゐる。つまり人間の想像によつてコンポジションされた動物の代表者となつてしまつた」と謂つてゐる」しかしこの辰は龍であるといふのと全く異つた說がある。それは文學博士の

幸田露伴氏で その說による

と、世間では辰を龍だと思つてゐる人があるが、辰は果して龍であるかどうか頗る疑はしい。如何なる動物を調べてみても、辰は龍と述べてあるものはない。尤も辰といふ字には動物の意味はあるが、龍といふ意味は全然ない『龍』といふ動物に辰に九つの子があるといつて、その中に辰といふ子があると書いてあるので、この辰といふ字を同音の辰と混同して辰は龍の子なりと附會して、辰を龍であると思ふに至つたのではあるまいか。要するに辰は動物であるが、直に龍なりと斷定は下されない」と述べられてゐる。若し辰を龍とすれば頗る興味があるとすれば話の材料も少くないが、龍でないのだから殘念ながら話の材料がない。で、今

辰といふ音で 記憶に殘

つてゐるものをならべてみると、海嵐をたつみ風、風の神をたつ田姫、北條時政の紋がたつのうろこ。海馬をたつの落し子、名所にたつ田川あり、又大和にたつの門あり下總にたつの石がある。水戶の地理學者、久保赤石氏の書いた地理書に『赤井ヶ岳から眺めるとたつの鱗が見える』とかいてある。又『たつの京』といふ書物は、無批評したものだし、たつ卷に卷かれて助かつた猫がたつ丸で、たつの宮といふものは、今でもなほ各地の山の中にあるさうである』と語られてゐるが、これはまことに有益な文獻で、世に稀するところが多い。又、こゝに珍奇なのは石橋臥波氏の說で、其說による、龍は玉子を生むといはれてゐる。即ち龍には胎生、卵生、濕生、化生の四種があると

印度の佛典の 中に說いてあるが、日本では化生や卵生は

傳說に存してゐるが、濕生や胎生は聞かないやうである。世にいふ龍の落し子は、或ひは胎生としてのものかもしれぬ。卵生のものには、龍の卵が隱存してゐたのが海に千年、山に千年、川に千年の齡を經て、龍になつて昇天したといふ話しがあるが、ここに一つ珍しい話しがある。それは東京牛込區市ヶ谷の根來山稱興寺に、縱四寸八分に四寸六分位の龍の玉といふものがあつて、寺の什寶になつてゐた。この玉が雲氣の立つ日には直に濕氣を催し、雨天の際はしつとりと濕ひ又年を經るにつれて多少成長したといふことである。天保の頃、三好想山はこの玉を見て『これは龍の卵である。遲速風雨の日を待つて孵化する』

その時は殿堂 をも崩し、大

木をも倒すであらうから人跡なき深山へ捨るがよい』といふて、時の住僧英珊和尚にすゝめたが、同和尚は、拙僧がまだ小僧であつた卅年以前には、前のやうな變化があらはれたが、今はそんなことがなくなつたから、或ひは死んだのかもしれぬと、そのまゝ寺に保存しておいた。この玉をつゝんだ紙には『根來山稱興寺什物寶珠八丙辰六月吉日施主村井氏』と記してある——と想山著聞集に見えてゐるが、稱興寺は維新の際に廢寺となり、今は現存してゐないから、私もいろ／＼取しらべてゐたが、その龍の玉はどうなつたかは更に不明である。』まだ述べ來ればいくらもあるが、このやうに諸家の意見はまち／＼である。しかし龍の話となると、これらの

所說による外 はない ゆゑに

自分一ケの意見を述べるよりも、遙に世に益することが多からうと思ひ、これら專門家の述ぶるところを纏めてみた次第である。」

◇辰年生れの「財界七名士」

水町袈裟六氏

現に會計檢査院長である。氏にとつては適材適所で、財政通の一人であるだけに、このお役目が八方ににらみがきく譯である。佐賀藩士水町久兵衛氏の二男、元治元年の辰年生れである。明治廿二年帝大を卒業して直に大藏省に入り、稅務監督官、參事官、秘書官、理財局長から累進して第一次西園寺內閣には大藏次官、第二次桂內閣にも次官となつた、政府の財務委員として外國へも行つた。明治四十四年に日本銀行副總裁となりその手腕をふるつた。」

とつくに大藏大臣位になつてゐる人だが、名利に恬淡であるだけに自ら積極的に出ない。寧ろ隱君子の示す如く學者肌の君子人である。趣味も飾らずいつもヨーカン色の背廣で仕事をしてゐる所は、どうしても今のお役目にもつてこいである。」

成瀨正恭氏

船成金西村正行氏の兄さんで、三井銀行の池田成彬、三菱銀行の串田萬藏氏に並ぶべき銀行界の大立物である。

香川縣平民、明治元年の辰年生れである。慶應義塾卒業後、米國ニューヨークのコルネル大學を卒業して歸朝した、當時の新人だけに直ちに招かれて橫濱正金銀行に入つてその手腕を揮し、後日本貿易銀行の支配人となつた。更に丁酉銀行取締役頭取を經て十五銀行に聘せられて長い間支配人として經營の實際に當たつた、松方巖氏の頭取時代遂に擧げられて副頭取となり、後そのあとを襲ふて頭取となつた」

數年前その職を辭し、今は閑地に靜かに風雲を望んでゐる、まづ蛟龍池中に潛むの形である。趣味としてはゴルフが大好き、この頃なか／＼熱心にやつてゐる。」

內田信也氏

船成金の一人である。當時の多くの成金が沒落してゐるのに、彼は依然として財界に幅をきかしてゐる所はたゞの男でない。

金が出來てから政界へ飛び込んだ。政友會に入黨して惜氣もなく金を出す。地獄の沙汰も金である世の中、いはんや政黨においてをやで、忽ち政友會から一頭地を拔いて黨の會計監督となり、幹部もアノ體裁せ申譯にやり、そこでひつ張りだこの人氣者となつた。運のよい彼は政友會が天下を取ると先輩を押拔いて鐵道次官となつた。矢張り只の船成金でなかつた」

明治十三年の辰年生れ、茨城縣眞壁町の出身で東京高等商業學校卒業。資性豪放、怖を御つたやうな氣性で至る所でもてゝゐる。一面大のスポーツマンで柔道は二段であるさうだ。」

大谷嘉兵衛氏

日本の茶業界における大谷氏の存在は、恰も生絲界における澁澤榮一子の存在の如く、餘りに有名な事である。

大谷氏の事業は啻に茶業界のみならず銀行界にも、保險界にも、倉庫界にも、海運界にも、過去においては以上の功績をたてゝゐる。即ち橫濱市の大谷氏でなく、日本の大谷氏で、實に日本の茶業界における耆宿として知られてゐる。現に貴族院議員であり、弘化元年の辰年生れ、三重縣の人で、曾ては日本中央茶業組合の會長で、その他にも多くの肩書を有してゐる。米國に遊ぶこと二回、歐米漫遊を觀察し、又支那にも遊び、その得る所を以て日本の茶業界を益すること頗る大、その他教育に、慈善に貢獻する所多く、當代稀に見る偉人である。」

各務鎌吉氏

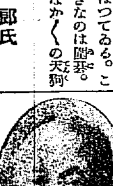
東京海上火災の御大で、我國火災保險界では人も許し、自分も許してゐる第一人者である明治元年の生れ。同廿一年東京高等商業學校を卒業して直に今の會社に入つた。

財界の系統からいふと三菱王國の人で、三菱の保險事業の總てに關係し、まづ三菱の保險大臣の格である。保險事業の爲には洋行もして來た。頭腦がよくて事務に鋭敏で、一日中會社にゐて仕事をしてゐる。それで夜遲く家へ歸つて讀書をするといふ精力絕倫さ。會社の資產運用には緻密な注意を拂ひ、一圓一錢もいやしくしないが、自分の資產の運用についてはまつたく無頓着で一切他任せ、何程あつて何うしてあるか一向しらないとはかはつてゐる。この多忙な裡で大すきなのは圍碁。初段近くの腕前でなか／＼の天狗である。」

原富太郎氏

橫濱の原さんといへば生糸貿易界の第一人者で茶業の大谷氏と共に有名な人である。原合名會社長その他銀行、保險會社等々の重役を兼ね、同市切つての富豪として財界に重きをなしてゐる。」

何れかといへば靜的の人で、表面に立つて花々しい人氣取りはやらぬが、その性格にふさはしい點は人並すぐれた美術の愛好者であることである。金にあかせて蒐集した美術品は素晴なもので、特に佛像に趣味が深く、國寶的のものも可成りに多いといふことだ。富豪の道樂としては高尙なもの。」一面慈善公共事業にも盡力し富豪としての十分の義務を盡くしてゐる。明治元年の辰年生れ、岐阜縣平民青木久衞の長男、後入つて原家の嗣となつた好運兒である。」



米山梅吉氏

三井銀行にあつて池田成彬氏と共に鳥の双翼の如く同行にとつては過去の大功勞者で、將來に於てもなくてはならぬ大立物である。池田氏との仲も圓滿であり、年齡も明治元年の二月生れ、まだ一ケ年何十萬圓といふ大金が懷へ入つて來るのに、遂に三井を勇退した銅臭者流中まことに脫俗した點が偉い。」

米山氏はいつもいつて居たそれは『報酬を第一義としない方面の社會的奉仕をしたい』と。三井を退いたのはこれである。大震災後三井家が復興事業の一として三井信託を創設した時に、米山氏は乞はれてその社長となつた即ち社會奉仕の希望と一致したからである。青山學院の卒業、米國にも留學したこともある。まづ實業界の耶蘇である。（完）

達城郡廳 職員一同

大邱金曜會

謹賀新年

大興電氣株式會社 大邱府

大邱府大和町 大邱穀物會社

慶尙北道 畜產同業組合聯合會

慶尙北道 森林組合聯合會

慶尙北道農會

大邱府三笠町六九 慶北蠶種業組合

慶尙北道金融組合聯合會 理事長 牧田清吉

大邱府內 公立初等學校 職員一同

大邱醫師會

大邱商業會議所 會頭 張稷相

杉原合資會社長 慶北道評議員 杉原長太郎

韓文洋行 自動車株式會社 電話七二三番 一一番

大邱旅館組合

大邱料理屋組合

大邱無盡株式會社 社長 小野元太

大邱府大和町六十五番地 大邱穀物信託株式會社

東拓大邱支店長 小池英勝

大邱府廳 職員一同

慶尙北道 英陽郡廳 職員一同

慶北安東郵便局長 古田信秀

慶北尙州殖產銀行支店長 渡部太三郎

慶北慶州郡安康里 日浦廣治

京釜線倭館驛前 穀物組合員一同

慶北尙州公立普通學校長 豊川熊夫

慶北高靈邑內 生部又一

慶北高靈郵便所長 久野逸三

慶北高靈金融組合理事 管原久四郎

慶北道 高靈警察署 職員一同

慶北 倭館穀物商組合

慶北 大邱銀行 倭館支店

慶北倭館金融組合理事 竹林規矩夫

星州郡廳職員 同農會議員 同森林組合議員 同畜產組合議員

慶北安東郡廳 各產業團體

大邱刑務所長 清原孝太郎

朝鮮銀行大邱出張所長 門傳勝太郎

大邱府鳳山町 西田印刷所 電話長一七二番

大邱府大和町 慶北印刷所 電話三六番

慶尙北道蠶業取締所職員一同

大八信託株式會社專務 大邱府協議員 鄭道均

大邱府村上町拾番地 弘中商會 大須賀哲治郎

大邱府元町二丁目 川上木材店 電話五四一番

大邱府八雲町 各種綿布製造卸 磯貝製綿所 電話四一五番

大邱府錦町一丁目一番地 黑川圓治 電話三六番

大邱府村上町七 ミカド食料品店 青木龜吉 電話一三〇六番

慶尙北道 軍威邑內 官公吏一同

高靈郡廳 職員一同

慶北道 慶州法院支廳

慶北道 金泉警察署 職員一同

慶尙北道立金泉病院長 輕部久喜

慶尙北道 金泉郡廳職員一同

慶尙北道 淸道官公吏一同

大邱公立中等學校長會

慶尙北道廳食堂會員一同

大邱專賣支局職員一同

慶尙北道立大邱醫院 職員一同

大邱穀物商組合

慶尙北道永川郡永川面 官公吏一同

慶尙北道 盈德邑內 官公吏一同

慶尙北道醴泉邑 各官公署聯合會

慶山郡廳 同農會 同森林組合 同畜產同業組合 同水利組合 職員一同

謹賀新年

釜山府大廳町 株式會社 明治屋

朝鮮興業株式會社釜山支店 支配人 目黑銀次

釜山府幸町一 各種土木建築材料 船具器械 角野商店 電話長二三三番

釜山幸町二丁目 櫻正宗 山邑酒造會社 釜山支店

釜山本町一丁目 寫眞材料商 岩瀬寫眞機店 電話七五五番 振替京城七八八番

釜山府埋立新町本局前 島産物 海外托賣 金肥料 米穀貿易 合資會社 釜山貿易 電話一〇五〇番 電略(フサン)

釜山 鐵道病院

釜山大倉町郵便本局前 博文堂書店 電話七三五番 振替京城一一八番

釜山 太平館 電一四一六

朝鮮釜山驛前 片倉米穀肥料株式會社 釜山營業所

釜山南濱町 海産物問屋 大島芳輔商店

釜山學校組合議員 吉良重作

釜山大倉町 中林神効堂藥局 藥劑師 中林佐一 電話二四番

馬山 弘清三

京城電氣株式會社 馬山支店 鎭海支店

馬山府尹 寺島利久

朝鮮殖産銀行馬山支店 馬山府元町(電話五五・一六〇番)
新馬山派出所 同本町二丁目(電話二一番)

原田酒造場 馬山府本町五丁目 電話一四〇番 振替京城九九六番

鶏林 八道 醸造元 朝鮮馬山府榮町 西田酒造場 電話一二四番 振替京城二八九〇番

馬山酒造同業組合

銘酒 大正櫻
醸造元 馬山柳町 合資會社 清水醸造場 電話一〇七 振替京城八七八八
京城本町四丁目 同黄金町三丁目 若鶴支店 大邱商店

朝鮮馬山府 馬山繰棉工場 馬山繰棉工場製綿部 電話長一三七番 電略クリワタ又ハワタ

清津府

咸鏡北道 羅南金曜會

馬山濱町 釜雪旅館 電話三九六番

馬山郵便局長 岡崎直

馬山元町 長代瀧之進

藥種賣藥卸問屋 石見屋藥店 馬山府都町

馬山驛前 常盤旅館 館主 關地長次郎 電話一六一番・二六三番

馬山府元町 松原早藏 電話四番

慶尚南道立 馬山醫院 職員一同

朝鮮馬山府都町一番地 貿易商 扇上原馬山支店 電話長三五四番 振替京城二四〇六番 受信(ウエハラ) 發信(マサンウエハラ)

馬山新町 濱田醸造場 電話一四五番

馬山府濱町一丁目 鎭海灣汽船株式會社 電話六十八番

馬山公立高等女學校 職員一同

朝鮮馬山府三丁目 目加田商會 木材部 電話六番

大阪商船馬山代理店 朝鮮郵船馬山代理店 株式會社釜山商船組 株式會社 馬山支店 電話三〇四番

馬山本町二 御料理 御旅館 望月 電話三九番

馬山仲町 井手醸造場 電話三〇番

海軍御用 御菓子 豆腐製造 相川商店 振替京城七二〇五番

株式會社釜山商業銀行 馬山支店長 平田友一

清津商業會議所

釜山海運業組合
朝鮮郵船株式會社釜山支店
朝鮮汽船株式會社
大阪商船株式會社釜山支店
株式會社大池回漕店
內國通運株式會社釜山支店
株式會社釜山商船組
國際運輸株式會社釜山支店
株式會社澤山兄弟商會

統營 大興電氣株式會社 統營支店

欲知島 欲知汽船株式會社

統營港 福島彌市郎

統營材木商會
秋本岩藏
山根才吉
市川斧三郎
槇村三次郎

統營金曜會

統營漣會
統營海産株式會社
廣島鰮網漁業組合
釜山水産株式會社支店

朝鮮珠算普及會長 統營面協議員 統營繁榮會長 服部源次郎

統營驛前通り 鐵道局指定 松芳旅館 電話三一番

統營驛前 新築旅館 大手旅館 館主 土井伊太郎 電話七〇番

釜山府大倉町 朝日商會 電話長三八二番 振替京城三二〇番

釜山府大廳町二丁目十五番 製氷各種卸商 藤井辰男 電話八一八番 振替京城三四一五番

朝鮮釜山埋立新町(郵便本局正面) 津村兄弟商會 津村常太郎 電話三九四番 振替京城二二〇七番

釜山辨天町一 寫眞機械材料店 山崎寫眞機店 電話一二七五番

釜山府南濱町一丁目十番地 朝鮮水産冷藏株式會社 電話長(九五四)番 電略(セン)又ハ(セ

統營港 株式會社 統營回漕店

統營敷島町 井上旅館 電話二九番

朝鮮統營 海産物問屋 谷本寅吉商店 電話一八番

統營郡守 佐々木三郎

統營學校組合議員 兒島鹿一

統營港 海産物問屋 原田商店 店主 原田綱治

朝鮮統營吉野町 統營無盡株式會社 電話四一番

統營郵便局 局員一同

風景絕佳 親切叮嚀 東雲旅館 統營敷島町 電話七番

統營港 統營病院 院長 醫學士 村田定

朝鮮慶南統營港 統營煎鰮仲買組合 電話二四二番

吉田病院 京城府漢江通十一 電話龍山四八番

土木建築請負 合資會社 有馬組 京城府漢江通十一 電話龍山三一七番

京城府漢江通十三 福壽洋行 電話龍山六四六 九六六番

京城府黄金町三丁目 古河電氣工業株式會社 京城出張所

土木建築請負 當房有次郎 京城府西氷庫洞一九四 電話龍山七八九番

京城府元町一丁目 クームヒン株式會社 電話龍山三七〇 四二一番

龍山承認運送組合

土木建築請負 堀内組出張所 電話龍山九一五番

朝鮮圖書印刷株式會社

土木建築請負 長門組 京城府漢江通十六 電話龍山五番

土木建築請負 陣内組 京城府漢江通十一 電話龍山一四七番

朝日石鹼會社 京城府岡崎町一四 電話龍山三六四番

龍山醫師會

土木建築請負 松本組京城支店 京城府漢江通十五 電話龍山一五二番

釜山本町 迫間本店 電話長三二五番

釜山府大廳町四丁目三拾五番地 釜山米穀證券信託株式會社

東萊溫泉場 溫泉旅館 荒井旅館(電話八番)
釜山驛前 官衙指定 御指定 荒井旅館(電話七四二番・二二七六番)

釜山 星野政太郎

釜山南濱町 八橋寫眞館 電話八八三番

釜山酒造組合

釜山 朝鮮瓦斯電氣株式會社

釜山 釜山水産株式會社

釜山旅館組合

釜山南濱町 釜山棧橋食堂本店 岡村正雄 電話 本店一五五六番 食堂一九三二番

菊正宗
釜山本町三丁目 株式會社 本嘉納商店釜山支店

藝術の生活化　其四

山田耕作

この數年來、驚くべき音樂の隆盛に伴うて、蓄音機乃至蓄音機器は非常な勢ひで日本の隅々にまで浸入して行きつゝあるやうであります。ついこの間までは尺八やラッパ節より外知らなかつた若衆や勞働者などが、泰西の名曲や歌劇の一節などをやすく〜と歌ひこなしてゐることなどは

音樂と　終始を共にして來た私さへ思ひも寄らなかつた事實であります。最近における、おそるべき、といつてもいゝ程の、舞踊の病的な流行もかうした音樂の普及、或は一般化に刺激せられて起こつたものでありませう。かうまで音樂を普及せしめた原因にさかのぼつて考へてみますと、簡易な蓄音器とラヂオといふものがどれほど西洋音樂の紹介と宣傳と、ひいてはその民衆化とに、重要な役目を演じてゐるかもしれません、又、最近歐米の世界的名手の來朝による演奏も、蓄音器を通じてあこがれてゐたもの、實相を現實の耳に感ぜしめた點において、高まりかけてゐた日本人の

音樂熱　に拍車を加へることになつたのでありませうが、日本の民衆をしてレコードやラヂオに親しみ、名手の演奏を鑑賞することを得しめた根本の力は、政府が五十年來その國に莫大な費用をおしまなかつた音樂と舞踊――とはいふことが出來なくてもその原形ともいふべきもの、教育によつて築はれて來たものだらうと思ひます。人の一生を五十年と限る古い思想を今更追ふわけではありませんが、五十年前、小學生であつたものは、もう「お祖父さんお祖母さん」と呼ばれてもいゝ年になつてゐるはずです。從つて五十年前から注ぎ續けられた

教育の　流れは、今日の家庭に可なり深い底をほつてゐるはずです。」少くとも今日の小供は父母と共に歌ひ一時代前にはおたまじやくしと呼ばれた音譜を母に導かれて讀むことが出來る家庭も、恐らく珍しくないと思はれてゐます。まして祖父母とか父母とか呼ばれないですむといふ所の新時代の教育を受けた若い男女が、かうして得た感激の余勢を各所の舞踊場に散ずるのは當然の勢ひであるといはねばならないかも知れません。五十年來の教育が家庭に入り子に傳へられ、音樂を

舞踊の　原形ともいふべきものが、家庭なり一般民衆なりの間に、殆ど無意識的に體得せられてゐる今日において、各自の家庭に音樂や舞踊の色彩を與へようとする努力のそこ〱に見えるのは、非常に喜ぶべき現象であると思ひます。唯に學校で習ひ覺えたものを、共に歌ひ、共に踊るといふことなら今まで殆どすべての人がしらず知らずの間に行つて來たところでせうが、學校において修業とせられてゐたもの――殊に男子の就職や劇作の如き、堺へ受驗として教へられたものではないにしても――にはそのまゝ家庭に入れることの出來ないものがありますだから

一部の　最も教養の度の高いはずの人達が上野の森に逃れて『デッカンショ』の蠻聲を張りあげたり、濫りに亂舞する、といふやうな現象も起こつて來たのでせうが

妓生……京城券番所屬　水島爾保布畫伯試筆

少くとも、新時代の教養ある家庭婦人は、一時代前の稽古事の代りに洋樂を研究する習慣の起こつた爲か、家庭の中にいはゆる女學唱歌の範圍を出た藝術的遊戯をはぐくまうとする傾向を見せて來たやうです、各種の音樂會や音樂家の團體が社交界といふもの、ない日本婦人間に、唯一の社交機關とせられ、その機關がやがて社交

ダンス　といふ妙な流行病の苗床になつてゐることなどは、一つの皮肉な事實とも見ることが出來ますが、夕食後の閑時を蓄音器やピアノの遊びに過ごすことによつて一家の團欒をはかつたり、同好の友を呼び合つて親交を溫めたりすることは、萬事に遠慮勝な日本婦人にとつて、決して無意義なことではありません。舞踊も家庭的娯樂なり、家庭間の社交機關として、充分な設備と監督のある家庭の中で行はれるなら決していちがいに排斥すべきものではないと思ひますが、現在の日本の建築や家庭狀態に、かうした舞踊台を開くことは、まア不可能であるといつてもいゝでせう。」

理想的　此處で問題は家庭における音樂乃至舞踊から、家庭の音樂化、舞踊化といふことに移つて來ます。家庭が個々に獨立したものであつてみれば、その家庭の中にどんな音と聞こへても、どんな踊りが行はれてゐても差支がないことになります。しかしその家庭に高雅な藝術の芳香を漂はせ、家庭生活そのものを藝術化しようとするのは家庭にその欲するがまゝの音樂や、舞踊の斷片を取入れることおのづから趣を異にして來ます。そして、私がこの一文の中に說かうとしたのは

家庭と　音樂や舞踊といつたやうなものではなく、私共の生活そのものがどうしたら音樂的に、又舞踊的に藝術化せられるかといふことなのでした。これまで私が機のある毎に主張して來ましたやうに私は反射的表現を藝術と呼ぶことを躊躇するものです。殊に音樂や舞踊においては、その個性の表現は必然的に、一度そのもの、心に體得せられ、溶解せられたもの、象徴的表現であるべきはずであります。これを家庭藝術化の問題にあてはめて見ても、家庭の人達がたゞ單に藝術を愛好するものを模倣して

樂しむ　のでは、いかにその模倣が巧みであるにしても、畢竟家庭內の一つのあそびに止つて、それによつて生活そのものが藝術化せられたといふことは出來ません。幾度か繰り返すことは、家庭內の空氣を藝術的に高めることにはなるでせうけれど、そんなら生活はどうしたら藝術化せられ、舞踊化せられるのでせう。いつたい、音樂と舞踊とは韻律といふ母から生まれた双生兒であります。それゆゑ兩者の根源であるリズムを理解することの出來るものであり、リズムの心を體得し得たものは、何らの

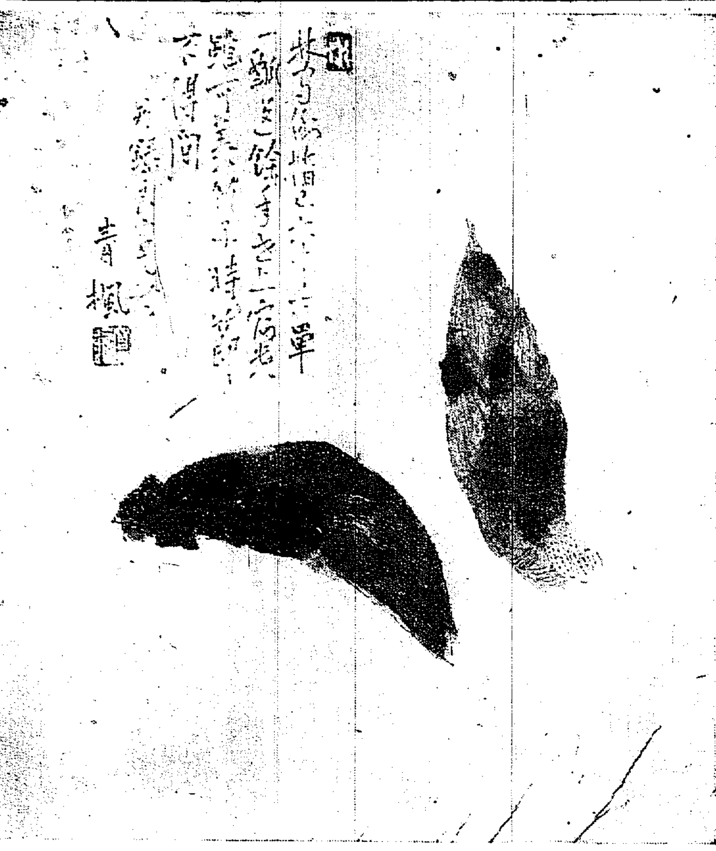
特殊な　努力なしに直にその生活そのものを舞踊化し、音樂化することが出來るのであります。音樂の問題は暫く措くとし、一口に舞踊といふと、誰しも特殊な型にはまつた運動を思ふやうですが、私のいはゆるリズムの表現である舞踊は、決してさうした舞踊的運動を指すものではありません。それがどんな記譜擬舞であつても、固定のリズムの流れ出たものであれば――換言すれば、リズムを體得したもの、運動であればそのまゝにことごとく舞踊であるといふことが出來ます。リズムを體得したもの、動作は、いふ所の舞踊の型からは全然脱離した、

自由な　ものであり、自由な中に、運動の力が最も强く、活動的に、――いひかへれば生命的に、そして最も美しく生かすものでなければなりません。しかもそれは思惟や苦心の結果形つくられたものではなく、何のこだはりもなく、樂に、自由に自發的に流れ出て來るものでなければなりません。リズムがこゝまで家庭生活の中に浸透して來れば、生活はそのまゝに舞踊であるといふことが出來るやうになるのであります。從來行はれて來た儀式或ひは作法ととなへられるものも動作にかうした純化とか强化とかを求めた結果生れた一つの規範のやうなもの、――儀範にこびた爲、現在においては端正な形そのものを除いては何らの生命も舞踊價値もなく白く塗つた墓のやうなものになつてしまつたのであります。それゆゑ作法は舊時代の遺物としてのみ保存しておかるべきものであつて、新時代の生活を藝術化する爲には、邪魔にこそなれ決してそのまゝに適用する資格のないものだとおもひます。

整美と　個々の舞踊は、個々人の個性を生かし、個々に異つた美しさを釀し出さしむるものでなければなりません。この舞踊の藝術が私共の生活の隅々まで現はせられた時こそ

生活は　そのまゝに舞踊となるのでありませう。一つのリズムから生れた舞踊の姉妹である音樂は、リズムを體得し、生活そのものを舞踊化することの出來るほどのものには、必然に理解せられ、その生活の中にこう解せられるはずです。たゞ音樂は舞踊のやうに實生活の全般にわたる機械を持つてはをりませんが、音樂を徹底的に理解したものには、日常會話の中にもその語音を最も美しく、又經濟的に生かすことが出來るのであります。從つてその言葉の調子がなめらかに流れ、その

聲音の　表情や色彩が明るくなり語調の人よりむといふこと、聲音の人よりはずつと少くなるにちがひありません。これを要するに、生活の舞踊化、音樂化とは、舞踊と音樂との母であるリズムの心を體得し、その心を生活の中にとかしこみ、流れ出てしかることをいふので、いひ換れば家庭の藝術化とは家庭の生活化であるといふことが出來るのでありませう。（完）



筍……………

津田青楓畫伯試筆

新年文藝　短歌

題「春」　尾上柴舟先生選

一等

春の路ふみてかへりし吾か下駄は見るに明るきあか土もてり　全南長城郡長城驛前　田岡健一

二等

新年の光の中にうつせみの命見まもり靜かには居る　京城本町三丁目　松本月乃

三等

日溜りに草の芽を見し喜を吾子に呼はれておりたてるかも　咸南咸興　生熊夏樹

秀逸

峯裏の雪解の水は春を淺み流れつゝ夜は凍てけり　釜山　藤澤寛二

咆え立ちてどどと崩れる海見ゆる谷間の春のしづけき眞晝　江原道　木之下芳郎

切れ雲を追ひゆく子等の眼はしき空の中なる吾子をし思ふ　新義州　楠山時風

木々はみな芽をしふくべく色づきぬわれのみ獨り默だせるは何ぞ　京城　金井才二郎

陽を浴びて大地を踏まむ枯草の陸にはつよき芽生えあるべし　京城　金井岸乃

さざれ石にじますほどの雪解水けふたつ春の姿ならじか　京畿　志村城南

平北　越渡鶯谿

わが宿の庭の隅にも春の日の日射し届きてもの、芽は萌ゆ　全南　中山眉臣

板べいに太郎次郎と扣いてある埋立工場に夕づく春日　京城　河野松乃

なかば黃に枯れつゝ丘に築りあふ小雀そよげりこの春風に　東京　高木金一郎

地を出でゝ名もなき虫のかすかなる翔試みるありなしの風　京城　澤輝子

春をしもこゝに集むと灯のもとに圓の花束かほりけるかも

大空の雲のおくどの月の光やはらに落ちて春の夜ふけぬ　京城　三輪駒夫

立ちのぼる煙の風になびくなり子等は聲くらしどんどの餅を　京城　小林郷一

草も木もよりてつかふる園原にかすみたなびき春立ちかへる　大邱　神谷竹子

子等いねてひそけき室に沈丁の花の匂へり春淺き夜を　京城　河淵光之助

木々の芽はまだかたけれど紫に稍けぶらひ春さりにけり

麻雀に夜は更けてかへる街々の灯にしら〱とおく春の霜　京城　木多のぼる

新聞の裏の菜畠寸許り芽ぶけるみれば春立つらしも　京城　栗田口秋水

くだかけのながく〱し鳴けばあちらでもこちらでも鳴く春の雨哉

美術界の新運動（上）

村山知義

無產階級の運動

一時世を騷がした立體派、未來派などの運動も、もはや新運動と稱する事が出來なくなつてしまつた。

それでは、現在の美術界の新運動とは何か？

それは無產階級美術運動である。左に簡單平易に、この新運動がどうして始まつたか、現在どうか、また將來どうなるかを說明しやう。

世界大戰の影響

どんな美術運動もその當時の社會狀態の產物である。例をごく最近の運動にとらう。世界大戰が大きな經濟的、政治的な擾亂を捲きおこした。それが、それぞれの國のそれ〲の特殊な社會事情や國民性に從つて、それ〲異つた美術上の新運動を生んだ。

戰敗の結果、經濟上の打擊を一番多く受けたドイツは表現派を生んだ。彼等はこの悲慘と苦悶とを表現したいといふ猛烈な欲望にかられた。そのためには今まで彼等が持つてゐた自然主義的な手法、即ち外界の事物を視覺が受け取つたまゝに描出する方法では不足であつた。外界の形を勝手に歪め、思ひきり强烈な、不調和な、極端な色彩を畫面になげつけなければ表現出來なかつた。物凄い、みにくい苦悶や絕叫、その合間々々に生れる狂的な歡喜などが題材に選ばれた。

この表現が一時おさまると、かういふ內容が失はれて、形式だけが殘つた。即ち外界のありのまゝの形の無視、奇妙な色彩の羅列などが殘つた。それはいよ〱進んで、たゞ〱一種の新しい模樣のやうなものになつてしまつた。何が描かれてゐるといふ事もない、たゞ色彩と形との組合せから生じる新しい感覺を樂しむ、即ち眼で見る音樂といふやうなものになつた。これが抽象派とか絕對派とかいふ派である。

伊太利の美術界

一方、イタリーではどうだつたか？

イタリーは大戰に參加はしたが大きな悲慘は味あはなかつたし、經濟的には寧ろ好調に向つたし、これを機として資本主義的に發展させやうといふ國粹主義の運動、即ちファシズムが生じた。

即ちイタリーの新しい美術は寧ろ戰爭を讚美したドイツとは全然別に、鬪爭、速力、運動、力强い機械などに對する讚美と憧憬とを畫面に現さうとした。その爲め、一つの時間的な經過――運動――を描かうとして、走つてゐる馬に八本の足を與へたり、異る時間に異る場所でおこつた事を一つの畫につめ込んだりした。從つて形式は表現派よりも遙に美しくて幾何學的に整理されてゐた。

大戰を拒否してスウヰスに逃げ込んだ美術家達からダダイズムの運動がおこつた。それは冷い絕望と

單に嘲笑の藝術

すべてのものに對する嘲笑の藝術である。これはもう美術運動といふ事は出來ない、なぜといへば美術をも嘲弄したからである。そこで此派ではもうカンバスだとか繪具だとかいふものにこだわらず、に髮の毛だとか、古い自轉車の輪だとか、木ッ片だとか、マッチ箱だとかことさらきたならしいガラクタを材料につかつた。初期にはただ汚いとされてゐたものを陳列するといふだけの意味で、ダ、ヴィンチの名畫モナ、リザの複製に鬚をはやしたり、マリアの像を赤インキで抹殺したりして展覽會に列べた。（つゞく）

謹賀新年

釜山大倉町　合名會社　和田商店　和田周太郎　電話長五四二番

釜山大倉町　紙類卸　文房具部　北島商店　電話四六四番　二三十七番

丸大認識工業株式會社　釜山支店　代表取締役　米倉清三郎

釜山府大倉町貳丁目　銅鐵商　英友次郎商店　電話長四六二番　六三二番

釜山府牧之島　田中造船鐵工所　電話牧ノ島長九番

釜山本町一丁目　朝鮮名産　旅行具　雜貨商　山崎本店　電話四五六番　振替京城二四七八番

釜山府南濱町海岸通り　海産物　肥料商　合名會社　守谷商店　電略(ロ)又ハ(モ)　長電話(三十三)番

安城市場　坂井支店　電話四五番

安城市場　安城旅館　主　武藤マサ

安城邑內　回春醫院　李光田

株式會社湖西銀行安城支店　支店長　李正鎭

安京市場　土木請負　松原常司　電話一七番

安城邑內　共成自動車部　主　太郎丸時久　電話一〇番

安城金融組合　理事　石塚保

安城邑內　土木請負業　德田盛重　電話五一番

安城商事株式會社　社長　金濟弘　常務　吳鳳根　電話三一・七一番

安城郡　邑內面事務所

安城郵便所長　杉谷清人

京釜線西井里　西井里郵便所長　北住確三郎

京釜線併店驛前　米穀精米　木材雜貨　共榮社

水原郡東灘面　普通學校長　藤野孝平

京釜線西井里　西井里驛長　藏本源

京釜線烏山驛前　合資會社　烏山商事會社

振威興農株式會社　山田顯義

烏山米穀檢査支所　支所長　藤本士三男

水原郡　烏山公立普通學校　職員一同

安城郡廳　職員一同

曹溪宗大本山　龍珠寺職員一同

釜山府大倉町三丁目　日本紙業株式會社　釜山出張所　電話長四二八番　電略⑥　受信略號(フザンカミ〇一)

釜山本町一丁目　綿布　打綿　拵綿子　村上幾藏商店　電話長五番　電話一五〇番

釜山本町三丁目　合資會社　萩野商店　支店　京城太平通二丁目　電話長三〇番　電話二四〇〇番　電話本局七八七番

釜山商業會議所會頭　香椎源太郎

釜山　土木建築請負業　木下元次郎

釜山府大倉町四丁目廿三番地　內國通運株式會社釜山支店　釜山支店長　若菜信

多木肥料南鮮總代理店　福王式穀扱機全鮮一手販賣　インターナショナル石油發動機特約店　肥料　米雜穀　委託賣買　豐田福太郎商店　釜山大倉町二丁目十八番地　電話長一七・一六五・一五五二　電略(ト)又ハ(トヨ)　振替口座京城三四三八番

釜山倉友會　朝鮮興業株式會社倉庫部　釜山共同倉庫株式會社　大池商店倉庫部　朝鮮商業銀行倉庫部

釜山　釜山陶磁器商組合

正夢 (一)

大衆讀物　甲賀三郎

一

醫生の牧田が一禮して下つて行くと、高木はホッと解放されたやうな氣持になつた。

郊外に可成り廣い地面を買込んで木造の洋館を一棟建てゝ、飯焚き婆に女中と醫生の三人の雇人を對手に、極拘束されない生活を送つてゐる、青年文學士の高木ではあつたが、やはり雇ひ人達に對しては相當の氣遣ひをしなければならなかつた。かうした事は、獨身の氣樂さを心から味はひたい彼には、可成りの負擔だつた。かといつて、彼は獨身の氣樂さを、容易く拋棄しやうといふ考へもなかつた。約婚の美しい政子との結婚の執行については、親戚中から迫られてゐるのではあるが。

押し迫つてくる歲の瀨も、呑氣な生活をしてゐる高木には、多少感慨めいたものはあつたが、世間一般の人のやうに、あわたゞしい氣分は少しもなく綽然としてゐた。つまり彼には日めくり暦の三百六十幾枚の中、どの一枚も全く同じ價値だつたのだ。だが、女などゝいふものは、若くても年寄つても、歲末になるとあはたゞしい氣に出たいものらしかつた。その證據には、高木の雇つてゐた女中と飯焚婆が、買出しの景氣を觀察する爲に、一晩の暇を貰ひたい旨を申出でた、高木は無論即座に許した。さうして事のついでに、醫生の牧田にも一晩の暇を與へた。

女中達は夕食がすむと、待ち兼ねたやうに支度をして、それ／＼として出ていつた。高木は、この風の吹いてゐる戰慄ひの郊外に、まつくらな郊外の凸凹道を、繁華電車の停車場まであるいて、それからやつと町の繁華街に出て行くといふ事に、大きな誘惑を感じてゐるらしい彼女達を、一寸羨しく思つた。醫生の牧田は町へ出て行くまでに、それ程大きい誘惑は感じないらしかつたが、高木の考へでは、大晦日も間近だし変る／＼出すといふやうな氣づかひが面倒だつたので、一緒に出す事にしたのだつた。

三人の雇ひ人に一晩の暇を與へるといふやうた些少な事ではあつたが、高木の頭を相當に疲らした最後に牧田が出て行くと、高木ははじめてゆつたりした心持になつたのである。

八時にはまだ大分間があつたが都會の喧噪中より靜かだつた。隣家——といつても少くとも一町は離れてゐたが——から洩れ聞こえてくるラヂオの西洋音樂の音が微かに蟲の鳴音のやうに漂うてゐた。

高木は專製の安樂椅子に身を埋めて緑色のシェードを通してくるこゝろよい電燈の光りで、横文字の小說を讀み出した

ゼー、オー、エー、テーといふアナウンサーの聲が、遠い彼の國からでもくるやうに響いて、ラヂオがやんだと思ふと、それつきり再び鳴り出さなくなつた

四邊の靜けさは元へ返つた、自分自身の呼吸の音が、室中に反響するのだつた。

時折、思ひ出したやうに風が吹いて行つた、後は文字通りそのものだつた。

と、突如として、けたゝましくベルの音が鳴きわたつた。

高木は飛上つた、余りの不意打ちに彼の心臟は激しく動悸を打つた

が直ぐそれは玄關の呼び鈴だといふ事が判つたので、安心はしたが同時に、今頃訪問して來る客があるはずはないが、一瞬誰だらうといふ一種の不安と、雇ひ人が誰も居ないといふ面倒さが錯綜して、出て行くのがひどく億劫になつたので、高木は暫く躊躇してゐた。

高木の非常に意外に思つた事には誰かゞ玄關の戶をあけにいつたらしいやがて足音が書齋の方へ引返して來た。

高木は又しても異樣な不安に襲はれた。

ドアがあいた。ぬつと身體をだしたのは牧田だつた

『上原さんのお嬢さんが見えました。』

上原のお嬢さんといふのは、約婚の政子のことだつた。今頃政子がくるといふのは不思議だつた。

『お通ししろ。』

と、取り敢ず、から返事をして置いて、高木はもう一つの疑問の解決に取りかゝつた。

『牧田、お前はまだ行かなかつたのか。』

『ハイ』牧田はまゆ一つ動かさない、無表情な顏で、『町へ持つていつてだうと、急に思ひついて端書を書いてをりましたので、まだなりました。』

『さうだつたか。』だが、政子さんならかまわないから、すぐ出ていつてもいゝよ』

『有難うございます』

牧田が引込むと、華奢の政子が、きや奢なマントの片袖だけ、はねあげながら、飛び込んで來た。

『今晩は、おかはりなくて』彼女は息をはずましてゐた。

『今晩は、どうしたといふの、政子さん。今頃だしぬけにやつて來てさ』

『聞いて?許して頂戴、でも、わたし急に心配になつたもんだから』

『何が心配になつたの』

『いゝの、いゝの、わたし、こゝへくれば、もういゝのよ。あなた銀座へ行かない?』

『銀座—』

『えゝ』

『何しに』

『何しにつて、あなた、こんな所にゐてさびしくない』

『ちつともさびしくないね』

『行きませうよ、行きませうよ。あなた、こんな所にゐちや駄目』

『どうして』

『どうしてつて、わたし、夢を見たんですもの』

『夢?』

『えゝ』

『どんな夢?』

『いゝの、いゝの、夢の話はいゝの。すぐ出かけませうよ』

『困るなあ、そんな我々をこねちや。今晩はみんなに暇をやつて僕一人で留守番をする事になつてゐるのだから。』

『でも、牧田がゐるぢやありませんか。』

『あれも直ぐ出かけるんだよ。實は疾うに出かけたと思つてゐたのだが——』

『疾うに出かけたつて、それはどういふ事なの』

『何ね、さつき、やらして頂きますといつて、この室を出て行つたから、もう居ないかと思つてゐたのだ。』

『それが、どうしてゐたの。』

『端書を書いてゐたんだつて。』

『さう、ぢや、あなた一人になるのね。』

『ぢや、誰や誰が歸つて來るまで私、こゝにゐていゝ?』

『いゝとも。だが遲くなるよ。』

『遲くなつたら、泊つて行つていいでせう。』

『そりや、政子さんの家さへ關はなければいゝけれども。』

『關はないわ、私いつて來たんですもの。』

『ぢや、いゝよ。』

扉が音もなく開いた。牧田が半身を現した。

『先生、では鳥渡お暇を頂きます』

『ア、ゆつくり行つといで』高木は暫くなづいた。

牧田は默つて一禮すると、チロッと政子の方を見て、のつそりと姿を消した。

牧田の足音がだん／＼遠退いてやがて、玄關の扉をあけて、外に出たらしい音がするまでヂッと耳を澄らしてゐた政子は、ホッとして吐き出すやうにいつた。

『私、どうもあの牧田といふ人はすかないわ』

『さう、そんな惡い人間ぢやないがね』高木は又かといふ風に答へた。

『變に好見たいで、陰險だわ』

『そんな所はあるね、愛想氣のない、表情のない、ちよつと薄氣味の惡い男だが、あれで中々頭がいゝ、よく氣がつくし、瓢敏だし、醫術なども中々うまいよ』

『だけど私は嫌いだわ』政子は斷乎としていふ風にいつた『あなたあれに暇を出して下さらない』

『政子さんの氣に入らなければ、どつちにしてもこの家に長く置いとくとは出來ないのだから、暇を出してもいゝけれども、本人に何の過失もないのだから』高木は澁々いつた。

『ぢや、どこかいゝ所へ世話してやればいゝぢやないの。』

『隨分勝手だね。政子さんは自分の氣に入らないものを他人に世話が出來る?』

『だつて、あなたはほめていらつしやるぢやないの。』

『ほめるといふほどではないが』

『ですから、どこかへ世話してやりなさい。私はどうあつても、こゝへ置くことは嫌なの。』

『ぢや、仕方がない。いゝ所があればやるとしやう。』高木は不承々々いつた。

『さう、きつとね、きつとさうして下さる。』

嬉しさうな叫び聲を上げた政子は、甘えるやうに高木に凭りかゝつて、眞赤な唇を求めるやうに突出した。

風が新ましさうに吹いた。暖爐の火は極り惡さうにチョロ／＼焰を上げてゐた。

二

『牧田といふ男は誠に重寶です。成る程表面は少し陰氣で、實際機嫌を色に現さないといふ風だが、中々氣の利いた男で、老人二人を痒ゆい所に手の届くやうに、世話してくれます。それに綺麗好きで朝早くからおきて、實によく行き届いた掃除をする。又非常に器用な男で、この頃は植木鋏を剃つて見るが、本職よりも氣持ちがよい位です。』

『氣に入つて、まあ好かつた。』

高木は隣邸の伯父からの手紙を讀みながら、安心したやうにつぶやいた。

醫生の牧田は高木には氣に入つてゐたのだつたが、どういふ譯か約婚の政子がひどく嫌ふので、高う度伯父夫婦がしつかりした醫生をほしがつてゐたのをさいはひにして、年が暮ると早々牧田をその方にやつたのだつた。

それから一月ばかりしてから受け取つた伯父の手紙だつたが、ひどく喜んで書いてあつたので、高木も肩身が廣かつた。政子は牧田が伯父の所へやるについても、大分反對したが、さう我まゝも、いつてられないので、漸くの事で納得したやうな譯だつたので、牧田の身の締まりについては、高木は可成り心配してゐたのだつた。—

が高木が安心したのも束の間、伯父の手紙を受取つてから一月經たつた三月の半、政子との結婚の儀式が、いよ／＼間近に迫つて來た時に大變な事が持ちあがつたのだつた。

それは牧田が、伯母の留守に伯父を剃刀で斬り殺して有金を攫つて遁走したのだつた。

伯母からの電報の知らせを受取つた時には、高木は卒倒せんばかりに驚いた。

早速病院に駈けつけて見ると、更に驚いた事には、兇行が頗る計畫的に行はれた事で、牧田は余程以前から機會をうかゞつてゐたらしく、金庫の符牒などもいつの間にか調べてしまつてゐたのだつた。

『こんな大それた惡人とも知らずに、世話したりして、何とも申譯がありません。』

高木は額を顏にすりつけんばかりにして、伯母に平謝りに謝つた。

牧田は間もなく、直に大阪で逮捕された。彼は頑強な體格のある無頼漢だつたが、取調べらるゝまゝに、平然と彼は犯行を自白した彼の自白は多くの新聞紙を賑かした。

× × ×

牧田の自白が新聞に出た朝、高木はいつものやうに書齋の安樂椅子にもたれかゝりながら、その記事を貪るやうに讀んでゐた。

自白は次ぎのやうだつた。

『今の主人の前の甥に當たる高木さんといふ家に這入り込んでゐました、私は無論そこでも機會をねらつてゐたのです、私は一生懸命に努力して、すつかり若い主人の氣に入つてしまひました。

去年の春の事でした、或晩主人は私を初め女中達も呼ばずにひまをくれたのです。好機到來です。私はその晩少くない現金が金庫の中にあるのを知つてゐるました。金庫を開ける事は譯はなかつたのです。

私は外へ出たやうな振をしてそつと玄關脇の一部屋に潜んでゐました。私は主人を剃刀で斬殺して警察に疑はれたやうに見せかけ巧みに罪を逃れる積りでした、私に嫌疑のかゝらないやうに、抜目なく說明をとゝのへて置いたのです

所が、私の折角の計畫は、一人の若い女に破られました。これは主人の約婚になつてゐる婦人でそろ／＼仕事にとりかゝらうとしてゐた時に、だしぬけに訪問して來たのです。

人を殺して金を奪り、しかも嫌疑を巧に逃れやうといふやうな、非常に微妙な仕事ですから、ちよつとした邪魔者が這入つても、もう決行する事は出來ません。私は時に實に情なく思ひました。さうして突さに計畫を拋棄しました。幸ひに私は玄關に鳴きわたる呼び鈴を聞いたのですから、無理な事をしなくても、機會はやがて廻つて來ませう。それにしても、今にも主人がやつて來て、こんな處に隱れてゐるのを見つかつては、假用を落すもとだと思ひましたので、直玄關へ飛びだして、取次ぎをしました。

それから暫くして、突然主人が伯父に當たる今の所へ行かないかといつた時には、さては露顯したかとぎくりとしましたが、格別そんな懸子もありません。雖だといへばかへつて疑はれると思ひましたから、こゝろよく引受けました。然し、何となく不安だつたものですから、今度はつい仕事を急ぎ、讒に拙い事をしました。もう少し落ついてやればこんな事にはならなかつたのです。返す／＼も殘念です』

讀んでゐるうちに、高木はだん／＼蒼ざめて來た。ヌラリと氣味の惡い冷汗が背中を這廻るのを感えた。彼はもう少しで牧田の犠牲にならうとしたのだつたではないか。彼はガタ／＼顫えた。

と、不意に扉が開いた。

政子が手毬のやうに飛込んで來た。

『あなた—』

『政子さん、』

二人は顏を見合した。

『やつぱりさうだつたのですわ』

政子は昂奮してさけんだ『あいつは、あいつはあなたを殺す積りだつたのです』

『さうでした政子さん』高木は政子の手を堅く握りながら叫んだ『私は政子さんのお蔭で命をひろつたのです』

『やつぱり夢の通りでした』

政子は嬉しさにすゝり泣きながら『私はあの日晝方、夢を見たのです。あなたが牧田に刺し殺される夢を見たのです。私は一日氣がかりでした。けれどもそんな事をあなたにいへば、笑はれるにきまつてゐますから、一生懸命に辛抱してゐたのですが、夜になると、不安で不安でならなくなつたので辛抱しきれなくなつて、こゝへ飛んで來たのでした。』(終り)

當り年の澤正

新國劇の總帥で、劇聖であれ、劇壇であれ、新作劇であれ、往くところとして可ならざるなき澤田正二郎君は、明治廿五年生れで、今年は辰の當り年です。滋賀縣の舊で早大文科出身、元文藝協會に屬して死んだ松井須磨子や土肥春曙、東儀鐵笛などの後援として舞臺に立ちました。その後獨立して新國劇を組織し、劍劇王として、所謂澤正の名は響き渡つて居ります。今年卅七歲です(寫眞は澤正)

謹賀新年

江陵面職員一同

江原道 江陵殖産銀行 三村梅雄

江原道注文津 吉田義男

高城金融組合

高城法院出張所 石橋正雄

江原道長箭 伊藤傳三郎

江原道大浦金融組合 理事 重村知三

元山憲兵分隊 藤田四郎

江原道江陵 江陵郵便局長 外局員一同

高城警察署職員一同

鐵原公立尋常高等小學校長 小柴光太郎

元山府本町四丁目 いろは自動車部 後藤今五郎 ▲元山、金剛山、定州市内 貸自動車

元山府本町 舶來雜貨 飯山洋品店 電話六五番

元山府本町三丁目 コロタイプ印刷 繪はがき發行 寫眞帖 梅田寫眞館 電話六三〇番

德源郡廳職員一同

元山營林署

咸南永興郡廳職員一同

咸南文川警察署 毛利由太郎

咸南文川 伊藤德藏 岩城厚

咸南安邊郡邑 安鶴水利組合職員一同

咸南安邊郡 安邊警察署職員一同

咸南高原警察署 文武會

咸南高原郵便所長 足立三郎

鐵原警察署 鹽谷武夫

鐵原公立普通學校校長 倉澤藤三郎

元山府旭町一丁目五番地 ㋕ 龜谷商店 電話一〇一番

元山海岸通三丁目 米穀雜貨 貿易商 金利錫商店 電話八三五番

江陵本町一三 薩摩屋旅館

江原道長箭 林兼出張所

朝鮮總督府 朝鮮總督府遞信局 江原道 朝鮮殖産銀行 江原道金融組合聯合會 御指定 溫泉旅館 萬龍閣 館の特長 各室外完全設備 館内ニ清潔ナル溫泉内湯アリ 館内ニ(ピンポン)ノ設備アリ 寫眞暗室ノ設備アリ 庭球(コート)ノ設備アリ

高城郡内各公立學校職員一同

高城郡廳職員一同

江陵郡江陵面大正町 佐々木完作 電話一二八番 春川電話一九番

咸南 安邊郡廳職員一同

江陵本町 田中鶴一

吉田早多 安邊法院出張所

北鮮水産株式會社

元山水曜會

元山土曜會

咸南文川郡廳職員一同

元山公立學校職員一同

元山府廳職員一同

元山郵便局職員一同

元山商業會議所

元山輪業組合(イロハ順)
中尾商會 元山府本町四丁目 電話三八四番
愛輪商會 元山本町二丁目 電話一〇四番
牧商會 元山仲町二丁目 電話九〇番
藤本商會 元山本町四丁目 電話四〇七番
佐子商會 元山本町四丁目 電話七〇二番

元山旅館組合

咸南高原郡廳職員一同

JODKの生立……(昭和二年の漫畫史)……松田壽雄畫

J O D K 【京城】

一月一日（日）

午前一一、〇〇

▲合唱君ケ代、年の始　第一女學校生徒合唱團　伴奏　澤田タカ子

▲年頭御挨拶　京城放送局理事長　藤川克彥

▲鶯の初音　同發者　熊谷鶯泉

……◇……

▲童話　鉢の木　南山幼稚園長　大和田りよ

▲長唄大薩摩『鞍馬山』

唄　岡堂　三絃　杵屋佐多枝　上調子　杵屋芳枝　小鼓　花茂登菊千代　同　久辰仲久松　大鼓　久辰仲與太郎　太鼓　香羽家一若

＝歌詞＝　本調子それ日も鞍馬の懸ろとし、木葉おどしの小夜あらし、物さわがしく艶船川、天狗倒しのおびたゞしく魔界のちまたぞ恐ろしき、『爰に源家の正統たる、牛若丸は父の仇、平家を一太刀恨みんと、夜每詣ずる多門天、祈念の披れ岩角に、習しまどろむ、肱まくら、『思ひ出せば、我いまだ三歳の時なりしが、母常盤が懷に抱へられ、伏見の里にて宗清が、網によりて命助かり、出家せよと當山の、東光坊に預けられしも、昔へて見れば一と昔、十餘年の星霜經れど雅心に忘れずして、今まのあたり見たる夢、それにつけても父の仇、劔道修行なさんと雖も、我一向の生兵法、頭へば陣の惡にて、本望遂ぐる時節を待たん』『イデヤ殊勝の修行をなさん、『木太刀おつとり、身がまへなす、時しも俄に風起り、天狗礫のばらばらと、鳴動なしてすさまじ、『合通の杉の梢より、又もや怪しの小天狗、木太刀うち振り、立向へば、『シヤ小賢しと牛若丸、つけ入る木太刀を拂ひのけ、上段、下段、早速の働き、勝負いかにと窺隱れ、後に續ぶ僧生坊、傷り劣らぬ兩人が、木太刀の音は鍔して、目覺しくもまた、勇まし、『さしもの天狗もあしらひかね、跡を晦まし失せにけり、跡を、くらまし、失せにけり。

長唄研秋會本年劈頭の放送です、本曲は安政三年市村座の十一月狂言『娼女誠長田忠孝』の五立目のだんまりに使つた大薩摩である。

▲二曲合奏新玉の曲　都山流尺八　佐藤令山　箏　菊井鶴抜

＝歌詞＝　霞晴れ行く新玉の年を迎へて山の端の、初日の光谷にかゝれる露をふきはらう、軒にヒラヒラ日の御旗千代に八千代に皇統の、つゞきまします神代より榮へ行きけん動きなき、御代を修めて千潮樂、祝ひ重ねん君が代を萬々歲とぞ祝しけり

▲ニユース其他　▲南道短歌　李眞伯　▲時報　▲翌日プログラム發表

一月二日（月）

午後六、〇〇

▲童謠　獨唱及合唱　カナタ會員　趙聖淳　趙東奭　金相淳　池龍九

▲朝鮮音律

▲ニユース其他

▲高級音曲萬歲　大阪　砂川よし丸一行

▲絃樂四重奏　演奏される四重奏曲は一般に知られて居て、且つ面白く愉快に聞けるもの計りである。演奏者は朝鮮ホテル專屬クワルテットの方々、お馴染の事と思ひます

▲ラブインアイドルネス　▲長唄囃子全曲　▲歌劇カルメンセレクション　第一ヴイオリン　中野秀雄　同　鈴木健次　セロ　小檜山次郎　ピアノ　湖水幹三

▲時報　▲翌日プログラム發表

一月三日（火）

午後六、〇〇

▲童話太郎の初夢　濱口良光

▲淸元『淸海波』

唄　久辰仲與太郎　同　京家千代三　同　三味線　吉野家千代　同　吉野家秀千代

歌詞　『神代より光り輝く日の本や』千珠滿珠の世がたりを今に傳へイ陸奧の千賀の鹽がま鹽たつ暖に明て松島の『ながめは盡きめ』春の日の汐干潟を引袖に移す衆も惚き梅の花貝さくらがひみるめのあかぬなる花の移踏む夏山の筑波が覗く船の中『あふせの神の私語いつか浮名もたつ浪のうちこんでゐる眞心に待とは戀の謎々も解た素顏の夏の富士』富見の沖や三保が崎まつに本窓なき背東風に檜やあし邊の片男浪その通路は星合のなかかけ渡すかさゝぎの『大の宙立きれ戸とは裏表なる潮騷……くむあまのしるしとてみどりの秋を選したる戀はむかしのうたひものアラめで鯛は神の代に赤めと召されそめしより鱈子のかみの釣上し二世のかための縣鯛にえにしを繫ぐ諸白髮若やぐ鬪とうば玉の闇の景色は漁火のちらりちらり月の出潮に網引の聲の節も拍子も一樣にヤンラ月の『名所は余所ほかにないて明石のはんま千鳥サツサホウノへめしに淡路は氣にかゝる室のとまりを松帆のうらトヤサホウエンヤノへ面白や『波も靜に背きか原をなかにひかへて住よしと名も高砂のめうと松靜にもめげぬ深みどり榮か家の壽を猶いく千代も延ぶろなく直な心の湧元とめでたく祝ふ家中の君が御繫でありがたや

▲芝居噺『蛸芝居』　橋本文枝

家内中揃つて芝居行きの家、小増は朝から庭掃除をやるのに水まき奴、旦那は家内一同を起すのに『オーソイノへ』と三番を踏む、出入の魚屋が又芝居好きで魚を賣るのに俳優の名前を付けると云ふ、今度は蛸と旦那と芝居を始めるが途々蛸に墨を吹きかけられて眼を廻す所へ丁稚が歸つて來て早速の頓智黑豆を三粒出して旦那を甦らす、旦那やつと氣が付いて蛸に當られて黑豆が利いた。

文枝さんは元桂派のチヤキチヤキで現在大阪で眞打のパリ今晩は又十八番の芝居噺おへその位置を確りお願ひします

▲ニユース其他　▲伽羅獨唱　波和鍵　▲時報　▲翌日プログラム發表

新年文藝

俳句（其の一）

題『新年雜詠』　臼田亞浪先生選

一等　貨車の鷄に鳴かる、旅のお元日　京城府初音町二〇四　野口白葩

二等　餅花に灯のほのめきや雪となり　忠北淸州北町一四ノ二　園部双葉

三等　初凪の干潟の貝が口開けて　京城府新木町　尾吹冴子

佳作

突く羽子の餅樹に消えにけり　◇京城　鈴木來宮

初雀樋踏む音の日向より　◇新幕　楢山とよみ

泣きやまぬ兒を揺すり夜のどんど　◇京城　庄司鶴仙

初詣我錢撒く散らばつて　◇淸州　園部双葉

羽根突く子見てゐる門子を欲りず　◇京城　三宅山來

出初式照る日の坂を戻り來る　◇同　尾吹冴子

屋根の羽子取りやりし男入上けた　◇瑞興　關白光

初刷の配られ皆明けて居る　◇同　酒井映波

門松の雪かちかちと月さして　◇新幕　森島耳洞

新荷舟橋の夜明けの風見ゆる

一人罷る若菜賀ふ氣になつて居る　◇京城　赤松鳴潮

初日拜む今年も我は二人きり　◇新幕　佐々木七峰

初凪の船ご咽鳴き子をかばふ　◇金泉　坂口砂村

餅燒けば見ぬ故鄕が戀はれ來て　◇仁川　岸本均穗

立ち出し門邊の風よ雜煮腹　◇新幕　藤澤兜城

初日拜める睡女の額かゞやけり　◇新幕　横山時風

棟に風少しある月の下　◇京城　岩田梨村

猿見きの首に冷たき粉雪哉　◇遂安　中込埴水

水鳥の日覺め初空やすらけし　◇朱安　島越竹鈴

お降りや納屋の簷に溜れて居る　◇太田　諸吉陽水

ふさふさと正月髮の里子にて　◇金泉　小坂いわく

お降りのかくて靜かな夜となりぬ　◇京城　黑川溪水

町へ出る風邪の機嫌の變からず　◇同　寺田何龍

左義長や凍てたる雪の焦げにつゝ　◇新幕　金子銀亭

雪の且の街に舞ふ猿いとしうて　◇居昌　本田獸水

若水やほのぐ明ぐる鵜の聲　◇京城　千葉稔江

門松や雨のつらゝ垂して

選後の感として　臼田亞浪

□京日俳壇に初めて選評の筆を執るに當り簡單に私の主持する俳句觀を述べて置かうと思ひます

□私は俳句を以て日本民族に與へられた尊くも誇らしい短詩の一つとして形式上に於ては一句一章としての應聲の十七音を提唱するものです。從つて五七五調にならうと、二句一章にならうと、時にまた十八九音にならうと、それ等は出來た上の勝負として、あくまで表現の自由を把持すると共に、リズム感覺はこれを音韻の單位に求めてゆかうとするものです。それ故ひとしく古典藝術としての定型律を堅守する人との間に在つても、私には餘人と違つた時代的な清新さも自由さとがあります

□また內容上に於ては季感を一層擴充した自然感をモツトーとするものです。本來多くの場合季語のはたらきによつて感情象徵の功果を收めては居りますものゝよしそれがなくとも裡に季節的な自然感の漲るものがあればそれは俳句たる條件を滿してゐることを肯定するものです。それ故、この點に於てもまた、季語の弊を脫した清新さがあり、心と形との一致を期することが出來ます。そして本質的に「網羅普遍なる究意の生命に還元し、永遠に犧牲のそれと一體として生き、一體として眞の自由に甦らんとする宗教的な生命感の表現にまで押し詰めて居るのであり、そこに俳句製作の意義と本願とがあるのであります。

□けれども私は選者としては私の前に置かれた俳句そのものがあるばかりです。濫りに己れの主持することの延いて作者の個我を顧に育くむ所以ではないことが省られます。それ故私には流派もなければ新舊もありません、唯だ置かれた俳句の價値如何があるばかりであります。

□ここで新年號の投稿はよそれが雜詠であるとしてもすでに新年と言ふ裡に傳統の意をこめての製作があるからして、見やすい道理であり、そこにまた製作上の一層の困難が横はつてゐる。けれども今回は新年號としての特別の窮策にかゝるものであり、平昔の批判の標準を以て律し難いものがあるからして一般に幾分標準を低めて置いたことを諒とされたい。

□投稿數に可成に多かつたが、所謂吟作傲作の存外にすくなかつたことであつた。そしてそれが當然の歸趨でもあらうが新年の作としてはすぐれた作品の相當に見出されたことを更によろこばしく思ふものである。

□一等の『貨車の鷄』は旅人としての佗しさのうちにも哉且をよろこぶ民族性が汲まれて涙ぐましくもなつて來る。二等の『餅花』は雪となつて來た灯のほのめきが冴え切つて餅花を中心として淨化とが深く味はる。三等の『初凪の干潟』は凝眼の敞羅と相俟つて如何にも表現の巧妙さが思はるゝ。

□その他佳作級の作品中『羽根突く狼』の如き『突く羽子の餅』の如き『雪の且の街に舞ふ猿』の如き『初詣裘錢撒く』の如き入賞の作品に多く讓らざるものであることを附言して置きたい

□希くは投稿家諸君が更に一段の努力により、この京日俳壇を權威あらしむべく全鮮俳壇の權威たらしむべく其協力を期待するものである、

謹賀新年

鐵原　安井隆雄　齋藤孫治　北村虎雄

鐵原驛前　玄米精米製造及雜穀委託販賣　㊂　三共商會　電話一一八番　電略三又ハ三キヨ

鐵原驛前　承認　㊊　鐵原運輸株式會社　電話三七番

平康水利組合長　稻葉

平北高山鎭　雜貨商　金鳳栝

平北高山鎭　宋尚珍

平北高山鎭　高山商店

平北高山鎭　醫生　金尚根

平北高山鎭　田雨吟

平北高山鎭　鴻福洋行

平北高山鎭　三橋忠吉

平北高山鎭　松田鹿嶋

平北高山鎭　李善夏

平北高山鎭　三木加九郎

平安北道江界郡　高山面事務所職員一同

平北高山鎭　藤本旅館

鐵原面職員一同

鐵原　材木商　加陽書店　電話一二九番

平北高山鎭　度量衡器委託販賣　池本邦雄

鐵原　長田洋服店　電話六五番　振替京城七五九一番

鐵原驛前　日用品食料品商　可土田商店

京元線鐵原　食料品雜貨　八百岩商店　電話五八番　振替京城九九六七番

鐵原　朝鮮電氣株式會社

京元線鐵原旭町　星製藥株式會社郡元賣捌所　藥種賣藥化粧品及洋品雜貨　卸小賣　五島商店　電話一五〇番　振替京城八八九四番

鐵原　會席料理　廣島屋　電話二六番

鐵原旅館組合　山口屋　電話三五番　日の出旅館　電話五五番　鐵原旅館　電話四一番　九州旅館　電話一〇九番

江原道金化驛前　木炭問屋　郡內特産物　江進商會　高橋昌義　振替京城一二八四八番

鐵原　會席料理　柳屋　電話一四一番

京元線鐵原驛前　輸出入商　滿洲粟外米雜穀　深肥料　卸小賣　㊃　金剛商農社　電話一五五番　振替京城一四八五二番　電略(コン)又ハ(コ)

鐵原　西谷國藏

鐵原　朝鮮煙草元賣捌株式會社　取締役　小宮山八郎

鐵道局承認店　京元線鐵原驛前　運輸荷扱　米穀販賣　北滿粟及肥料賣買　㋢　鐵原組運送店　店主　上坂宇八　電話四〇番　振替京城九三七三番

鐵原　金剛山電氣鐵道株式會社

京城金物商（イロハ順）

井原京城支店	本町一ノ三二
岩口金物舖	蓬萊町一ノ一〇八
橋田留店	本町一ノ二六
原田熊夫商店	北米倉町四二
合名會社堀田幸次郎商店京城支店	南大門通二ノ二八
德本京城支店	蓬萊町一ノ九
金川商店	太平通二ノ三〇五
吉川金物店	本町四ノ一三六
恒川商店出張所	明治町二ノ一〇七
仲谷金物店	本町三ノ四二
釘本藤次郎本店	本町二ノ五八
合資會社丸三商會	蓬萊町一ノ一六五
株式會社楠田又商店京城支店	南大門通三ノ九一
近藤安吉	本町三ノ三三
佐野彥藏商店	本町一ノ三一
佐藤牛次郎商店	本町三ノ五五
島田忠作	漢江通八番地
柴田國市商店	元町二ノ八一
鹽金卯一商店	錬兵町九
森本重太郎商店	太平通二ノ八八
株式會社毛利商店	南大門通五ノ一六
住友龍山支店	漢江通一三

京城府本町一丁目　日活直營　喜樂館　電話本局五九七番

京城料理屋組合

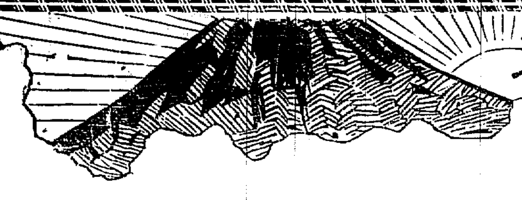
（いろは順）

井以白は千千花花甘加花川瀧玉南浪松松眞富五江惠旭笹咲京喜喜錦豐都勝末

ぞ代　別月泉茂　麺　山　葉　久木川比壽の良喜代久久　戸支

門㐂水半本歲月莊仙亭川檀長家喜莊花亭園淸砂助庵店須司雪喜久中蕭榮水　鳥利廣

戊辰新年紙上名刺交換會



[illegible]

[illegible]與三吉

大橋新太郎

[illegible]株式會社
支配人 豊田[illegible]

谷多喜麿

齋藤一

森岡二三

萩原彦三

今井[illegible]男

[illegible]

朝鮮煙草元賣捌株式會社
取締役 小宮山八郎

平壤府尹 松井信助

[illegible]吉十郎

飯島[illegible]

居昌郡
公醫 今井孝一

[illegible]

大村[illegible]

[illegible]面長
吉木[illegible]郎

志賀信太郎

[illegible]

内田錄雄

[illegible]静之

入澤重麿

澤田静江

井上孝哉

恩田銅吉

釜瀬富太

山本林吉郎
三子[illegible]

渡邊秀雄
仁川

[illegible]

堀井[illegible]

[illegible]

足木吉郎

錢原
間瀬敬吉

[illegible]三郎
三年[illegible]

[illegible]子

吉村謙一郎

宮下保雄

咸鏡北道參與官
李[illegible]榮

京元線鐵原
不二興業株式會社鐵原農場
主任 藤本久平

居昌[illegible]
[illegible]

居昌學校組合管理者
鵜飼己之男

株式會社東萊銀行居昌支店長
具瀅書

延白警察署長
片山元造

居昌法院支廳
執達吏職務取扱
瀧口慶之助

居昌郡守
金昌漢

美座流石

岸田菊伊

名取真雄

[illegible]

京城日報　其五

將來の婦人運動

山川菊榮

一

「婦人運動、婦人運動とやかましくいふが、一體それは何を解決することができたか。いづれ婦人運動といふものが無數に現はれて出ては一時世間の目を驚かせるが、結局少數の指導者を有名にし、一知半解の『新しい女』または『モダンガール』を生産したほか、何を殘すことができたらう！」からいつて

◇……婦人運動　の意義に疑ひを抱く人々がある。表面から見ると、なるほどさういはれても仕方がないと、婦人運動びいきの者にさへ思はれるほど、在來の日本の婦人運動には、一時的なはでな性質と、多かれ少かれ空樂的な氣分が目についたのである。これは一體どういふ所から來てゐるか、といふと、在來の運動の代表してゐる利害も、その指導的要素も小ブルジョア階級の婦人、即ち普通に智識階級といはれるやうな職業婦人や

◇……女學生と　いつた人々の運動だつたせいだと思はれる。小商人、小地主、小資本家、官吏、技術家といつたやうな家庭から出て、相當な年まで學校へかよつたり、職業生活をしたりしてゐる人々は、その環境の結果として、どうしても個人主義的に傾きやすく、自己中心で物を考へがちになる。工場勞働者の組合などは同じ資本家のもとに、同じ勞働條件で、多勢の者が一所に働くので自然、利害の共通がハッキリと感ぜられ

◇……敵對する　階級はハッキリ分つており、從つて階級意識が發達するわけで團結力も強いのであるが、小ブルジョアの方は、大ブルジョア―資本家階級との中間に介在しその上層は前者と、下層は後者と利害の一致點があるが、その關係があいまいで、一體何が味方か敵かハッキリわからないところがある。だからこの階級の人々は、ハッキリした階級的利害といふものは感ぜずに、たゞ資本家と勞働者とのうち、どちらか自分に近い方、又は強い方に

◇……引きずら　れて行くか、又はどこまでも自分達の地位は、勞資の兩階級の圏外に立つ中立的なもので、從つて、自分達は最も冷靜に、公平にその對立關係に對して批評を下しうるものだと考へたりする。現在の社會を支配して居る勞資對立の事實――階級關係といふものを勘定に入れずに、全人類の幸福だとか、世界の平和だとか、全く抽象的な、觀念的の上にしかあり得ないいろいろの空想を生み出すのは、大抵

◇……この階級　の人々である。婦人の方でもこの階級に屬するものは、女學生や主婦のやうに、直接資本家に雇はれないものは、もとより勞資の對立關係について何ら直接の利害を感ぜず、たゞ自分自身の生活に直接關係のある範圍の問題にしか興味を感じない。そこで主婦なり生活改善とか、家庭改良とかいふ問題、未婚時代の女學生には職業の自由が、一の重要問題になつてくるわけである。また職業婦人のやうに、直接資本家に使はれてゐる者でも、自分を資本家につながれてゐる奴隷だとは考へない。同じ會社に雇はれてゐる

◇……女事務員　と女工とでは、平均すればともかくも一人々々について見れば、熟練した女工には、女學校出の事務員の倍も給料をとるのがある。けれども小間使が御飯たきを侮り、西洋人に對して人種不平等を憤る日本人が、平氣で支那人などを侮るやうに、女事務員は女工と自分とを同じ階級にあるものだとは考へない。資本家から見れば同じ奴隷であるにもかゝはらず、女事務員は仕事の種類が違ふばかりに自分は女工とは種類の違ふ人間だと考へてゐる。

二

かういふ風に階級關係をハッキリと意識しにくい小ブルジョアの人々は目先の不平や苦痛の原因を、

◇……勞働者の　場合のやうに、ハッキリ資本家との關係にあると考へ得ないので、ごく手近な、手つ取早いところに見出すか、又は友に持ちまわつて恐ろしくむづかしい哲學的、宗教的な解釋を下さうとしたりする。たとへば、こゝに殺人犯が出たとすると勞働階級の立場に立つものから見れば、その人が貧乏や無智な中に育てられ、虐げられ卑められて氣も心もすさんだ揚句、さういふ罪を犯すことになるのは、直接にはその人や、その周圍の

◇……責任とは　見られても、實際には、そして根本的には、さういふ罪を犯すものを作り出すやうな社會の制度であり、貧乏人を多く作る資本主義の罪だと考へる。けれども小ブルジョア流の考へ方をする人は、それは本人が惡いからだといひ、イヤ家庭が惡いからだといひ、また宗教心がないからだといふかと思へば、人間といふ者は天性罪を犯すようにできてゐるもので、これは人間に生れた以上、仕方のないことだと尤もらしく説明するものもある。婦人の場合もこれと同じく、そのいろいろな不平や不滿の原因を、ひとへに

◇……表面に現　はれた手近なところに求めようとする。現在の社會で男と女との不平等は最もいちぢるしい事實であり、その點に女が損をしてゐることも明々白々な事實である。『だから、教育職業の平等を求め、夫婦の權利平等を求め、參政權を求める。それさへ得られたら、婦人は男にすがらず、自分の手で自分の自由と幸福とをまもることができる』とかうかんがへる。そこで小ブルジョア婦人の中の元氣のよい連中が婦人運動をおこすのである。

◇……ところで　婦人がさういふ運動に參加するためには普通一般の婦人を束縛するやうな家庭の重荷といふものを背負つてゐない獨身者か、または獨身者に近い程度の自由を持つことが必要である。そこでさういふ婦人運動者は、その自由を以て婦人全體の利益を擁護する運動に携ぐべきではあるが、前にもいつたやうに、この階級の者は、得て個人主義に陷り易い傾向から、最初その爲に戰ふつもりであつた全婦人の集團的利害といふ抽象的な觀念から、

◇……何時の間　にやら離れて、自分ひとりのかち得た個人的自由といふものに執着するやうな現象がおこつて來る。長い家族制度にとらはれて、手も足も出ずにゐた日本の婦人にとつては、個人的自由といふものは、乞食の子供が繪本の人形をもらつたより、立ん坊が百圓札をひろつたよりもまだ嬉しい感じのするものである。」そこで個人的に解放された婦人――それは資本主義下にはあり得ないが――から見れば、取るにも足らない哀れな自由を、無上のものと渇仰し讃美しそれを享樂することにわれを忘れる事が多い。

三

けれども本當の婦人解放といふことは、そんなに生やさしいことではない。婦人が少しばかりの個人的自由を得、參政權や職業の自由を得

◇……參政權を　うるといふことは、それ自身としても重要なことには違ひないが、それだけでは、牢獄の中で高手小手にしばられてゐるものが、やつとその繩をたち切つて、牢獄の內部でだけは、自由に手足を動かせるといふだけのもので、決して自由な天地に、自由な人間としての社會生活を營むことが、できることを意味する解放そのものではない。資本主義は婦人を職業市場へかりだし、職業婦人や女工を作り出して、婦人に或程度の獨立の機會を與へた。けれども原則として家庭と

◇……職業とは　兩立しないために、婦人一般としては男子に依賴するよりほか、生活の道がない。法律が如何に男女の平等を認め、どれ程婦人の自由を認めた所で、男子を離れ、家庭を離れては婦人の生活が保障されない社會では、名目上の自由や平等は社會の下積になつてゐる無產階級の婦人の實質的な利益を何程も保護する力をもつものではない。無產階級および貧農の婦人にとつては、婦人が大學に入る權利といふやうなものは初めから問題でなく、自分等の屬してゐる世間の勞働爭議、小作爭議の結果の方が

◇……名目上の　平等などより遙に重大でもあり、痛切でもある。そこでさういふ階級の婦人は、いはゆる婦人運動者とは無關係に、勞働運動や農民運動の內部で男子と共に資本家や地主と戰ひ、また直接當面の經濟的利害は一致せずとも、根底において共通の利害をもつところの一切の被壓迫民衆の反抗的な力を合せた無產階級の政治運動に參加して、ブルジョアの政治勢力と戰つてゆくのである。そしてこれらの運動の力で、全無產階級の解放を實現することにより婦人の

◇……解放をも　實現することになる。資本家や地主が生產機關を獨占めにし、政治も經濟も意のまゝに運用してゐる世の中では、女として勞働者として二重に虐げられてゐる無產階級の婦人は、牢獄の中で、また手足をしばられてゐるのと同じことである。婦人にとつては、婦人を男子と平等の人間として認めると同時に、母としての特殊の職分を保護することにより決して男子の力にたよらずに生活のできる地位を保障する社會ができなくては、完全に

◇……解放され　たものとはいはれない。いくら婦人の自由を認めた點で一種根本の問題である生活の保障を、こう一々個々の男子の責任に任せて顧みない資本主義の社會には、婦人問題を解決する力がない。同時にその社會の內部で、たゞ名目上の權利の獲得だけに滿足する小ブルジョア婦人運動も、それを解決する力はもつてゐないのである。勿論無產階級運動の內部にも婦人運動は存する。しかしこれは、いはゆる男女同權を主張するための運動ではなくて、全體としての

◇……解放運動　にできる限り多くの婦人をひきつけ、この戰鬪力を充實させるための、特殊な方法をさしていふにすぎない。なぜ特殊な方法が必要かといへば、同じ被壓迫民衆の中でも婦人は特殊な地位にあり從つて特殊的な心理や習慣をもつてをり、それに適した特殊な方法をとらなければ――男子の大衆に訴へるのと同じ方法ばかりでは――到底これを階級的な戰線に動員することができないからである。

◇……かういふ　意味の婦人部は、在來の小ブルジョア的なそれとは、非常に性質の違つたものであり、從つて又やり方も違つていかなければならない。在來の日本の婦人運動につきまといがちであつた個人主義的、空樂主義的な傾向は、この運動の內部では許すことのできない要素である。この運動が小數智識分子の無產婦人に對する運動でなくて、工場で絲埃にまみれて働く女工や裏店で內職をする女房や赤ン坊をおぶつて野良仕事をする本當の無產婦人

◇……貧農婦人　自身のものとなればなるほど、小ブルジョア婦人運動のやうなはでやかさは失はれその代りに骨の折れる地味な、地道な、目立たぬ、犧牲的な忍耐と勇氣とを要するものになつてゆくのである。舞臺の上で見物的に一つ一つ華麗を喝采するほかに能のない華麗の女優じみた要素は、微塵もこの運動に加はる餘地はないのである（完）

いつしかに門松の背のくらくなり暮れんとすらん元日もまた　……與謝野晶子女史筆

曉の舞臺つめたし謡初め……坂元雪鳥氏筆

遣羽子や風に上手をつくしけり……子規

當り年の　坊ちゃん　孃ちゃん

『辰の年だよ、私の年だよ』初めて自分の生れ年を迎へた坊ちゃん孃ちゃん方は過去十數度のお正月を迎へた時以上の喜びです『お正月は樂しいな、双六、たこ上げ、はねつき、それに氷の上をスケートですつすつと走る樂しさ、門松はじめなは、それにお雜煮もたんと食べて、お年玉をたんまり貰つて、ほんとにお正月は樂しいな』世界を通じ、國境をこえて、就中正月を喜ぶ樂しさは小さい人々の特權とでもいへませう。ましてはじめて迎へた十三歲の坊ちゃん孃ちゃんは自分で喜ぶその上に、お父さんお母さん達からつくぐ見直して大きくなつたと喜ばれるにちがひありません。十三になつた坊ちゃん孃ちゃん、今年はしつかり勉強しませうね、そして元氣に遊びませうね。家庭の喜びが正月の明るい灯を通して流れる時この次ぎの辰の年を迎へた時の坊ちゃん孃ちゃんの姿が想はれてならない。道で聞いた十三になつた坊ちゃん孃ちゃんたちには左の樣な人々があります。

李漢玉孃　本府學務局長李彰鎬氏令孃で目下京城第一高女の第一學年に在學中で作文と國語がお上手といふことです、讀書が一番樂しみだと

古宇田忠君　古宇田商銀專務の令息で日の出小學校在學中

德積重忠君　本府會計課長德積太郎氏の令息

當り年の……李漢玉孃

細田鳳一君　細田憲兵隊長の令息で日の出小學校に在學中

小林祐二君　京城帝國大學教授理學博士小林晴次郎氏の令息で日の出小學校の秀才です

淺利朗君　警務局長淺利三郎氏令息

池田健君　池田殖產局長令息

松岡洋子孃　松岡本社長令孃で南大門小學校に在學中、ピアノがお上手です

澤永朝子孃　澤永遞信局海事課長の令孃で日の出小學校に在學中

鈴木賢君　鈴木京城醫院長の令息、日の出小學校在學中です

水口英隆君　水口專賣局長の令息、京城師範附屬小學校に在學中

林新太郎君　鐵道局經理課長林茂樹氏令息、京城師範附屬單級小學校に在學中

赤木美代子孃　京城師範學校長赤木萬二郎氏令孃

加藤サカヘ孃　加藤京城中學校々長の令孃

藤井正孃　醫學博士藤井醫院長藤井寛氏令息目下日の出小學校に在學中

新年文藝　童謠　本社編輯局選

一等

はへ　京城東大門小學校二年生　石井高德

おまどのはへが
うごかない
よわつてるんだな

二等

お月さん　忠北永同小學校四年生　本多良一

はんぶんかけのお月さん
はんぶんかけはどうしたの
だれがきつたか川の中
わたしがひろつてあげませう

三等（二篇）

ハツヒノデ　仁川寺町小學校一年生　磯永秀雄

ホガアカルクナツテキタ
ダンダンアカクナツテキタ
ボツカリマツカナモノガデタ
ダンダンマルクナツテキタ
マツカニマツカニマンマルク
海カラウマレタオヒイサマ
海カラウマレタオヒイサマ

灯取虫　平南江東小學校五年生　平田爾子

ぶんぶん灯を取るかなぶんぶ
おうちのあかりは電氣だよ
何ぼん來てもとれはせぬ
ぶんぶん灯を取るかなぶんぶ

佳作

星　黃海道汗浦小學校三年生　日置ヌガ子

きらきらひかるお星樣
どこどこ見てるのお星樣
わたしがあなたを見てるのも
星さんくく見えますか

（以下次號）

謹賀新年

慶尙北道　漆谷郡廳員　漆谷郡產業團體職員一同

蔚山郡廳

慶尙南道　蔚山金融組合

慶南蔚山　蔚山自動車組合

株式會社　釜山商業銀行　蔚山支店

蔚山本府　電氣會社

蔚山本府　麻雀倶樂部

蔚山郡蔚山面校洞　小島孝

賀正

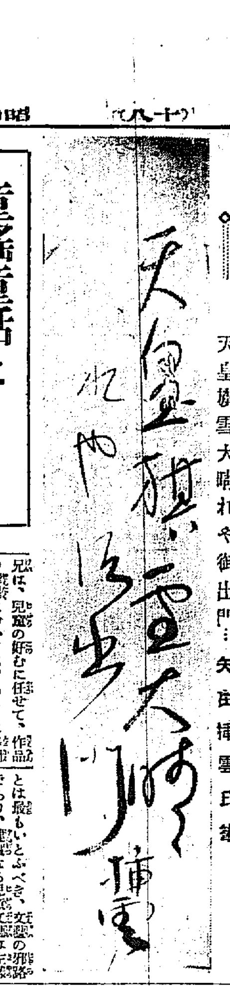
羽田調帶株式會社總代理店
蒲田商店
蒲田

本店　東京市山下町二十三番地
大阪出張所　大阪市江戸堀南通四丁目
門司出張所　門司市內濱町二丁目
札幌出張所　札幌市北一條西三丁目
名古屋出張所　名古屋市中區新榮町二丁目
大連出張所　大連市監部通り二丁目
京城出張所　京城府南大門通り五丁目
大牟田出張所　大牟田市有明町

保險は文明の尺度
個人的には轉ばぬ先の杖　國家的には自治の礎
東京丸の內
常盤生命保險株式會社
社長　大谷嘉兵衞
專務取締役　關本英作
常務取締役　吉田榮右
支店及出張所　東京、大阪、名古屋、京都、神戸、松江、岡山、廣島、高知、福岡、鹿兒島、東北、金澤、仙臺、秋田、新潟、札幌、（京城）
代理店　[illegible]

銀行集會所倶樂部會社團
謹賀新年
東洋拓殖株式會社
京城電氣株式會社
三井物產株式會社京城支店
朝鮮鐵道株式會社
朝鮮郵船株式會社
金剛山電氣鐵道株式會社
京城株式現物取引市場
朝鮮火災海上保險株式會社
不二興業株式會社
朝鮮土地改良株式會社

大正生命保險株式會社
日本教育生命保險株式會社
新日本火災海上保險株式會社
一、生存分配金附、確定配當附、配當累加金附、（一名三倍保險）の保險あり
二、教育、結婚資金保險は診査を要せず出生時より契約す
三、一般火災保險何れも簡便取扱
本社　東京市麴町區有樂町二丁目
社長　伯爵　柳原義光
專務取締役　金光庸夫



天皇旗雲大晴れや御出門……矢田挿雲氏筆

童謠童話と兒童教育

野口雨情

◇……兒童文藝とは何ぞ

童謠と童話は、姉妹文藝であつて、どちらも兒童文藝である。兒童文藝といふことは、いはゆる一般の文藝に對する區別上の名稱ではあるが、その本質の上において相異つてゐるのである。まづ大體において如何なる點が異つてゐるかといへば、いはゆる一般の文藝の多くは生活の苦惱とか、成人の世界に存在する事件を主材として取扱はれたものが普通なのであるが、兒童文藝には、さうした生活上の苦惱だとか異性間にまつはる戀愛だとか、兒童の世界に關係の遠い事柄に材題をとることが歡迎されてゐないのである。もし、少年小説とか、少女小説とか、少女詩とか、少年詩とか銘を打つた作品や、少年少女作品などの中に、たまたま、さうした傾向の作品があつたとしても、それは兒童文藝として取扱ふことの出來ない兒童文藝以外の作品であつて、それが爲に、兒童文藝が世間から誤解をされるやうなことがあつては、兒童文藝の爲に遺憾にたへないのである。

◇……童謠と童話の愛好

童謠と童話は姉妹文藝であるから、いづれを取りて、いづれをすてるといふことは出來ない。作者においても童謠に才能のある作者もあれば、童話に才能のある作者もある。童謠と童話とは姉妹文藝に相違ないが、童謠に才能のある作者が必ずしも童話の作者として才能があるとはいへないまた、それと同じやうに、童話に才能のある作者であるとはいへないのである。作者においてもさうである以上、同じ兒童間にも童謠の愛好者これまた童話の愛好者であるとは限らず、童話の愛好者必ずしも童謠の愛好者とは限らぬのである。要するに童謠を好むものもあれば童話を好むものもあるのである。童謠を好まぬ童話も好まぬといふものがあつたならば、それは童謠を好まぬのではなく童謠を知らない兒童である。童話を好まぬのではなく童話を知らないのである。知らざるがゆゑに好むことが出來ないのである。

◇……兒童文藝の選擇

童謠童話が、兒童文藝である以上、兒童教育上に有益なことはいふまでもないことであるが指導者なり、父兄なりが、その選擇を誤りて兒童文藝ならざる類似の作品を與へたとしたならば、その作品の影響を受けて、兒童の性情に弊害をおよぼすことは勿論である。最も注意すべきは兒童に與ふる作品の選擇であるが、世の多くの父兄は、兒童の好むに任せて、作品の選擇については、あまりに無關心であり、指導者も、一部研究家をのぞくのほかは、その選擇について、あまりに無智であるといはねばならぬ。兒童文藝が、往々、識者間に危險がられて、一時排斥されたのも、罪は父兄にもあり、指導者にもあつたのである。純良な多くの兒童文藝の作者は、寧ろその責めは負ふべき限りではないのである。

◇……作品の選擇を要す

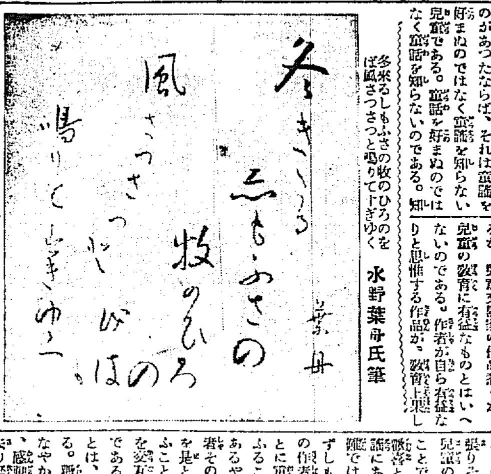
純良なる幾多の兒童文藝家はあるが、兒童文藝家の作品悉くが、兒童の教育に有益なものとはいへないのである。作者が自ら有益なりと思惟する作品が、教育上果して有益であるか、どうか、疑はざるを得ないものが應々ある。要は父兄に兒童文藝の作品に對する選擇眼を望むと同時に、指導者にも鑑賞眼を望むのである。徒に甲を賞與、徒らに乙を賞與することのおろかさを愼へて貰ひたいのである。猥褻、滑稽、奇怪なる作品をよきもののゝ如く考へたり、甚だしきは安想的のものをよき作品と思つたりしやれが兒童文藝である如く思つてゐる傾きさへある。かやうなことは最もいとふべき、文藝の邪路であり、健實なる兒童文藝は左樣なものではないのである。

◇……自然の感動歡喜

單に美を傳ふることが、兒童文藝の教育上の目的ではない。兒童文藝の目的は、兒童に歡喜と感動とを傳ふることにある。そして、それが自然の歡喜であり、自然の感動でなくてはならない。不自然の歡喜や不自然の感動であつたならば、教育上かへつて有害である。不自然の歡喜とは、テクニックによつて無理に兒童の歡心を求めることにある、不自然の感動も、矢張りそれと同じやうに、こと更に兒童の感動を覓はんとする手段のことである。一つの作品によつて歡喜と感動とを傳ふることは、童謠にありては短き歌詞において至難ではあるが、童話においては必ずしも至難ではない。しかし、その作者によつて、歡喜を傳ふることに重きをおく傾向と、感動を傳ふることに重きをおく傾向と二樣あるやうに思はれるがこれは、作者その人の主觀であつて、いづれを是とし、いづれを非とするといふことは出來ない。さうした作品を交互に與ふることが望ましいのである、その一方にのみ偏することは、兒童文藝の教育上不可である。歡喜によつて兒童の心は、はなやかに伸びてゆくでもあらうが、感動によつて兒童の心は浮薄を去り緊張されてもゆくのである。この二つは教育上大切なことなのである。情操教育といふことも全くその目的はこゝにあるのである。

◇……父兄指導者に望む

兒童文藝は、肢術的な作品ではないのである。素朴な眞面目な作品であるべきはずである。なぜなれば、童心より生れた作品であつて兒童文藝であるからである。この點について父兄に、指導者に最も留意されんことを切望する次第である。（完）



冬來るしもふさの牧のひろのをば風さつさつと鳴りて行きゆく　水野葉舟氏筆

なげられてお角力がへらと笑ひけり……稲崎小雷氏筆

新年文藝　川柳

題『玉』　井上劍花坊先生選

天（一等）

遠く飛ぶ風船玉に陽が落ちる　京城櫻井町　赤木紅

評　投句の全部を拜見して感じたことは、諸君が既の新興川柳へ手を染めようと試みられないことです。諸君にはいづれも其力量はあるのです、實の持腐れです。そこで其時代の程度で僕をしました。ひとりこの句にたゞ夕陽の前にオモチヤの赤い風船の飛ぶ張出へ、一つの見方をして居られるのです、たゞありのまゝのスケッチではありません。

地（二等）

しやぼん玉子供の口をひよいと飛ぶ　京城霞町　秋友康子

評　こんなのが地だか、と僻どつてはいけません、玉が『子供の口をの』『を』にいはれぬ面白味があります、子供が吹いて玉が飛んだでは平凡です、子供の口とは無關係のやうで突然『ひよい』と飛ぶから面白いのです、古川柳の趣味をスツカリ體得した句だと見ませう。」

人（三等）

勾玉に土の中なる二千年　京城本町　龍雲生

評　何の爲めに勾玉が土の中に埋めて居たらなどといふことは問題ではありません、たゞさういふ事實を想像すれば可いのです『勾玉の土に埋まる二千年』などとしては容觀です、それを『土の中なる』と勾玉その物から見たのがこの句の命です

軸

玉扁はみんな驕りの文字にして　劍花坊

五客

○京城大島町　勧田寶月
蒔のつくダイヤをしまふ大金庫
評　大きい

○府内櫻井町　板野すみれ
手のひらへ玉は五色の線で落ち
評　きれいです

○京城元町　堀田白聲
先生もお手玉に來る暇かさ
評　師弟の情もあたゝかいです

○東京　高木句人
盗む手を照らす夜光の玉なりき
評　これは怖いでせう

○群山府　八坂百太郎
妾宅の役人おそく玉子酒
評　嬉い

佳句

見向かれぬ玉の掬、歳の逝く　苓草
玉と玉カチッで五個なり　雪心
親雛[illegible]ところ　裏扇子
玉杯を受けて[illegible]　錦魚
石像玉界に[illegible]笑ひ　天香
掌中の玉軸[illegible]　仰天子
玉の輿[illegible]と姉へ云ひ　好月
玉砕と[illegible]に泣く城の月　夏樹
一ツ[illegible]南京玉の面白さ　十の字
玉手[illegible]を欲る手[illegible]　謙雄
コロコロと[illegible]四十年　赤
親玉へ拍手[illegible]大歌舞伎　注迎太
大廊下[illegible]玉の栃が飛び　不老
玉樓[illegible]入小屋　彼半
誇らしい女に[illegible]玉　岳堂

海坊主お百

（五十）　丘涙之助　石井滴水畫

重『何、かう姐さん、さういふ事にお願ひ申します』百『澤山の金をあげたいと思ふのだけれど、生憎懐中工合が悪いからここにお金が十五兩ある。これだけありや身延へ行けるだらう、この十五兩で我慢をしてお呉れ』小さんが取出して重吉に渡す重『有難うございます、これだけあれば十分で、しかし姐さん、とても今晩は眠る事が出來ませんから、私は酒を飲みながら夜明かしをいたします、何うかお前さんも私に交際つて、夜明かしをしてお呉んなさい』百『おやおや怖らしく氣が弱くなつたものだね、何うも仕方がない、それぢやア妾も夜明かしをしてあげやう』到頭その晩はまんじりともしませんで、さて夜が明けると秩父小僧の重吉身ごしらへをやり、として重『姐さんどうも、いろいろお世話になりました。これから身延へ參詣をして、坊主になつても親分の御恩を忘れるやうなわたしぢやございません、吉原で殺した女房や子供、又峰吉の菩提をとむらひながら、坊主になつて一生を暮したら、峰吉も化けて出るやうな事はございますまい、ぢやア姐さん御機嫌よろしう』とお百に別れをつげて欅下の家を出る、年中旅から旅をあるいて居た男だから道中はもう馴れきつてをります、腰には短い道中差、振分けの荷物、江戸を離れると旅人も氣が丈夫になつて重『もうもう悪事はしめえ身延へいつて坊主になつて一生眞面目に暮す事としやう』とばかりに道を急ぎながら、やがて來たのが八王子の宿、甲州街道では一番繁華な處まだあかりがついた頃に、鶴屋といふ旅籠へワラヂを脱ぎました重『はい、御免なさい』女『おや、おいでなさいまし』重『一人だが、どうかお願ひ申します』女『有難う存じます、たゞ今お洗足を差し上げます』これから洗足の水で足を濯め、女中が荷物を持つて奥の階へ案内をした、重吉はじろじろ見廻して居たが重『何だかさびしい座敷だなア、姐さん、もつとにぎやかな座敷へ案内をして貰ひたい』女『生憎今晩はお客様が立込みまして、にぎやかなお座敷はございません』重『馬鹿に陰氣い家だ、弱つたなア、何とか都合はつかないかい』女『あのね此お座敷はお靜かでございます』重『その靜かなてえ奴が禁物なんだ、この隣は何だい』女『女中部屋でございます』重『さうか……、まア仕方がない、この部屋で我慢をしやう、時に聞いて置くが、便所はどこだね』女『はい、この突當りでございます』重『さうか、さびしいかい』女『にぎやかな便所なんてございません』重『さうか、困つたなア。これは少しばかりだがお茶代だ、これはお前達に……』祝儀を出してやる。どこからともなく聞こえる木魚の音ポクポクポク重『おやおや姐さん、あれは何だい』女『あれでございますか、あの、お寺樣が夜の勤めをして居るのでございます』重『いくら寺だつて夜になるまで木魚を叩かなくてもよからうに！』女『イエ、今日が新佛がございましてね、夜通しお勤めをしなけりゃなりませんので……その窓をおあけになりますと卵塔婆が見えます』重『アゝ嫌だ嫌だ、何だつてこんな處へ案内をしやがつたんだらう。もつと賑やかな座敷へ……』

女『誠にお氣の毒でございますが、もうすつかり塞がつて仕舞ひまして、この部屋よりほかにございません、どうぞこれで我慢を願ひたう存じます』重『どうも仕方がない、それぢやア姐さん風呂には入らないから、すぐ酒に肴を持つて來てくれ、いやに今夜は氣味の悪い晩だ』やがて酒と肴を運んで來る。重吉がガブガブ飲みながら重『アゝまづこれで安心といふものだ、小さんの宅に居るのと違つて、この八王子まで來て仕舞へば、誰も峰吉なんてそこは盲目、まさかこゝまでくる氣遣ひはあるまい』間もなくすると女中が入つて來て女『あの旦那樣、誠に恐れ入りますが、お合宿を願ひたいものでございます』重『合宿……何だい相手は』女『あの、お武家樣でございます』重『結構だ、それは有難い』女『旦那樣どうぞこちらへお入りを願ひます』武『許せよ』一人の武士が入つて來た重『へえ旦那樣どうぞこちらへ……』武『おゝ』重『おゝ、こりや先刻日野の河原で足をお痛めになつたお武家樣ぢやございませんか』武『おゝその時は藥を恵まれた町人か』重『如何で御座います、お足は……』武『イヤお蔭を以て痛み入り、大いに樂になつた忝けない』

南原警察署 署長 永石尚卓 署員一同

全羅北道立南原醫院 親和會

南原學校組合 管理者 中野武一

黄海道知事 今村武志

平安南道江東郡廳 職員一同

平南德川蠶業組合 鎌田正夫

平南舍人場驛長

平南成川郡 森林主事 大堀常七

謹賀新年

平安南道成川法院出張所 中山輝雄

平安南道江東郡邑内 金商和

海州齒科院 電二二番

製陶研究所 記念日盃調製 熊谷

白米販賣 中原精米所 電三一四番

和洋雜貨 吳服類 田邊眞一 電二七番

海州北旭町 隅清太郎 電二六〇番

苗種 富士農場

海州北旭町 紺田果樹園

海州北本町 田中疊店

海州西門内里（電二七番） 朝日醫院 付屬眼耳鼻咽喉科專門療院 醫師 裵東斗

井川洋服店 電二五六番

檜崎金物店 電二二三番

筑紫屋 秋正優 電二四九番

海州南本町 辯護士 金膺植 電一六三番

海州本町通 賞美堂製菓所 賞美堂洋食料品部 電二五四番

福の家 内 藝妓 力松、茶良子、辰奴、一寸、富貞、小扇、はま子、松丸、仲居、むら、菊枝、

海州南本町郵便局前 清酒正宗 醸造元 竹田屋酒店 電二三九番

土木建築 請負業 貴志新五郎 電二七五番

黄海道農會 役職員一同

辯護士 金永烈 電二二七番

朝鮮殖産銀行海州支店 永松統治

黄海道種苗所 職員一同

海州公立普通學校 同公立工業補習學校 職員一同

海州木材商 旨森格夫 電三三八番

笹屋旅館 電一三番

海州郡廳 佐藤秀助外 職員一同

織居自動車部 電一三一番 電五七番

海州南本町 樋口金物店 電二六一番

岡田自動車部 電一七二番

海州北本町 隅利吉 電三四番

内國通運株式會社 海州出張所

海州公立高等普通學校 職員一同

海州郵便局 職員一同

海州電氣株式會社 電一六六番

延白自動車部 電二〇一番

大日本製糖株式會社 朝鮮支店

陽德郡廳　陽德警察署　陽德煙草耕作組合　九龍郵便所　九龍金融組合　平安南道地方費苗圃林陽德事業所　平壤地方法院陽德出張所　九龍森林保護區
九龍公立普通學校　陽德公立尋常小學校　九龍面事務所　陽德郡農會　陽德郡森林組合　陽德麻織物組合　陽德酒造業組合
各職員一同

小野田セメント製造株式會社 平壤支店

山十製絲株式會社 平壤製糸所

平壤水曜會

平安南道廳 食堂會員一同

平安南道江東郡邑内 官民一同

朝鮮電氣興業株式會社

劇壇一年

歌舞伎全盛 新劇の惱み 劍劇はどう移る

邦枝完二

改元の鋭氣

昭和第一年における劇壇は、それが諒闇中であつただけに、おもだつたはなくしさはなかつたが、それでもさすがに一新した改元新鋭の氣は、力強く新劇壇の上に露を施れてゐた。

譬へば谷川のせゝらぎのやうに、數限りない岩や小石に阻まれながらも、震災前數年間の劇壇は、如何にもして大河に出ねばやまぬだけの勢ひがあつた。が、震災直後における劇界の大勢は、全く見る影もないまでに堕落し盡くして、藝術的成功などは論ずるものもなく、興行者も俳優も金一致、一時に新要のみに汲々たる有樣を見せてゐたものだ。心ある劇評家をして『劇壇は明かに二十年余りの退歩を見た』と叫ばしめたのも、あながち無理ではなかつた。

それが漸く一二年このかた、どうやら常態に復するやうになつた。興行者は金がまうかりさへすれば不足のあらうはずはないが、俳優と觀客とが、それだけではどうにも滿足出來なくなつた。本當の芝居が見たい。そして徒らに殺伐な劍劇は次第にあかれて、一樣に本道へ、本道へと引返して來たのだつた。——一九二七年、これが本道へ立戻つてからの、出發の第一歩であつた。

劍劇の現狀

一九二七年、即ち昭和二年度において、わが劇壇は如何なる仕事をしたか。そして第三年目なる昭和三年を迎へて、如何によき花を咲かせ、よき實を結ばうとするか。これこそ相當興味ある問題でなければならない。

劍を拔いて人を傷つけ、劍を揮いて人を殺す。昔からある歌舞伎劇の『立廻り』は、いふまでもなく此であつた。が、そこには一つの樣式的な『型』があり『舞踊』がある。子供達が竹光を振廻して切り合ふのとは、おのづからちがつたものがあつた。しかも震災後生れた『劍劇』と稱するものには、何等の『型』も『舞踊』もないので、少しの要るところもない亂暴なものも少くはなかつた。『あの役者は今のきり合ひで、幾本刀を折つた』とか『あの役者は梯子段からまつさかさに落ちて、昨日まで病院へ入つてゐた』とか、そんなことを聞かされて、俳優達は名譽の如く光榮の如く心得てゐたものだつた『あいつの立廻りは眞劍だから凄い』

昨日まで魚屋の小僧をしてゐた男でも、醫者の書生をしてゐた男でも、そんな事には一向お構ひなく、刀を持つて怪我をすることさへ苦にしなかつたなら直に俳優として舞臺に立てたのだから面白い。

しかし、人々が震災の興奮狀態から次第にさめると同時に、からした俳優のあかれ出したのは當然であらう。利巧者の澤正は、劍劇の冠細の如くいけれてゐるにも拘らず、いつの間にやらそれを捨て劍劇の本道へと立返つてしまつた。

澤正の精進

この年、新國劇は、恰も創立十周年にあたつてゐた。もはや新國劇の時代ではないことを知つた主將澤田は、この十周年を好機として己が進むべき道を見出さうと努めた。彼は『桃中軒雲右衛門』をやり『立春大吉』をやり『是非』を演じた。そしてこの新作のいづれにも、彼一流の演出を以て成功した。しかも常に澤正の臨役を顧める中井の藝は益々鍛錬し、能く輔佐の任を全うするやうになつた。歌舞伎俳優からは、常に邪道視されつゝある新國劇一派は、回を重ねる毎に好評であるのが、如何なる譯であらうか。單に觀客の鑑賞眼の低下とばかりはいへぬと思ふ。今後刮目して待つべきであらう。

新劇協會

同じ新作物によつて立つた畑中蓼坡の新劇協會は、文藝春秋社の後援を得て、帝國ホテルに數度の公演會を開いてゐる。が、かつて正宗白鳥の『人生の幸福』、三月村山知義の『勇ましき主婦』が好評であつた他は、殆ど失敗に歸してしまつた。なかんづく白鳥の『光秀と紹巴』の如きは、鎧を着て腰をまげてゐる如き珍形の俳優が現れるに至つて、更に物笑ひの種をまいたりした。

この俳優は、皆それ〴〵にかなりの自信を持つてゐるらしい。素より自信あるはなきに勝ること數段である。が、時におのれの無能を顧みず、舞臺の俳優は、その熱心において決して人後に落ちる者ではないが、惜いかな、知らず識らずの道を心に立てるだけの度量は持合せてゐない。彼等が憧物を上演するといふのはそれだけでもすでに無理な仕事といはねばならないが、職業として、これを得ざる場合は、殺然として劇場に赴くことだ。新劇協會である恨がゆゑに、太刀のはき方や鎧のつけ方を知らないともよいといふ譯はないのである。まじめな劇團だけに、これらの點が如何にもおしいと思ふ。

築地小劇場

翻譯物から創作物の研究に移り更に創作戯曲の兩者を折衷して、再び翻譯物に返つた築地小劇場は、惡まれざる經營難に、常に苦闘を續けてゐるが、その苦心經營の中にも、よく自己の本分を辨まへて、よき努力を繰返して來た。そして藝術におけるおの處碑を離れて、その幾多藝術は、チエホフの『櫻の園』と、ゴリキーの『夜の宿』とであつたが、共に露西亞の魂をとらへ得て、見事な成功をもちろことが出來た。

創作においては、昨年の坪内逍遙士の『役の行者』を皮切りに藤森成吉の二作、今年は武者小路實篤が推賞した『愛慾』『三和尚』など、それ〴〵によい出來を見せた。山本、友田、汐見、鉄棒等の演技は劇界の一異彩であつた。

聞く處によれば、最近この劇場は經營難のために、本舞臺を失はうとしてゐるとか。わが劇壇の爲に鐵綿としてのこれを失ふことは遺憾に堪へない。殊に藝術に理解のある、よき資本家の出現を望む者は、獨私ばかりではあるまい。

新派の凋落

さて、新劇の人々はおよそ右樣な仕事をしてゐたが、新派劇はどうであつたか。劇界に一新派不振の聲を聞くや、實に年久しいものであつた。これはいふまでもなく、いはゆる新派の三頭目と稱する伊井、河合、喜多村の三名が、各自お山の大將で俺の天下である如く若へて、何等研究的の態度に出づることなく、漫然とおれが藝術に眠りふけつて居た結果に外ならない。『今の見物にやア解らねえよ』——彼等はすべてを、この簡單な言葉で片付けるに躊躇しなかつた。しかし作者難でもない。その貧物ではなくて彼等自身であつた。花は何時までも美しく、葉は何時までも青い物であると信じてゐた彼等は、己が樂の散んだことも、己が年の老いたことも、全く忘れ果てゐたのだつた。

おそらく多少眼覺めて來たのであらう。假說八月の南座に新派が撥揚げにおいて、この新派の三頭目は合同した。出し物は谷崎潤一郎の『お國と五平』正宗白鳥の『隣家の夫婦』伊原青々園の『寶を探す男』の一種。久し振の新派大合同といふ名の下に、入りは相當にあつた。が、芝居としては少しの進歩もなく、寧ろ氣の毒なくらゐだつた。

その後、新派は東京大阪兩市において、大阪朝日に連載された『お國物語り』を上演して、好評を博した。

歌舞伎全盛

この一年間において、歌舞伎俳優の老優、松之助をはじめ、羽左衛門、菊五郎、猿之助、吉右衛門、梅幸、歌右衛門、延壽、宗十郎、鴈治郎等は何うであつたか。モダンガールを生み、モダンボーイをつくり、日に月に西洋文化の模倣にのみ汲々たる世相は反對に新劇よりも新派よりも劍劇よりも歌舞伎劇を求め、この歌舞伎劇が全盛を極めてゐるといふことは、實際一種の皮肉であると思ふ。

帝劇が七圓の入場料を取れば、歌舞伎座は八圓の切符を賣り、市村座が六圓五十錢の座席を賣る。それでゐて客は常に場内に溢れ、歸ることが出來ぬ者は、少くも三日以前に申込まねばならぬといふ盛況である。歌舞伎劇を決して樂に見ることが出來ないのは、まことに不可解であるかも知れない。が、人達に取つては、この盛況は一種の娯樂として、一般に味はふ見物の物として、新劇や新派劇には求め得られない、古い所の美しさがあるといふことであらう。

一年の收穫

ところで、その歌舞伎俳優達は、この一年間において如何な活躍をしたかといふに、まづ第一に指を屈さなければならないのは、左團次である。彼はこの一年において南北物と、十一の新作物とを演じ、その都度好評を博してきた。殊に『杜若艶色紫』『野晒悟助』における顔哲は、南北物を理解する點において彼の右に出づる俳優はあるまいとさへいはれる程——南北の持ち味を顯へて遺憾なきものだつた。その他『鞘當』『三役』における鳶の者、『鍵屋の辻』における東郷大將、『江戸城明け渡し』における勝安房等の難役を、易々として片づけた手際に見せて好評であつた。

は、破眼の活躍をした者の一人である。彼は昨年『研辰の討たれ』なる一篇を上演して以來『惡太郎』『研辰』と續々に新作を發揚した外、新作物において長所を發揮した外、自からの研究として、あらゆる物にその個中の機會として、よくおもしろく今後の發展を期すべき者であります。おそらく今後昭和劇壇の中堅をなす者であります。羽左衛門は、そのちつぽう式において、觀客には迎へられないが、しかも眞に歌舞伎劇の味を持つ俳優として、この年も多くの觀客を喜ばせて來た。殊に藝風において、他に求め得らるべくもない。

吉右衛門は『天下茶屋』『蘇我』等において氣を吐いたが、これはたゞ彼の藝のうまさを細かに證明するに止まつて、藝の上には出來なかつた。以上の外昭和二年の歌舞伎において特記すべきは、中車の光秀に羽左衛門、左團次、梅幸、澤之助、宗十郎、訥子等がつきあつて上演した『太功記』である。まづその點の珍しさにおいてこの狂言は容易に見る機會はあるまいと思はれた。これと共に、九月永井荷風氏の舞踊劇『浮世』、鈴木泉三郎氏の劇『機會』の上演されたことも特筆に價する。梅幸の米八、宗十郎の仇吉共に良い演技の誉をしのばせて好評であつた。

戯曲家一束

おはりに、二度に一瞥いたした戯曲家は、岡本綺堂、小山内薫、長谷川伸等であるが、その他眞山青果、小山内薫など、いづれも芝居の作家として多くの仕事を遺した。それにしても氣みなのは、昭和三年度の劇壇が、如何に發展するか、蛇が出るか、期して待つべきであらう。

辰年生れ五名優

市川左團次

當代俳優としての名門、五代目市川左團次丈は、本名髙橋榮次郎、俳名松莚、家號高島屋といふ、俳優としての左團次の名は、全國的に知られて居る。父は先代の左團次、丈は十九歳の時ぼたんと名乘て新富座に初舞臺を勤めた。それから今日まで四十有餘年、劇壇の人として血の出るやうな精勵を續けて來た、丈は正に辰年生れの當年とつて四十九歳である。まだ壯年と言つた頃、それは今より二十年ほど前は大根とまで悪評を浴びせられたのであつた。先代左團次の子と言ふので僅かに光つて居たが、高島屋の得は余く彼に失望して居たものであつた。それが一とたび洋行して來てから別人のやうに手腕を發揮した。文士小山内薫氏と共に自由劇場を設置し、新しい創作劇や、飜譯劇に手を染め、次で椅宗ものに手を着けて成功し、嘗ては大向ふから大根呼ばはりをされたのが、今や大統領よばゝりをされるやうになつた。そして名實の伴つた立派な俳優となつた。俳優中の新人、市川左團次丈は斯くて成功を示して居る。當り役は丸橋忠彌、修善寺物語の夜叉王、毛拔の彈正、鳥邊山の半九郎等

澤田正二郎

澤田正二郎は本名でもあり藝名である。明治二十五年の辰年生れで、明けて三十七歳の働き盛りである。大向ふからの呼聲は澤正、新國劇の澤正は今や堤を切つた水のやうな恐ろしい人氣を背負うて劇界の耳聽をあつめてゐる。滋賀縣大津の生れである彼の自叙傳によると、彼は少年の時から家庭的に惠まれず『お前は支那服を着て三井寺の石段の下に捨てられてゐた支那人の兒だ』と云ひはやされ、其負けず魂に反逆的な氣持を植えつけられたといつてゐる。芝居が好きで、早稲田大學の文科へ入つてからも專念に劇の方面を研究した。そして或年の文科の春季大會の餘興に坪内博士の『桐一葉』を上演した時は、一獎の前と石川伊豆守の二役早替りを振られ、それが非常な上出來で先輩から『君は役者になつた方がいゝよ』とすゝめられた。澤田の心は此時から『劇へ、劇へ』と堅くきめられた。文藝協會員となり、明治四十四年帝劇で『ヴエニスの商人』が公演されたとき、法廷の傍持となつたのが初舞臺。後に新國劇を起して其大統領となり、遂に其反逆心をして成功せしめた。

阪東秀調

秀調丈は一時新派に加入したことがある。それだけ彼の總通の利く頭腦と手腕は來密からぼれてゐる。今のところ女形では歌右衛門、梅幸に次での俳優である。明治十三年の辰年生れで明けて四十八歳である。卅九年九代目團十郎の門に入り市川升二郎と名乘り、歌舞伎に初舞臺、卅一年故秀調の娘にしほさんと一緒になつて阪東壽太郎と改名し、三十四年三代目秀調を襲名した。本名は金子壽太郎、東京三好俳優、家號は大和屋。女形だけに表面は虫も殺さないやさしみを見せてゐるが、なか〳〵の勝氣な質で、先年歌舞伎座を去つて市村座へ出るやうになつたのも役のつかない實例の爆發であつた。何をやらせても器用で政岡でも藤浪でも阿古屋でも手に入つたものである。這に若い時分から隨分舞臺苦勞をしただけにうまいものでその持ち今のところこの人でなくては、といふ十八番を持たない。しかし、これが秀調丈の前途のあるところで、そこが何どこのまで誰かも築地の注目を惹いてゐる。菊五郎にとつてなくてならない女形である

市村家橘

梨園の名門、押しも押されもせぬ市村家の系統である家橘は、明治三十七年の二月東京は京橋區築地に呱々の聲を揚げた、即ち辰年生れで、明けて二十五歳の春を迎へたのである。父は誰あらう現今名優の巨頭として知らるゝ羽左衛門、丈は本名を勇と云ひ、初め藝名を竹松と稱した。明治四十三年の五月歌舞伎座に初舞臺を勤め、十六夜の求女、越後獅子、芝盛奴などは其の得意中の役なるもの、尚其他の舞踊物には妙からぬ得意の役がある。家橘の名は父羽左衛門が嘗て名乘りたる市村家の傳統的の藝名にて、屋號は云ふまでもなく橘屋と呼ばれて居る、其の定紋は橘の根紋である、何處までも、イヤ味の無い藝風は多くの好劇家から前途を嘱望されて居る。十五代目家橘の名跡は劇園界に晴々として傳へらるゝのは蓋し遠くはあるまいと稱られて居る。

中村福之亟

丈は明治三十七年四月の生れで當年二十五歳、本名は曾木圓次良號を成駒屋と稱す、初名を『中村おもちや』と稱したが後今の福之亟と改めたのである。其の得意とするところは舞踊に在りて成駒屋系統中相當の好評を博して居る（完）

▲寫眞は上左澤田正二郎▲同右阪東秀調▲中央市川左團次▲下右中村福之亟▲同右市村家橘

謹賀新年

各種印刷 封筒製造 和洋紙 文房具一式 帳簿製本 官衙御用達 教科書指定販賣 東華印刷所 朝鮮平南成川

平壤信託株式會社

平南中和郵便所長 金子鶴太

平南中和公立普通學校職員一同

平南德川 德興釀造場 主 鄭昌鉉

平南順川郵便所 田村敬一

平南德川郵便所 小野崎通雄

平南德川邑內 徐峻錫

平南德川邑內 野田三郎

平南德川驛屯耕作組合 理事 渡會義助

平南孟山邑內 信濃屋旅館 大同自轉車代理店

平南陽德 時弘德右衛門

平南成川 渡邊旅館

平南成川邑內 李泰奎

平南成川郵便所 山下金次郎

平安南道江東郡邑內 平山旅館

日本石油株式會社代理店 高橋礦油 平壤出張所

平壤無盡株式會社

平壤 丸山煉炭製造所

平壤 松岡酒場

平壤 松尾六郎

平壤 宮川商店

平南中和 金融組合

平南勝湖里 久保瀧次

平南勝湖里 今泉運送店 西鮮自動車商會

平南德川面事務所 安仁錫

平南德川警察署員一同

平南德川公立普通學校 後藤信夫 德川公立小學校 佐藤治

平南德川 公信印刷所

平南舍人郵便所 新田鈍三輔

平南陽德 溫泉九龍閣

平南成川面草耕作組合 前田宇一郎

平壤魚市場

朝鮮飲料合資會社

安川松本商店平壤出張所

平壤醫師會

國際運輸株式會社平壤支店 支店長 房宗鉱五郎

平南道 大同郡廳職員一同

平壤警察署員一同

平壤郵便局職員一同

平壤刑務所職員一同

平壤公立中等學校長一同

平壤府 龜山猛治 豐田長智 長尾 戸谷藤一仟

平南 中和郡廳職員一同

平安南道 德川郡廳 德川農會 德川森林組合

平南寧遠 南川俱樂部

平安南道 順川郡廳 順川郡農會 順川森林組合

平南順川 志岐土木組出張所

平南成川金融組合 大西捨松

平安南道 成川郡廳職員一同 成川郡農會職員一同 成川郡森林組合職員一同

平南成川警察署 署員一同

平壤局成川出張所 近藤修一

平南成川邑內 學校職員一同

銘酒金千代釀造元 齋藤酒造合名會社 平壤府貢金町

內國通運株式會社 平壤支店 支店長 落合信夫

安州無名會

平壤府大和町 片倉殖産株式會社 平壤營業部 鎮南浦府三和町 同鎮南浦出張所 黃海道沙里院 同沙里院出張所 平壤府旭町二六 株式會社平南自動車商會

孔雀 (80)

古川實作 大村安次郎畫

美津子の行方 (7)

それから三日たつて慎一は孔雀をたづねて来た。孔雀は何事もなかつたやうな顔をしてほゝえみながら迎へた。

『この間は失禮しました、僕はついその……』

椅子に腰を降ろしながら慎一は一寸顔を赤らめた。

『何でございましたの？』

孔雀はわざととぼけてきゝ返した。

『僕はあの晩、美津子の家出のためにすつかり氣が顚倒してたものだから自分にも何を仕出來したかちつとも分りませんでした。家へ歸つて落ついてから考へて見ると大變なことをしてしまつたことが分つて、早速お詫びに上がらなければならないと思ひながら、どうもその自分にも體裁が悪くて……そんな譯だからどうぞ許して下さい』

そういつて慎一は頭を下げた。

『どんなことかと思つたらあの晩のことなんですか、私あの晩のことなんか何とも思つてやしませんですからお詫なぞいはれると何だか變な氣持ちが致しますわ』

孔雀は滿面に溢れるばかりの微笑をたゝへて白い歯を見せながらいつた。そしてその心の中に『すんでの所でピストルの彈丸が飛ぶところだつた、そしてこの男は今こんなことをいつて來られなかつただらう。生命びろひの命冥加者――』と思ひながら慎一の顔をぢつと眺めた。

そして急に話を他に移した。

『奥さんの消息はお分りになつて？』

『あれからもう四日になりますが死んだとも生きたとも隣眼り消息が分らんのです。それに警察からも何とも通知がありません』

慎一の顔には聴きさうな、それでゐて樂觀してるやうな色がたゞよふて見えた。

『そうでございますか……今頃はどこにどうしていらつしやるでせうね』

孔雀は眉をくもらせながらいつた。

『どうして居ますか……僕の考へでは美津子は多分生きてどこかに隠れてゐるだらうと思ひます。死んだものならもうどこからか何とか通知のあつていゝ時分ですのにそれがない所から察するとたしかに生きてると思はれます』

慎一は美津子が生きて居やうと死んで居やうとどつちだつて構はないといふ風な態度で、傍の[illegible]草をゆる／＼と紙に巻いてゐた。

『そうでせうか？』孔雀は一寸首を傾げて考へて『もしも奥さんが生きていらつしやるとしたら貴方どう思ひになつて？』と、慎一の顔色を窺見した。

『自分から家を出て行つた者がどうにも仕様がないでせう』

そういつて慎一はまき煙草をくわへてマツチで火をつけた。

『それで貴方はちつとも奥さんに未練が残りませんか』

『家出した者は仕様がありません』

『きつとですね？』

『そういはれると何だか貴女が奥さんの居所を御存知のやうですね御存知ならお願ひですから僕に教へて呉れませんか』

『とう／＼白状なさいましたねえそれ御覧なさい、矢張り奥さんに未練がお有りなんですわ』

孔雀は手をうつて笑つた。仕方なく慎一は頭を掻いてみた。

『ですから私いつぞやあなたに御注意申上げたでせう。それにも拘らずちつとも奥さんを愛しておやりにならないからこんなことになるのですわ、ばちが當たつたのですわ』

『貴女、ほんとに御存知ぢやないんですか』

慎一は繰返して訊ねた。

『何で私が知るものですか！』

孔雀はまじめになつていつた。

『誰かほかに男でもあつたのではないでせうか』

『何だかそんな氣がしてならない』

しばら／＼してから慎一は思ひ出したやうにしていつた。

通信教授 バイオリン 尺八 マンドリン及ハーモニカ學習 以上各種樂器 [illegible] 福岡市中島一七 大日本家庭音樂會

新年文藝 情歌 題『羽子板』 編輯局選

一等 龍山鐵道官舎 曲豆子

浪の小袖に羽子板浮かせ春へ流した唄の主

二等 龍山鐵道官舎三ノ一 石田草石

貰ろた羽子板持たせりやころぶ、吾子よ立て／＼こゝまでおいで

三等 府内大島町三十二 大島文子

一イ二ウ三イ四がいつむこ貰らうた、うける羽子板赤てから

秀逸

龍山鐵道官舎 山映 夢人
突いて惜しむか二人の壁に別れしがない羽子の板

東京市日比谷國道館 木 句人
突けばかつきと羽子板受けて返す羽根には謎がある

忠北清州相生町五 大木みどり
様に貰ふた羽子板押繪秋の胡蝶が氣にかゝる

郡山旭町 八坂百太樓
にくや羽子板似顔の瞳、逢ふ夜の首尾をにらんでる

開城 伊森 豐歐
羽子はひら／＼蝶々と舞ふよ羽子をもつ娘を花とはいかが

大邱町三十二ノ十九 大橋小左エ門
羽子に羽子板鐘には撞木ついてつかせて仲のよさ

咸南咸興興里生 眞夏樹
突けぬ羽子板もたせて抱いて主を見送る門の松

新年文藝 一口噺 本社編輯局選

一等 京城南米倉町和樂園内 高田徳太郎

先生『……それで、眺ち龍と虎とが戰へば、どちらが傷を負ひ、どちらが死にます』
生徒『先生ちがひます／＼。どちらかではありません。龍の方が勝ちます』
先生『……どうして？』
生徒『虎は死んで皮を殘します。』

二等 江原道春川面昭文里 木内爲樓

甲『このあひだ、飛行機で警察署長が、玄海灘へ飛びこんださうだ』
乙『犯人が龍宮へでも逃げたのか？』

三等 龍山緑町三ノ五八 藤本忠雄

内坊『オヤ、辰年の年賀狀に鼎龍を加へてなんて、わからない奴だなア』

秀逸

開城 伊森 規矩
甲『龍でも浮は氣するんだネ』
乙『どうして？』
甲『だつて、たつの落し子ッてものがゐるぢやないか』
◇
京城黄金町三ノ三三四 宮崎くに子
甲『龍頭蛇尾といふ語の適切な事例を擧げて見給へ。』
乙『夫婦喧嘩だよ』
甲『なぜ？』
乙『初めは威勢盛だが終りは大抵、有耶無耶ぢやないか』
◇
黄金町三ノ三三四 宮崎 笑坊
甲『昔の人が龍も雲にのらなければ天にのぼれぬといつた』
乙『そりや無理もない、昔は飛行機がなかつたから』
◇
府内本町三ノ二三森川方 竹田 風子
甲『龍宮は本當にあるんだらうか？』
『……』まけず嫌ひ『龍と[illegible]が出來たら判るんだが……』

佳調

全北金堤本町 國宗 鳴芳
受けるつもりのこの羽子板へ何を恨みの風が吹く

平壌府本町六 末松 玄水
初めた初こひ似顔の羽子に唇をつけたか紅のあと

神戸市楠町一の一七六 細船 トシ
羽子の思ひを氣強くはねる板を恨むな實がある

神戸 細船 トシ
昨日は突こうと羽子板抱いて夢まどらかな兒の笑顔

群山 八坂百太樓
床に飾つた大羽子板にそつと囁く戀がある

釜山 ゐさを
贔負役者の羽子板抱いておしやく見知らぬ夢ばなし

京城 あきら
意氣な姿が羽子板店に似顔繪定めの仇ことば

忠北清州 鬪夢
様の似顔の羽子板買うてぱつと浮名の立つ廓

龍山 山映 夢人
和ごむ御空に千代突く羽子の唄が溶けゆく四海波

京城 宮崎くに子
兒の羽子板バットの構へホームランだと打ち返す

演藝案内

喜樂館
新春の元頭に猛然として八名番組 自三十一日至一月三日
○寶冠の士 戰爭 一卷 パテー映畫
○活劇 怪人の嬰怪 一篇二篇四卷 エドナーマーフイー嬢、ロルドミラー氏主演
○日活時代劇 [illegible] 三枝源次郎 [illegible]
○現代劇 赤城の夕映 八卷 主演 南光明、宮川[illegible]、佐藤[illegible]、谷幹一、大倉[illegible]、津守[illegible]、徳川方子
○日活時代劇 一劍横行 七卷 時代劇部作品 監督 中山呑海 主演 阿部[illegible]、尾上[illegible]、中村吉次、淺野雪子助演

大正館
三十日ヨリ特別大興行 新春を飾る絶對無敵の巨彈 パテー映畫
ロイドのコック 全卷 ハロルド・ロイド主演 [illegible]
炎の空 全十一卷 [illegible]

黄金館
新春特別大興行 三十一日より 帝キネ
青春時代 全七卷 [illegible]
黒田騒動 [illegible]

中央館
マキノ [illegible]
トニー大暴れ 全七卷 [illegible]
毒蛇 全十五卷 [illegible]

京龍館
三十日より日活時代劇部作品
熱血兒 全七卷 [illegible]

浪花館
孝行駕 全八卷 [illegible]

合同大一座
正月元日より [illegible]

謹賀新年

江原道寧越郡邑内 朝鮮火災海保險株式會社寧越代理店 **寧越旅館** 福田金之助

毎々御引立に預り深謝仕候尚一層御愛顧希上候 江原道寧越郡邑内 **増田旅館** 増田嘉一郎

江原道寧越郡邑内 今年も御引立を願上げます 土木建築請負 **羽衣旅館** 藤原榮藏

茂山邑内 新聞雜貨販賣並に運送業 鐵道御用達 **金碩來商店** 主 金碩來 電話十三番 振替京城一三七八六番

茂山公立尋常高等小學校長 **中島喜久造**

茂山公立普通學校長 **西山亥太郎**

茂山金融組合 理事 **高橋正**

茂山郡守 **宋仁燮**

平北義州面 **李明煥** **守田徳一**

平北義州本町 御料理 **杉酒家** 電話二十九番

平安北道 義州公立農業學校長 **山西正**

平北義州 [illegible] **池田商行**

義州郵便局長 **大内虎男**

會席御料理 **松華** 京城府榮町一 電話龍山 三八番 九二番

肥料 **青山營業部**

全南殖産株式會社 **宮脇丈八**

帝國炭業株式會社代理店 **西川商會** 營業品目 成興炭 滿洲炭各種 撫順炭 [illegible] 京城府林町一九〇番地 電話本局二四〇四、一〇一五 振替口座京城一〇七八六

本年も相變らず御引立の程御願ひ致します 京城明治町『三越裏』 **京城美粧院** 一月元旦 屋敷コト 柴田ノブ 藤山靜子

延安公立尋常高等小學校 田中錬藏 庄司武雄 山邊ウノ

黄海道延安邑 **延白自動車** 本部 主 金龍濟 電話二四番

富士櫻 大瓶正宗 **不二酒造會社** 小河原家 廣瀬次郎

德川農場 **淺野保之**

京城西洋料理組合

不動産擔保金融 建物月賦 建築請負 **東京建物株式會社京城支店** 京城府黄金町二丁目五拾五番地 電話本局長一六三八 一八一番

黄海道延安 ㊄**森岡商店** 電話二〇番

黄海道延安邑 食料雜貨品商 **丸山夏平**

延海水利組合 職員一同

黄海道延安邑 精米業 海陸運送 材木商 **清武初太郎**

朝鮮湖南線長城驛前 營業科目 精米 糯米 肥料 [illegible] **長城精米所** 電話八 振替口座京城一三七〇四番

全南長城 **重宗靜**

全羅南道 金融組合理事 **石井清**

全南長城 **佐古利吉** 電話四一番

朝鮮湖南線長城驛前 精米 賣買 鍛冶 **杉浦繁松** 電話五十九番 振替京城一二八五〇番

全南長城 **山田貞三**

朝鮮湖南線長城驛前 **金允會** 精米所 共同運輸組 [illegible]

朝鮮湖南線長城驛前 和洋菓子 砂糖 缶詰 ㊀**井形秀策** 電話七〇番

朝鮮湖南線長城驛前 鐵道局承認店 運輸計算會社契約店 **全南運輸倉庫株式會社**

湖南線長城驛前 米穀 肥料 **宮本英二商店** 電話五十五番 電略（ミ）又（ミヤ）

朝鮮全南長城驛前 **川上醸造場** 川上讃二 電話三十番 電略（カワ） 振替京城八八一四番

全南長城驛前 **徳川農場出張所**

全南長城驛前 第二新天地 **樂天**

太平洋海上火災保險長城代理店 [illegible] **渡邊今藏商店** 電話四十番 振替京城七四二〇番

延安水利組合 支岩出張所 **河合禮吉**

黄海道延安 中華料理 **永昇館**

仁川穀物株式會社 延安出張所 **井上龜雄**

黄海道延安邑 **柴田旅館**

東洋拓殖株式會社 延白駐在所 **志賀龜之進**

黄海道延安邑 雜貨商 **小西源太郎**

黄海道延安邑 ㊎**食堂**

黄海道延安邑 洋雜貨商 **共進商會**

黄海道延安邑 穀物商 **崔承潤**

鮮滿開拓株式會社 延安出張所 **靑柳保八**

海州地方法院延安出張所 **前田初太郎**

延安金融組合 理事 **清水宗基**

延安公立普通學校 **小粟信藏** **古田格** **早津隆平** **上亂勝**

豆滿江材 電柱杭木 其他一般用材 伐採並立木拂下處分 **茂山營林署**

義州郡畜産組合 **義州郡農會** **義州郡森林組合**

義州道立醫院 **佐藤成太郎**

全南長城 **花尾旅館** 電話一八番

全南長城 米穀 吳服商 **佐藤安藏** 電話二十六番 電略サト 振替京城二七四八番

湖南線長城驛前 石炭 精米 肥料 [illegible] **本山重信** 電話五番 電略（モ）又（モト）

全南 **長城郡廳職員一同** **長城郡産業職員一同**

全南長城 **吉田直良**

全南長城 **長城警察署職員一同**

全羅南道 道評議員 **金相弼** 電話二八番

湖南線長城驛前 (大)(通) **長城商事運送合資會社** 電話四六番

全南長城驛前 公醫 **秋山實** 電話三五番

湖南線長城驛前 石炭精米 滿洲特産物商 **森分房太郎** 電話六番・七番 振替京城二〇三〇番 振替釜山一三五七番